

ファミコン冒険ゲームブック③

# ゼルダの伝説

蜃気楼城の戦い



双葉文庫 ゲームブックシリーズ

# Scanned by Melora for History of Hyrule

historyofhyrule.com  
melorasworld@gmail.com

Hey everyone! I'd personally be really happy to see you make scanlations or take portions of this and make fun things and posts with it. The only things I ask are:

1. Try to link back to **historyofhyrule.com**, somewhere, somehow, for credit. This is so people can find more info and other works, reach me if they have questions, or want to contribute other content. It's actually how I've found out about so many of these things and been able to get them to you in turn.
- 2: Please don't just re-upload the whole set somewhere else. This is in case it's re-released officially so I, and my site, don't come into conflict with any publishers or artists for making scans. (Or, if you do use the whole set, because you've made scanlations, just don't use them commercially and take the full set of my scanned images down if you ever hear about a re-release.) In the 20 years I've been doing this I have never once left scans up if something comes back into print again. I only do the scanning work I do because, as an enthusiast, I don't want something that is actually out of print and rare to be lost forever.

Thank you for understanding!  
-Melora

双葉文庫

ファミコン冒険ゲームブック③

ゼルダの伝説/蜃気楼城の戦い

樋口明雄 / S・ハード



双葉社

Legend of Zelda; The Mirage Castle

by Studio Hard Co., Ltd. and

Akio Higuchi

Copyright ©1986 Studio Hard Co., Ltd.

Illustration by Yuko Tanaka

Character and Basic Licenser

©Nintendo 1986

First Published by Futaba-sha Book Co., Ltd.

3-28 Higashi-Gokencho, Shinjuku, Tokyo, Japan

# ゼルダの伝説／蜃気楼城の戦い

## CONTENTS

プロローグ……	4
ゲームの進め方……	8
ゲーム……	18
エピローグ……	266
ハイラル地方地図……	270
ミラージュ・キヤツスル 蜃 気 楼 城 内見取図……	272
作者あとがき……	274
バトル記号表……	276
冒険記録紙……	277

## プロローグ

それは未来でもなく、過去でもない。

また、地球上でなく、かといつて宇宙に散在する無数の星々の中の、いかなる世界の事でもない。

それは君たちの心の中。いつも夢見がちで、冒險の世界に心を翔ばす事の好きな君たちの、空想の中に存在する世界。

その広大な世界の片隅に、ハイラルと名づけられた地方がある。この地方の平和は、トライフォース『黄金の三角形』と呼ばれる不思議な秘宝によつて守られていた。

ある時、闇の世界からやつてきた大魔王ガノンが、トライフォースを強奪。そのためハイラル地方は、怪物の徘徊する魔境と化した。さらにつこの国の王女ゼルダ姫もガノンにとらえられ、デスマウンテン地下の迷宮に閉じ込められてしまったのだ。

風雲急をつげるハイラル地方。ある日そこへやつてきた少年リンク。この勇敢な剣士は、

ハイラルの苦境を知るや、美しい姫君とライフオースを取り返すべく、魔王の牙城へと乗り込んでいった。

様々な危機を乗り越え、彼はついにゼルダ姫を救出、ライフオースを取り戻した。

——と、以上が前回のあらすじ。さて、この物語は、ここから始まる新しい冒険だ。  
ハイラル地方に訪れたつかの間の平和。

それは突如、魔界からやつてきた新たなる敵、魔将軍ガイアによつて破られた。

黒い龍巻と化し、王国を襲つたガイアは、国王グレアムII世の眼前で、あつという間に宮殿を破壊し、『知恵』と『力』のライフオースを奪い去つた。そして、ガイアは奪つたライフオースをそれぞれふたつ、合計4つのパーツに分けてハイラル地方のどこかにかくしてしまつたのだ。

さて、リンク少年とゼルダ姫。ガノンを倒して以来、ふたりは惹かれ合つていた。

しかし残忍なガイアは、彼らにも呪いをかけてしまつたのだ！

呪い——それはクリスタルムーンと呼ばれる水晶球に込められていた。リンクは夜の間、この水晶球に閉じ込められ、ゼルダは昼の間、閉じ込められる。ふたりは夜明けと夕暮れの一瞬に入れ代わる。いつも一緒にいながら、お互に会う事はできないのだ。

こうしてふたりは、再び魔境と化したハイラル地方を舞台に、危難にみちた旅をする事

になつた。

めざすは蜃氣樓城<sup>ミラージュ・キャッスル</sup>。ハイラルのあちこちに、幻のようにこつ然と現われては消える、伝説の城だ。魔将軍ガイアは、その城の迷宮の奥にいる。

ガイアを倒すため、旅の途中で集めなければならぬものがある。それは、トライフォースの4つのパートといくつかの小道具<sup>アイテム</sup>。そして蜃氣樓城の場所を探すための情報だ。最初にふたりが持てる武器は、剣、弓矢、バクダン（5個）しかない。

旅にはもうひとり——ファニーという小さな妖精が同行した。お互の情報を交換できないリンクとゼルダの連絡係。彼女は、ときにはふたりを助け、またときには励ましてくれるに違いない。ファニーはその名の通り——Funny（愉快の意）——陽気な妖精なのだ。呪いのかかつたハイラルは、刻々と滅亡に向かいつつある。木々は枯れ、陽光は陰り、水は干上がりしていく。果たしてふたりは、敵の城にたどりつき、ガイアを倒せるだろうか。すべては君の勇気と判断力にかかる。——

では、冒險の世界への扉を開いてくれ——





## ゲームの進め方

### ●リンクとゼルダのふたりを交互に演じます

この本は、リンクとゼルダのWキャラクターで展開するニュータイプのゲームブックです。あなたは昼と夜の入れ代わりにしたがつて、リンク(昼)になつたり、ゼルダ(夜)に代わつたりしながらゲームを進めていつて下さい。

どちらかひとりだけでは蜃氣樓城を見つけ出すことはできません。ふたりの情報を集めて初めてたどりつけるのです。

ふたりが目指す蜃氣樓城<sup>ミラージュ・キャッスル</sup>は、所定まらぬ漂流城です。どこに現われるかわかりません。なるべく多くの情報を集めておかなければ探し出せません。

情報を教えてくれるのは洞窟や木の洞<sup>うつろ</sup>に住むおじいさんとおばあさん。うまく見つけて聞き出して下さい。

また270ページにある地図も重要なヒントになります。選択に迷つたら地図を開いてみましょう。

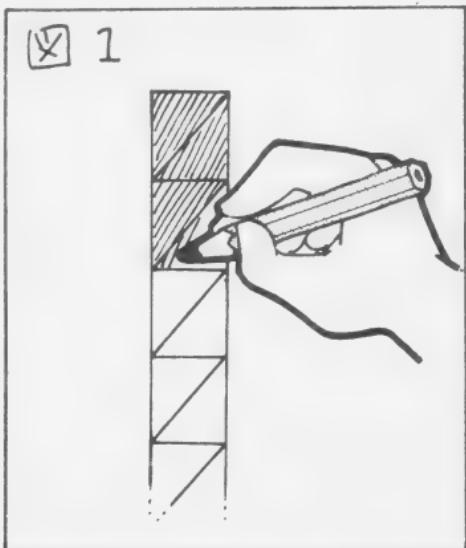
## ●経過日数のチェック

このゲームには、日数制限があります。与えられた日数は10日間。ゲーム進行中、昼と夜が入れ換わるたびに278ページの経過日数ページをチェックしながらゲームを進めます。四角いマス目ひとつが1日です。日がたつごとにぬりつぶして下さい。(図1) 10日をオーバーしてしまうと蜃氣楼城ミラージュ・キャッスルの扉はかたく閉ざされるのです。

道中には、ところどころにワープゾーンがあり、後ろにもどされたり、前に飛んだりします。後ろにもどされると、それだけ余分な日数がかかってしまいます。今まで経過した日数に、もどった場所からかかる日数をプラスしていく下さい。

## ●アイテムチェック

このゲームブックでは、リンクとゼルダが別々に小道具アイテムを取つていきます。敵を倒したり商人から買つたりして得た小道具アイテムは、リンクが取つたものはリンク、ゼルダが取つたも

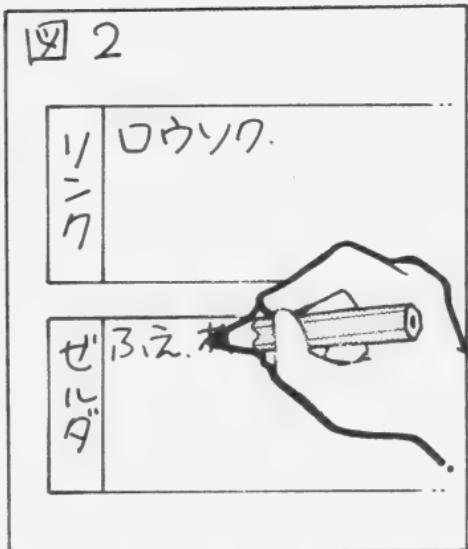


## ●ルビーのチェック

商人から小道具を買う時に必要なのが、この国の通貨ルピーです。

商人が売っている小道具アイテムは、場所によつて値段が違います。なるべく安い品物を探した方が得ですが、高くてもそこで手に入れなければならない物もあります。よくカンを働くかせて買うかどうか決めて下さい。また、お金があれば同時にいくつ買つてもかまいません。

れるたびに書き入れていつて下さい。(図2)



のはゼルダしか使えません。リンクとゼルダ、それぞれのパートで別々に取るようにして下さい。重複して取つてもかまいません。なるべく多くの小道具アイテムを取つていつた方が有利になるでしょう。ただし、ゲームを進めていくと、同じ項目を何度も通る事があります。その場合、前に一度小道具アイテムを取つていれば、二度取ることはできません。そのまま無視して進んで下さい。

277ページに、リンクとゼルダ、それぞれのアイテムチェックシートがあります。手に入

最初、リンクとゼルダがそれぞれに持つているのは20ルピー。小道具を買ったびに、その品物の値段の分だけマイナスしていつて下さい。また敵を倒すと落ちている場合もあります。その時は得た数の分だけプラスします。

278ページにルピーチェックシートがあります。増えたり減つたりするたびに必ず書き入れて下さい(図3)

## ● LIFEエネルギーのチェック

リンクとゼルダのLIFEエネルギー(生命値)はハートの数で表わされています。

その数はバトルの勝敗によって変化します。敵に勝てば増え、負ければ減つていきます。

また、戦わずに逃げ出した場合にも減る事があります。

ハートが減り続け、0になると、それは死を意味し、残念ながらゲームオーバーです。でも、0になる前に妖精の泉にうまくたどりつければ、泉から特別な力を得たファンキーがハートを満杯にしてくれます。

持てるハートの数には上限があります。最初に与えられているハートは5個。途中、何

図3

リンク	5 → □
ゼルダ	5 → 3 → 4



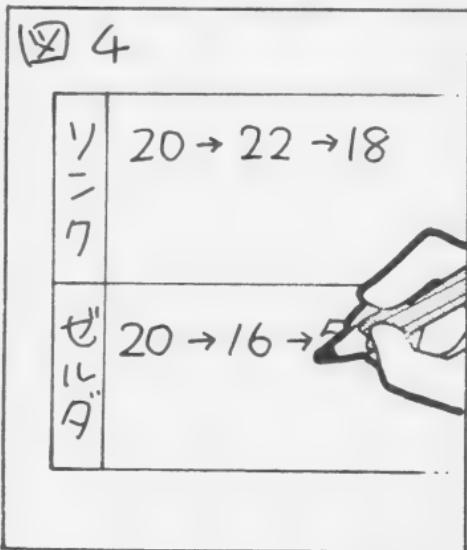
か所かに隠されている命の器をひとつ取ると、  
そのたびに持てるハートの数が増えていきます。  
ファミコン版ゲームでは、1個ずつしか増  
えませんが、このゲームブックでは一度に4個  
ずつ増えます。

ハートの数はたえず変化します。必ず279  
ページのLIFEエネルギー♡チェックシート  
に記入して数を確認して下さい。(図4)

### ● バクタンのチェック

ふたりが得る小道具のひとつにバクダンがあります。簡単な武器ですが、敵を倒すだけ  
ではなく行き止まりの壁をこわして、路を開くこともできる便利品です。

バクダンも、ハートと同じく、持てる数に限りがあります。最初に与えられているバク  
ダンの数は5個。それが命の器をひとつ取るたびに、持てるバクダンの数が4個ずつ増え  
ていくのです。例えば、途中でバクダンを5個見つけたとします。その時、すでにバクダ  
ンを3個持っていて、持てる数の上限が5個なら、2個しか拾えません。それが命の器を  
ひとつ取ると、持てる数の上限が9個になるので5個全部拾えるようになります。



278 ページにバクダンチェックシートがあります。こちらも忘れずにチェックしておきましょう。（図5）

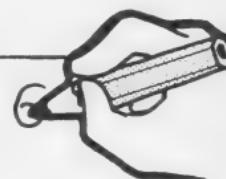
ルピー、ハート、バクダンは、リンクとゼルダが別々に持つてあるものです。それぞれのパートでの増減は、もう一方にはまったく影響しません。いくらリンクがハートを取つても、ゼルダのハートがなくなればそれでゲームは終ってしまうのです。この3つのチェック表はどちらもふたり分用意してあります。必ず別々に記入して下さい。

また、これらの増減がある項目を何回か通る場合があります。その時は、指示通り何度も増やしたり減らしたりして下さい。

チェックが必要な項目には、ゲーム番号の下にチェックのマーク[C]が入つています。このマークのついた項目に来たらよく注意してチェックもれのないようにしましょう。

図5

リンク	5 → 3 → 1
ゼルダ	5 →



## ●ステップメモ

何かの拍子で本が閉じてしまったり、途中でゲームを中断したりして、自分のたどつて来たルートがわからなくなってしまうことがあります。そんなことのないよう、1から順に、通つた項目をメモしておきましょう。リンクが通つたルートと、ゼルダが通つたルートの区別がつきやすいよう、えんぴつの色を変えていくと便利ですよ。279ページのステップメモを活用して下さい。

## バトルの方法

ゲーム中、ふたりはさまざま敵に出会います。すかさずバトルとなりますが、それには3つの方法があります。  
① 小道具で戦う場合  
② バトルポイントで戦う場合  
③ その両方が組み合わされている場合です。



さて、バトルポイントを使う場合ですが、これまでのゲームブックとはルールが違うので、次の説明をよく読んで下さい。

バトルポイントで戦う場合は、文章の最後に A～Oまでのアルファベットで記号がついています。これがこの項目のバトルを表わすバトル記号です。

次に、リンク（あるいはゼルダ）と敵の名前があります。その下の（—）に1～5までの好きな数字をその場の思いつきでひとつ書き入れて下さい。同じ数字を入れてもかまいません。書き入れた数字は両者のポイントになります。

その後276ページのバトル記号表を開きます。その表から、バトル記号を探し出して下さい。そのワクの数字を基本ポイントにプラスします。両者の数値を比べて、9以下でより9に近い方が勝ちです。ぴったり9になつた場合も、



9の勝ちです。ただし9をひとつでも越えたら、越えた方の負けとなります。  
例をあげましよう。バトルナンバーAの戦闘で、リンクの基本ポイントを(4)、敵を(3)  
と設定したとします。

次に276ページのバトル記号表を見ます。Aのワクの数字は、リンク5、敵4ですか  
ら、 $4 + 5 = 9$  VS  $3 + 4 = 7 < 9$ になつたリンクの勝ちとなるわけです。

両者とも9を越えた場合、あるいは引き分けだった場合は、バトル記号表の次のワクで  
もう一度勝負しなおして下さい。これを決着がつくまでくり返します。(Aの次はB、Bの  
次はC、Cの次はD……ときて、Oの次はAにもどつて勝負します)

さあ、いよいよ冒険の始まりです。リンクとゼルダはそれぞれ、剣と矢、バクダン5個  
を装備して、旅立ちます。ふたりが力を合わせて戦う時がきたのです。敵の牙城がじょう 目指して  
スタート!! 健闘を祈ります。

# ゼルダの伝説

—靈氣樓城の戦い —



白い霧が木々の間を流れていた。

草花はすっかり枯れ、荒涼とした原野。かつてここは広大な樹海で、色とりどりの光を放つ妖精たちが木々の間を飛びまわっていたと、誰が信じるだろうか？  
ところどころに立つ枯木は、不気味に枝をくねらせていて。霧の中ではそれらは蒼白い影となつて揺らいでみえた。

トライフォースが奪われて以来、このハイラル地方は刻一刻と死滅してゆくようだ。急がなきやならない。

ぼくは足を早め、石ころだらけの大地を歩いた。いつ濃霧の中から魔物が出現してもいいように、右手は腰の剣にかかっている。ガイアに破壊された宮殿を発つ時、王に授けられた名剣だ。とはいっても、ホワイトソードでないのがちょっと不安だ。

名匠によつて鍛えられ、研ぎ澄ませられた鋼鉄剣も、すべての魔物を倒せるわけじゃない。セラミック鋼から作つたホワイトソードなら、たいていの魔物を倒せる。ましてやザーレの森に棲むドラゴンの骨から削り出したマジカルソードなら、無敵だ。

旅の途中、それらの剣を探すのも、ガイアを倒すためには絶対に必要なことだつた。  
首にかけた水晶球・クリスタルムーンをのぞいてみる。会う事もできないゼルダ姫の面影が浮かぶ。彼女は女の身でありながら、夜という危険な世界の旅人となる。

# 1~3

『大丈夫よ』ふいに心の中でファニーの声がする。『あたしがちゃんと見守つてあげる』  
テレパシーで話しかけているのだ。

この小さな妖精は、居ごこちがいいのか、腰につけたポーチの中にいつも入っている。  
蓋ふたを開けると小さな顔がのぞいた。

とにかく急がねば。ぼくはなおも足を早める。霧はいつまでたつても晴れず、無限の果  
てまで続いているように思える。

## 2

〔C〕

オクタロツクの弱点、小さな眼をねらい、剣を突き出そうとした。その時、足元に伸び  
ていた触手が、あつという間にぼくをからめ取つた。(L—FE エネルギー♡一個失う)  
とつさに剣を持ち替え、巻きついた触手をきり離す。ドサリと地面に落ちたぼく。  
間髪かんぱつを容れず伸びてきた2本目をさけ、急いで逃げ出していった。

▽5へ

## 3

しばらく歩くと、巨大なシユロの木が立っていた。その根元に洞うろがあり、明かりが灯つ  
ている。

●入つてみる ..... ▽151へ ●入らない ..... ▽159へ

この場を去る事にした。

台地を降り、しばらく歩く。目の前に大きなトネリコの木があつたので登つてみた。  
さすがに見晴らしがいい。北には広い海が見えた。東は平野が続いている。そして南は  
——暗雲におおわれた、殺伐とした荒野だ。

ぼくは木を降り、進み始めた。

●北へ ..... ▷ 127へ ●東へ ..... ▷ 264へ ●南へ ..... ▷ 269へ

## 5

森の中を進んでいく。

どこまで歩いても、地中から同じような形をした岩が突き出している。これは何なのだ  
ろう?

ぼくは、はたと足を止めた。目の前の繁みの中から1匹のモリブリンが現われたのだ。  
思わず剣に手を伸ばす。だが様子が変だ。

よく見ると、そのモリブリン。まるで戦う気がないらしい。情けなく両手を合わせ、も  
み手をくり返している。

●近づいてみると ..... ▷ 103へ ●無視する ..... ▷ 91へ



5 ●木々の間から姿を現わしたモリブリン。だが様子が  
おかしい。両手を合わせ、もみ手をしている……。

すごいスピードで飛んでくる、グリオーラの首。ぼくはそれを剣で斬りつけた。強烈な手応え。だがどうした事だ。ホワイトソードは、その首に対して何の効果もない！

勝ち誇ったように、そいつは火の球を吐いた。とつさにかわしたもの、熱波が押し寄せてくる。（LIFEエネルギー♥2個失う）

なおも飛んでくる火の球。それはぼくのホワイトソードを、ぐにやりと溶かした！

（アイテムチェックシートからホワイトソードを消す）

●なおも戦う

→ 205へ

●逃げる

→ 164へ

7

次の部屋へ。

城塞じょうさいを守る騎士、タートナックが3人いる。剣と盾、そして甲冑かっちゆうで武装した強敵だ。出口は東西にあるが、まずこいつを倒さなきや！

●バクダン（一個）を使うなら → 117へ

●剣で戦うなら → 153へ

8

もう一度銀の矢を引き、射た。

- ぼくは出口を選んだ。
- 西の扉から ..... □ 222へ ● 南の扉から ..... □ 161へ
- バクダンを使って北の壁から ..... □ 188へ
- バクダンを使って東の壁から ..... □ 25へ

またもやそれは、一直線にガイアの額へ。  
 だが奴は片手をスッと出し、飛んで来る矢をつかんだ。  
 床の上に2本の矢が落ちる。ガイアは、ゆつくりとイスから立ち上がりつた！  
 笑顔はすっかり消え去り、険悪な表情をあらわしている。  
 そしてこちらへ一步踏み出した――。

### ☆バトルA

基本ポイント リンク（—）ガイア（—）

276ページのバトル記号表を見て、Aの数字を基本ポイントにプラス。

- 勝った ..... □ 143へ ● 負けた ..... □ 24へ

ぼくは嫌な予感がして、とっさに駆け出した。木々の間を抜け、斜面を滑り降りる。長い坂だった。ところどころに突き出した岩に何度も体をぶつけ、うめきながら下へ降りてゆく。ふいに、ぼくは空中へ投げ出された。カラカラに渴いた地面に落下し、激しく腰を打ちつける。

▽250へ

## 11

その部屋はまつ暗だつた。

ライクライク——盾をきを食う怪物が飛びはねているのがかすかに見える。ローソクはあるか？

●YES ..... ▽35へ ●NO ..... ▽111へ

## 12

☆バトルG

基本ポイント リンク( ) モリブリン( )

276ページのバトル記号表を見て、Gの数字を基本ポイントにプラス。

●勝つた ..... ▽247へ ●負けた ..... ▽78へ

# 10~15

せめてバクダンを持つていれば、このドラゴンに一矢報いてやれたかもしれない。  
だが今のぼくには、何の戦法も残されていなかつた。グリオーケはカツと口を開け、灼熱の火球を吐き出した。直撃を食らつたぼくの肉体は、一瞬にして蒸発した。

END

13

それからぼくは、この洞窟のある岩石地帯を後にして、  
●東へ行く ..... ↳ 274へ ●西へ行く ..... ↳ 275へ  
●南へ行く ..... ↳ 41へ ●北へ行く ..... ↳ 257へ

14

ぼくは持つていたローソクを点けた。  
アクオメンタス！ 口からビームを放つ一角獣だ。ヤツはぼくを見るなり、低い声でひと声吠えた。

15

LIFEエネルギーは満杯？

● YES .....

↓ 199へ ● NO .....

↓ 158へ

16

ぼくは引き返し、谷底に向かつた。  
崖の壁面にある細い路を、どこまでも下つてゆく。心なしか寒さも緩んできているようだ。雪もほとんどなくなっている。

谷底へ着くと、岩をくり抜いた洞窟を見つけた。

● 入る .....

↓ 51へ

● 入らない .....

↓ 210へ

17

岩穴を出るか、それとも奥へ進む？

● 出る .....

↓ 79へ

● 奥へ進む .....

↓ 244へ

18

ぼくは身をすくめながら、ひたすら歩き続けた。いつ雷<sup>かみなり</sup>がぼくに落ちるかと不安でならない。

上空の黒雲を見ると、その暗いカーテンの中を何か細長いものが動いている。身をくね



かみなり  
18●雷の平原。上空を見ると、黒いカーテンのような暗雲の中に何かいる。それは黄金色の巨大な竜だ！

らせ、雲と雲の間をゆつくりと渡つてゐる。

それは黄金色に光る竜だつた。そう、雷を発生させてゐるのはこの巨竜なのだ！

空にいる敵を討つには矢がいる。それも飛距離と威力が3倍という銀の矢が！

●銀の矢を持つてゐる ..... ⇣ 204へ

●剣で戦うしかない ..... ⇣ 228へ

●武器はすべて捨ててゐる ..... ⇣ 89へ

## 19

出口は北と南。どちらへ行けばいい？

●北へ行く .....

⇨ 70へ

●南へ行く .....

⇨ 223へ

## 20

しばらく旅を続けたぼくは、野原の真ん中で立ち止まつた。

「ファニー、遠くに何があるか見てくれるか？」

『うん。いいよ』肩にとまつていた彼女は、返事をして羽ばたき、空高く舞い上がつた。やがて降りてきて彼女は言つた。

『地平線ばかりよ、リンク。南は不気味な雲が渦巻いてるわ。どうする？』

「うん……」ぼくは考えた。

# 18~23

● 東へ行く ..... ↓ 257へ

● 南へ行く ..... ↓ 275へ

● 西へ行く ..... ↓ 208へ

2  
1

● 単純に扉から出ず、どこかの壁にバクダンを使ってみたらどうか？

● バクダンを持つている ..... ↓ 252へ

● 持っていない ..... ↓ 208へ

2  
2

扉は北と西にあつた。

● 北の扉から出る ..... ↓ 69へ

● 西の扉から出る ..... ↓ 189へ

2  
3

ぼくは足をとめた。

白い霧の向こうで、何かが動いた。毒々しい赤い色が、枯木の向こうに一瞬見え、すぐに白い世界に消えた。

剣をさやから抜く。手のひらが汗ばんでいる。ゆっくりと歩いていった。

ふいにズルリと音がした。重たく湿り気のあるものが、地面をはう音。

ぼくは緊張した。濃霧の中で赤い塊かたまりがうごめいた。怪物ダコ・オクタロックだ！

そいつはなんと、頭だけでもゾウほどの大きさがあつた。見た事もないほどの巨大さだ。足は12本。根元へ行くほど大きな吸盤がビックシリと並んでいる。そのすこし上方に花びらのようなくちばしがあり、せわしなく伸縮をくり返している。

鋭い音がして、近くの枯木がへし折れた。赤い足が3本ばかり、その木に巻きついていた。

と、突然オクタロツクは口から岩石を吐き出した！

危ないッ。ぼくはとつさに身をかわした。身につけた武器を確かめてみる――。

●弓を使って戦う：

□101へ

●強力な武器がないので逃げる事にする

□82へ

ガイアはその場で両手を天に向け、かざした。

一瞬後、この大広間全体が火炎地獄となつた。

灼熱の炎の中、ぼくはなすすべもなくひと握りの灰と化した。ゼルダはそれをほんやりながめている。

## 2 4

END

25

C

東の壁にバクダンを仕掛けた。

爆音と共に、岩の塊かたまりが飛び散つた！（バクダン一個失なう）  
そこにはポツカリと穴が開いていた。

▽130へ

26

C

階段を上り終え、膝ひざを突いて深呼吸。

頂上は人が数人立てるひろさの平面だった。とはいっても、下界を見下ろすと、景色がぐるぐるまわって見える。相当な高さだった。

風にさらわれないよう、身を低くして様子をさぐる。足元の——透明な水晶の床の下に、  
黄金の光！　トライフォースだ。

ぼくは剣を使い、それを掘り出そうと試みる。だが刃をいつこうに受けつけない。  
ぼくは剣を大きくふりかざした。

トライフォースの上に思いきりたきつける！

無数の宝石が碎け散つた。一念が通じたらしい。ぼくは水晶の床の割れ目から、トライ  
フォースを取る。“力”的断片だ！（力のトライフォース入手。チェッククリストに記入。ただ  
し、一度ここを通った人は取れません。）

▽62へ

次の部屋に入った。

とたんに異様な光景が目に入る。その部屋の中を、何かが輪になつて飛びまわつてゐる。目玉の化け物、パタラだ。輪の中心にひとまわり大きな目玉がいる。それがボスだ。

ぼくは剣をぬく。

こいつをやつつけないと、ゴールまで行けそうもない。

### ☆バトルK

基本ポイント リンク（—） パタラ（—）

276ページのバトル記号表を見て、Kの数字を基本ポイントにプラス。

●勝つた

…⇨171へ

●負けた

…⇨251へ

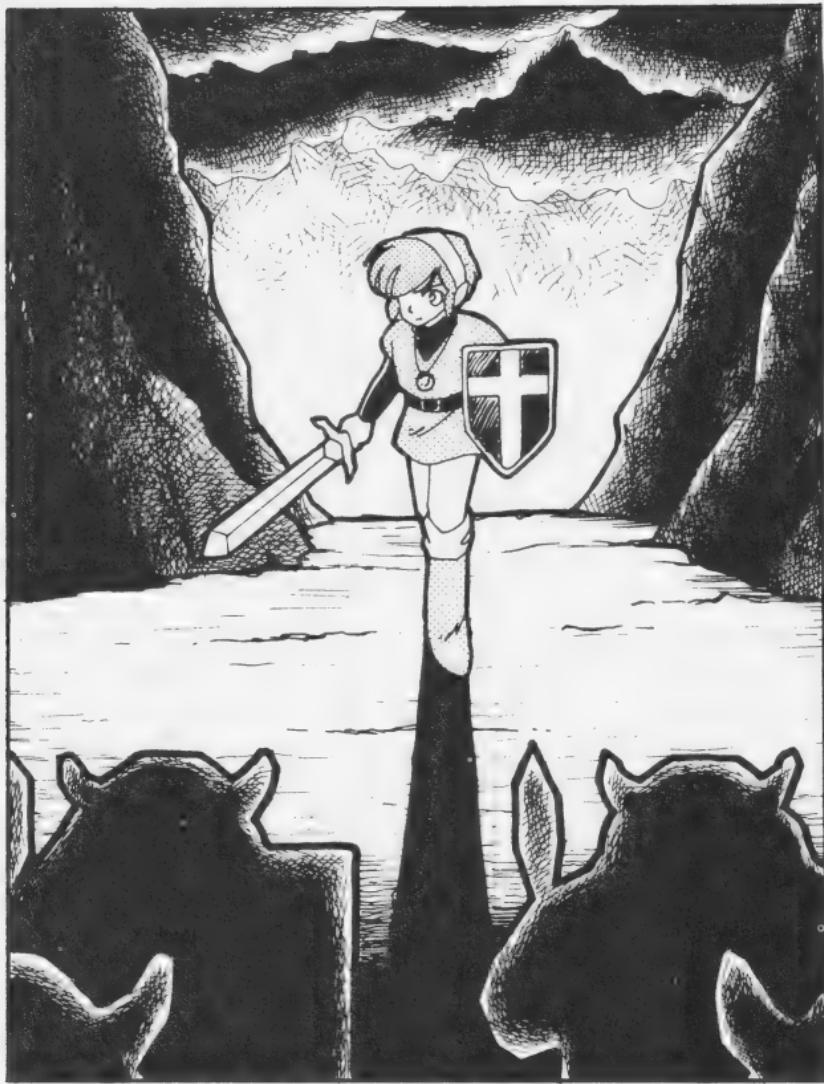
28

ぼくは荒野を歩いた。

ファニーが飛びながらついてくる。

やがて道は登りになつた。つま先上がりの坂を登りきると、黒雲の下、石化したアモスの像が10体。2列になつて並んでいる。

アモスとは甲冑かっちゆうを着た兵士。普段は石になり、このように整然と並んで立つてゐる。と



28●ぼくは岩だらけの台地へ来た。黒く渦巻く雲のたれ  
こめるもと、石化したアモスの像が並んでいた！

ころが何かのきつかけで動き出すのだ。

アモスの方へ飛んでいこうとしたファニーを、ぼくはあわてて止めた。さわらぬ神に何とやら、だ。

だが待てよ。虎穴に入らずんば虎子を得ずともいうな。どうする？

▽

●アモスの像に触れてみる……

▽

●像を迂回して、その向こうへ行く……▽73へ ●やはりこの場を去る……▽4へ

## 29

まっすぐ歩き続けた。

すると前方で、道がふた股に分かれている。右と左、どっちへ行こうか。

●右へ行く ..... ▽149へ ●左へ行く ..... ▽56へ

## 30

□

巨大なハサミの攻撃をかわす。間合いを取り、すかさず剣で突く。テスチタートは苦し  
まぎれに、ハサミから光球を放つてくる。だが当たりはしない。

その食肉植物にトドメを刺した時、ぼくは岩でできた床の上に、ルピーを5つ見つけた。

(5ルピー得る)

▽17へ

# 28~32

3  
1

C

ぼくは老婆に矢をやつた。

すると彼女は、革の袋をぼくによこした。中を見ると、銀の矢数十本とバクダン10個が入っている。（銀の矢とバクダン入手。アイテムチェックシートに記入）

「それをあんたにやるがや。それからもうひとつ、とつておきの情報だ。この悪魔の塔の頂上に、トライフォースゆーもんが隠されとーがや。行つてみれ」

ぼくは老婆に頭を下げ、歩き出した。

▽79へ

3  
2

C

バクダン3個に火をつけ、次々と投げつけた。すさまじい爆発音と共に、部屋中火の海となつた。崩れた天井から石のかたまりが降りそそぎ、床には巨大な穴が開く。

ゴーマは跡かたもなかつた。（バクダン3個失う）

ところでぼく。この勇敢なリンク様がどうなつたかというと……。実は隣の部屋にちゃんと逃げていたのさ。（LIFEエネルギー1個得る）

ぼくは――

●北の扉から逃げていた ……▽122へ ●南の扉から逃げていた ……▽94へ  
↓  
↓137へ

やがて霧が晴ってきた。

ぼくは池のほとりに立っていた。

ファニーがポーチの中から頭を出した。

『ここは昔、あたしたちの仲間がたくさん住んでいたの。でも今はもう死んだ池にすぎないわ』

水はどんよりと濁り、時々底からガスの泡がポコポコと湧き出している。

ぼくとファニーが、肩を落としてその場を去つたのは、いうまでもない。

- 東へ進む ..... ↪ 41ヘ
- 北へ進む ..... ↪ 275ヘ
- 南へ進む ..... ↪ 264ヘ

### 3 4

[C]

ぼくはバクダンに火を点け、蛇どもの真ん中に転がした。(バクダン2個失う)

大音響と共に、ロープは吹っ飛んだ。そしてその余波は、洞窟の天井を崩壊させていた。逃げるヒマもなかった。ぼくの頭上に、崩れた巨大な岩が降りそそぐ。

LIFEエネルギー♡は5個以上ある?

- YES ..... ↪ 195ヘ
- NO ..... ↪ 155ヘ

35

ぼくはローソクを点け、闇にかざした。

何と！ 部屋にいるのは、ライクライクだけじゃなかつた。壁の近くに、恐ろしい化け物・ウイズローブがいたのだ！

36

その答えは「影」だ。

きみは正解だつたか？

●正解 ..... ⇄ 192へ ●違つていた ..... ⇄ 115へ

37

ぼくは剣をぬき、オクタロックに立ち向かつた。迫り来る触手を斬り払い、弱点の眼を狙う！

☆バトル〇

基本ポイント リンク（） オクタロック（）

276ページのバトル記号表を見て、〇の数字の基本ポイントにプラス。

●勝つた ..... ⇄ 58へ ●負けた ..... ⇄ 2へ

33～37

37

剣をにぎる手に力をこめ、ぼくはアモスの群れに飛びかかった。

勝負は一瞬のうちに終わつた。10体のアモスの死体の中、ぼくはひとり肩で息をしながら立つてゐる。(LIFEエネルギー♡1個得る。2ルピー得る)

その時、目の前に地下への入口があるのを見つけた。さつきまでアモスの像があつた場所に、その四角い穴は開いていた。

●入る

▷92へ

●入らない

▷4へ

### 39

イチかバチか。運が悪きや雷に打たれて死ぬまでの事さ。

ぼくは金属の小道具(アイテム)を身につけたまま、薄暗い平原に踏み込んでいった。上空で轟く雷鳴は、いよいよ激しくなつてくる。

目の前には、黒焦げになつた立木が何本もある。突如、雷がはげしく鳴つた。

●LIFEエネルギー♡5個以上▷18へ ●LIFEエネルギー♡4個以下▷163へ

### 40

魔将軍ガイアを倒すには、姫の力も必要なんだ!

ゼネラル

ぼくはゼルダを救出しようと思つた。

そのためには――

●マジカルロッドを使う ..... ↳ 64へ ●ふえを使う ..... ↳ 176へ

## 4 1

断崖の中腹にある細くけわしい路。

時折、下から吹きつけてくる風に、何度もバランスを崩しそうになる。足元を見ると、はるか下方の渓流が揺いで見える。

道は葛折りに曲がりながら、崖の上まで続く。登り終え、ため息をついて眼下の地獄を見下す。それからまた歩き出した。

低い丘を越えた時、目の前に奇妙な光景が現われた。

角柱が何本も、それぞれ寄り沿うようにして立っている。その1本1本は、天をも突かんばかりに大きい。まさにそれは空を支える巨大な柱の群れだつた。

近づいてみてさらに驚いた。その角柱は、全て水晶だつたのだ。

その水晶の林の手前、地面上にポツカリと開いた穴。

ぼくは――

●その穴に入つていく ..... ↳ 134へ ●入らない ..... ↳ 132へ

4  
2

C

けんめいに戦つた。

でも多勢に無勢だ。ぼくは2体のアモスをやつつけたけど、他のアモスたちが2度もぼくを斬りつけた。(L-FEエネルギー♡2個失う)  
よろめきながら、ぼくはその場を逃げ出した。

●北へ行く……△127へ  
●南へ行く……△269へ  
●東へ行く……△264へ

4  
3

C

LIFEエネルギーは満杯。

ぼくは剣を抜き、ロープたちに向かって。気合いと共に念じる。同時に剣先から放<sup>はな</sup>たれた

勝負はあつという間に終わっていた。  
(2ルピー得る)

↓ 86 <

4  
4

C

飛びかかってきたバイアを、一刀のもとに斬<sup>さき</sup>つた。するとそいつはポンと音をたて、煙に包まれた。その中からコウモリが2匹。  
バイアは2匹のキースになつた！

# 42~46

剣をふりまわすが、キースはそれをたくみにかわし、首筋に噛みついてきた。（LIFE エネルギー♡一個失う）ぼくはあわてて逃げ出した。  
▽128へ

45

□

バクダン5個。出血大サービスだ。（バクダン5個失う）

突進してくるドドンゴの前に、ぼくは次々と転がしていく。するとどうだ。あいつめ、それをエサと間違えてかたづぱしから食つちまつたじやないか！

しばらくして、ズンと鈍い音がした。同時にドドンゴは口から火柱を吐き出した。それだけじやなかつた。怪物はそのまま後ろ向きに天井をぶち抜き、城の外へ飛んでいった。  
ぼくは呆然として、天井の大穴を見つめた。（LIFE エネルギー♡2個得る）

▽22へ

46

ぼくはまた霧の荒野を歩き始めた。次第に霧は晴れだした。

東に険しい山並みが見える。南を見ると、だだつ広い空が果てしなく続いている。そして後ろを振り返ると、枯木の間を、乳白色の濃霧が渦巻いているのが見えた。  
東と南、どっちへ行こう？

● 東へ歩きだす ..... ↓ 226へ ● 南へ歩きだす ..... ↓ 254へ

4 7

ぼくはまた旅を続けた。

● 南へ行く ..... ↓ 261へ ● 北へ行く ..... ↓ 273へ ● 西へ行く ..... ↓ 258へ

4 8

〔C〕

思いがけない苦戦だつた。

ウイズローブは現われては消え、四方八方から呪文を放<sup>はな</sup>つてきた。

剣を突いたとたん、奴はまた消えた。そのとたん、背後から呪文が！ ぼくはうめいて倒れる。(LIFEエネルギー♡一個失う)

ぼくを倒したと思ったのだろう。その時、敵にスキが生じた。

ぼくは気力をふりしぼり、目の前の扉に突進した。

● 東の扉へ ..... ↓ 27へ ● 西の扉へ ..... ↓ 65へ

4 9

ぼくはスラリと剣を抜いた。

モリプリンめざして走り出したとたん、風を切つて飛んできたものがある。矢だ！

## 46～50

それはぼくの耳元をかすめて後ろへ抜けていった。しまつた。ヤツらの武器は飛び道具だ。

●ぼくは剣を地に突き立て、敵と同じ武器をかまえた。弓に矢をつがえ、力一杯引き絞る。  
●マジックシールドがあれば □249へ ●なければ ..... □84へ

5  
0

果てしなく広がる熱砂。

ぼくは砂漠のど真ん中にいる。水の妖精ファニーはしきりにのどの渴きを訴えている。  
が、オアシスなんてどこにもない。

ぼくはよろめくよう歩いた。頭上の太陽と、地表からの熱で、体中の水分が蒸発していくようだ。

ふいに幻影が見えてきた。目前で七色の光がユラユラ揺れている。その中にほんやりとかすむ大きな.....城塞。

「あつ!!」

ぼくは叫んだ。あれは——まさに蜃氣樓城ミラージュ・キャッスルだ!!  
(いよいよ敵の城に乗り込みます。ただし、ここで今までの旅の日数と、トライフォース  
が全部そろっているかを確認して下さい。)



50 ●熱砂の中、ユラユラとゆれる七色の光。その中に現わ  
ミラージュ・キャッスル  
れた蜃 気 横 城！ そう。ついにたどりついたのだ。

# 50~51

- “知恵”と“力”的トライフォースがそれぞれ2枚ずつ合計4枚そろっていて、10日以内でたどりついているなら……⇨212へ
- トライフォースが一枚でも欠け、また10日以上かかっていたら……⇨102へ

51

〔C〕

蒲暗いその洞窟に入つていつた。

突き当たりに部屋があり、松明<sup>たいまつ</sup>がふたつ燃えている。そこに赤い僧服の老人<sup>が</sup>いた。

「若者よ」低い声が響いた。「何をさがしておられるか？」

「蜃氣<sup>ミラージュ</sup>・樓城<sup>キヤッセル</sup>を探しています。もし存じなら教えていただけませんか？」  
すると老人はニヤリと笑つた。墓石<sup>もしゃ</sup>のような前歯<sup>ろしゆつ</sup>が露出した。

「あの城はバリアに包まれておる。ところがそのバリアを食つちまう生物<sup>が</sup>、このハイラルにはおるでな。それは空飛ぶ食肉植物——」

「ピーハット」とぼくはいつた。

「あーたりー」どこから出したのか、老人はドラを打ち鳴らした。

「その通り。だから城は、ピーハットのおる所には出現せんのよ」

「もうひとつ。この谷の南に滝がある。そこをくぐつて行くがよい。いいものがあるぞ。

それから、これは魔法のハシゴじや。必ずあとで役に立つじやろう」

「ありがとう」ぼくは礼をいった。（ハシゴ入手。チェックシートに記入）  
「よいつて事じや。旅ゆけば、いづこにあるのか蜃氣楼」そういつて老人は、ドラを鳴らした。

ぼくは歩き出し、そして突然振り返った。

「蜃氣樓しじきろう、ああ蜃氣樓しじきろう、蜃氣樓しじきろう——お粗末そまつさまでした」

老人は、頭をドラにぶつけた。

②210へ

## 52

〔C〕

剣をふり、ピーハツトどもに斬りつける。斬つても斬つても、どんどん新手あらてが来る！

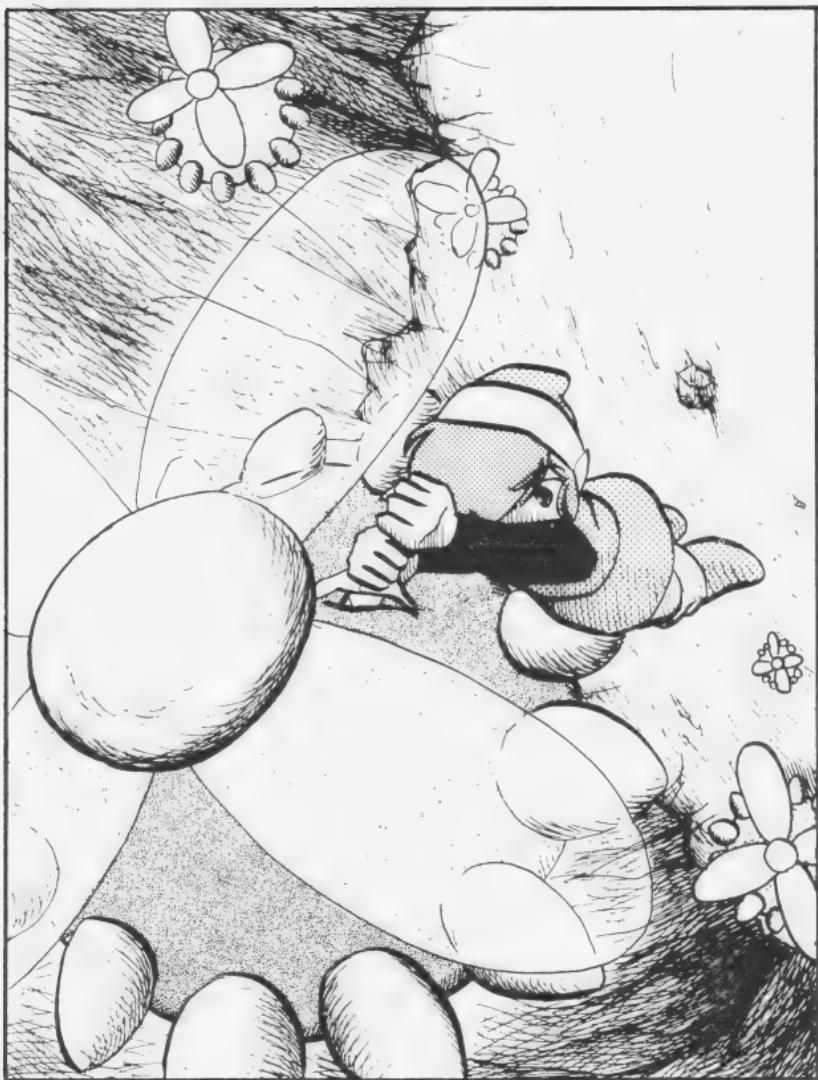
下方からせまつてきたヤツに、思いきり剣を突き刺す。そいつは苦しまぎれに、死にもの狂いの上昇を始めた。

わっ！ ぼくは剣をつかんだまま、ピーハツトにぶらさがる。そのままどんどん上がつてゆく。

うまい。このまま頂上へたどりつけそうだ。

ぼくはうまくタイミングを見計らい、岩場に跳んだ！ 崖つぶちにはつしとしがみつく。そのまま体を引きずり上げ、頂上へ。

そこに光る黄金の3角形。力のトライフォースのひとつだ！ （力のトライフォース入



52 ● がけ 崖を登る途中、ピーハットが襲来。剣を突き立てる  
と、そいつはぼくをぶらさげたまま、上昇し始めた。

手。チェックシートに記入。ただし、一度ここを通った人はとれません。)さて、下りが大変だつた。

トライフォースを荷袋に入れ、岩場を少しづつ降り始める。

ピーハットがまた襲つてくる。剣をふりまわして追い払い、少しづつ降りてゆく。何とか地上へ戻ることができた。

▽152へ

### 5 3

□

手頃な武器が見つからず、弓矢を使って2匹のゾーラを倒した。急いでイカダをこぎ始める。

だが敵も必死だつた。イカダを引つくり返そうとする奴。這い上がろうとする奴。ぼくは弓と剣を使い、戦つた。

陸地が近づくにつれ、ゾーラの攻撃は激しくなる。ふいに背後から、敵の光球が飛んできた。

ぼくはそれを左肩にくらい、倒れた。(LIFEエネルギー♡一個失う)

ダメだ、と思つた瞬間、イカダは浜へ打ち上げられていた。

なおも飛んでくるゾーラの光球をさけつつ、ぼくは砂浜を走る。

▽229へ

# 52～56

5 4

ゴーマはその巨大な眼からビームを放ちながら、次第に近づいてくる。  
ぼくはとつさにバクダンを出し、火をつけた。耳をふさいで待つ。

DOKAN!!

轟音ごうおんと共にゴーマは吹っ飛んだ。そしてその衝撃の余波は、この洞窟のもろい岩天井を崩すのには充分すぎるほどだつた。

ぼくは落下してくる巨大な岩に押しつぶされ、生き埋めになつてしまつた。

END

5 5

C

北側の壁にバクダンを1個置いた。轟音ごうおんと共にがれきが飛び散る。すると、そこに大きな穴が開いた！（バクダン一個失う）

▽142へ

5 6

C

左の道を行つた。少し歩くと、突然大きな部屋に出た。岩をくり抜いた無機質な部屋。真ん中に大きな石のテーブルがあつた。

その上にあつたのは——命の器うみわ！　ぼくが喜び勇んで、その思いがけないプレゼントを

もうつたのはいうまでもない。（命の器ひとつ入手。持てるハートとバクダンの数が4つずつ増える）そしてこの部屋の先に、出口があつた。

▽14へ

## 57

〔C〕

剣を抜き、闇の中に足を踏み入れる。

突如轟く恐ろしい咆哮！ そして同時に、輝く3つのビームが飛んできた。

ぼくはよけきれず、それをもろに食らつた。（LIFEエネルギー♡一個失う）

敵は一角獣アクオメンタスに違いない。ぼくはあわてて引き返した！ ▽169へ

## 58

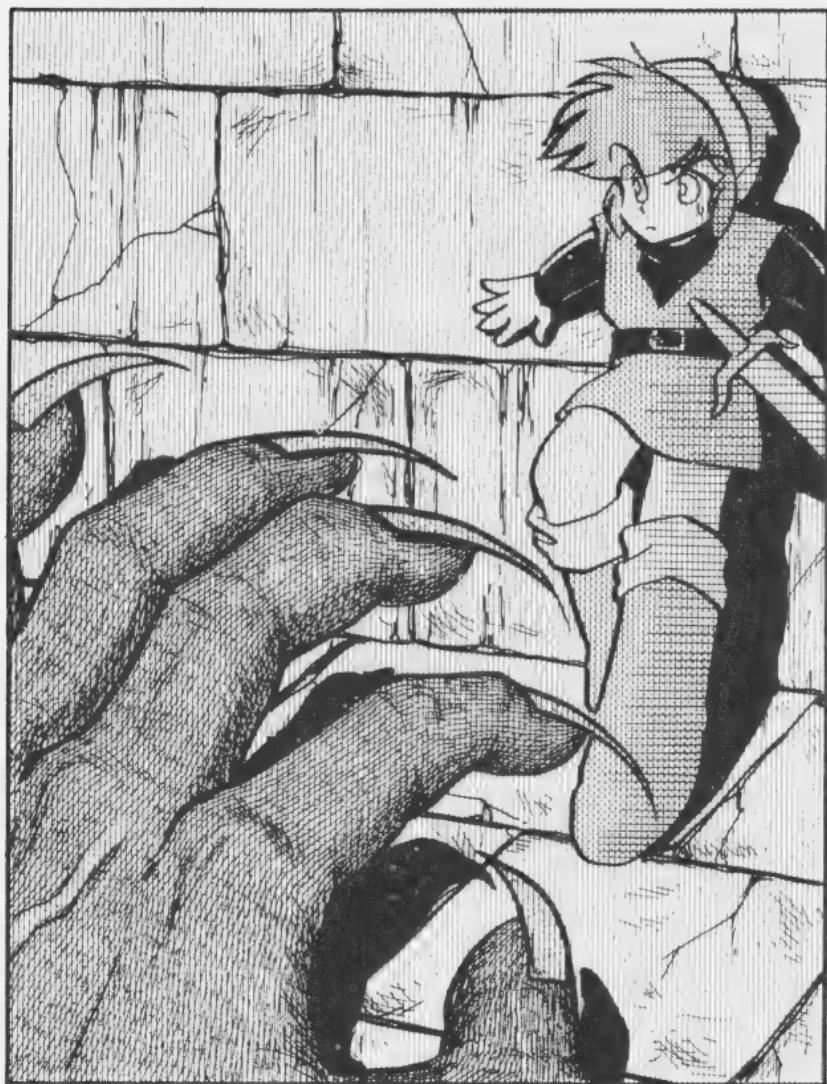
〔C〕

オクタロックは口から岩を吐き、ぼくをつぶそうとした。その2発目をよけざま、ぼくは怪物の弱点——眼を狙つた！

やつた！ 目をえぐられたオクタロックは、触手を激しく振りまわし、木をへし折り、大地を叩いた。やがてそいつはピクリとも動かなくなつた。（5ルピー得る） ▽5へ

うーむ。命の器なんていう大事なものが、こんなにたやすく手に入るワケがない。買わなに

## 59



59●命の器<sup>うつわ</sup>なんて、うまいワナに決まっているさ。遠回りして歩いていると、突然ウォールマスターが出現。

決まっている。

ぼくは用心しながら、壁に沿つて歩いた。それでも視線が部屋の中央へ行つてしまふ。修業が足りないぞ、リンク！

その時だつた。突然、近くの壁から、半透明で青白い、巨大な手が出現した。それはまさに、壁を抜け出てきたのだ！ 手の妖怪、ウォールマスターだ！！

☆バトルG

基本ポイント リンク（） ウォールマスター（）

276ページの記号表を見て、Gの数字を基本ポイントにプラス。

●勝つた……………▽193へ ●負けた……………▽238へ

60

ぼくは10ルピー持つていなかつた。

「ではゆくぞ少年。第3問！」

かくしてぼくは、このままえんえんとナゾナゾを解き続けるのだつた。

王国が滅亡してしまう前にトライフォースを奪い返すことも、敵を倒すこともできなかつたのはいうまでもない……（？）

END

61

バクダンを3個使う？ それとも2個でよいか――

- 3個使う ..... ↓32へ
- 2個で充分ですよ ..... ↓162へ

62

ぼくは水晶の塔を後にし、旅を続けた。

- 東へ行く ..... ↓258へ
- 西へ行く ..... ↓229へ
- 南へ行く ..... ↓259へ
- 北へ行く ..... ↓145へ

63

弓を構え、テクタイトどもを狙う。ねら

2匹倒した時、ヤツらは逆襲に転じてきた。ぼくはあつという間に取り囲まれる。ピンチだ！ 剣を鞘から抜き、ヤツらを迎撃つた！

☆バトルB

基本ポイント リンク（） テクタイト（）

276ページのバトル記号表を見て、Bの数字を基本ポイントにプラス。

- 勝った ..... ↓253へ
- 贠けた ..... ↓177へ

ぼくはマジカルロッドを手にし、セルダに向かた。ロッドが光り輝き、その光が彼女に向かつて走る。

だが、ゼルダは依然、うつろな瞳で立つていて。何の効果もない！！  
出しぬけに笑い声が起ころ。ガイアだ。ヤツはぼくを見すえ、片手の人差し指を突き出す。

そのとたん、指先からほとばしつた炎の帶が、ぼくにぶち当たつた。とつさにマジカルシールドでふせいだおかげで、生命だけは助かつた。しかしひどい火傷だ！（LIFE

エネルギー♡2個失う）

▽176へ

6  
5

その部屋は薄暗かつた。松明たいまつが灯り、老人がすわつていた。

「よくぞ、ここまで來た」老人は物静かにいつた。

「お主は真の勇者じや。ガイアを倒し、姫を救い出して、ハイラルを復活させてくれ」  
ぼくはうなずいた。

「ところで、最後の戦いの前に持ち物チェックじや」

「え？」

「お主、今からいう小道具アイテムをちゃんと持つておるかの」そして老人は名前をあげた。  
「マジカルソード、マジックシールド、マジカルロッド、銀の矢、ふえ。何か欠けておるものはない？」

- もし欠けている物があれば、小道具アイテムを取りに戻らねばなりません。……………▽167へ
- 欠けているものはない………………………………………………………………………………▽185へ

## 6 6

〔C〕

ぼくは残る最後の手——バクダンに火をつけた。大きくふりかざして投げつける。それは白煙をひき、グリオーラの上を飛び越していく。(バクダン一個失う)

だがねらいがはずれたわけじゃない。それどころかねらつた通りの場所へ落ちたのだ。  
轟き渡る爆発音。山びこが何重にも重なり共鳴する。そして——グリオーラのそば、巨大な氷壁は、亀裂きれつが走り、崩れ始めた。

無数の氷のかたまりが落下した。それは下にいるグリオーラをあつという間に生きうめにし、やがて沈黙した。

怪物のいた所に、ルピーが10個落ちていた。(10ルピー得る)

ぼくは走った。蜃氣樓城ミラージュ・キャッスルは、今、目前にあつた！

▽164へ

ぼくはひとつ首を狙い、エイとばかりに斬り落とした。すかさず次を狙う。その時だ。石畳の上に落ちていた首が、宙に浮かんだ。

振り返る間もなかつた。

首はカツと口を開け、ビームを放つた。

一瞬にして炎に包まれ、ぼくはその場に倒れた。

END

68

〔C〕

バクダンを使う事にした。

ポルスボイスは音に弱い。バクダンの炸烈した音でもきくはずだ。

襲つてくるポルスボイスに投げつけたバクダンは、怪物の真下で火柱を吹き上げ、爆発した。

耳をつんざく爆発音。そして煙が晴れた。（バクダン一回失う）

気絶しているキツネ面に目もくれず、その部屋にある隠し扉を探しにかかる。でもどこにも見当らない。仕方なく、もと来た穴から外へ。そしてもう一度出口を選んだ。

□9へ

# 67~70

6  
9

C

次の部屋へ入つた。

突然、左右からするどい刃で刺され悲鳴をあげてしまった。

トラップというやつかいなしろもの。壁ぞいに飛んできて、人を刺す罠だ。（L—F E工

ネルギー♡一個失う）

部屋にはデグドガという化け物がいた。ウニが進化したもので、ひまわりの花に似た体の真ん中に大きな目がある。

こいつは大きな音に弱いはず。

●バクダン（2個）を使う

…↓95へ

●ふえを吹いてみる

…↓125へ

●どちらもないので目の前にある扉を開けて逃げる

…↓122へ

北の扉の前へ立つ。

ところがこの扉。ビクともしない。

鍵がいるわけか——。

●マジカルキーを持っていれば ↓80へ

●持っていないければ

…↓223へ

7  
0

やばい。この洞窟でバクダンなんぞ使うと、生き埋めまちがいなしだ。  
ぼくはクルリと背を向け、一目散に逃げ出した。

洞窟を出る寸前に左脚に激痛を感じ、うめいた。ゴーマが目から発進するビームが当たつたのだ。（LIFEエネルギー♥一個失う）

●左側の洞窟へ入つてみる → 224へ ●この場を去る ..... → 20へ

## 7-2

ぼくは、マジカルロッドを取り出した。

その不思議な棒を宙にかざす。するとロッドは青く光り始めた。

飛びまわるキースの群れは、その光が恐ろしいのか近づく事もできない。  
光が青から赤に変わった！ とたんに化け物コウモリたちは、いつせいにきりもみ状態で落下を始めた。

このロッドから発される光には、呪文の効果がある。小道具の中でも、最も強いとされる武器のひとつだ。（LIFEエネルギー♥一個得る。5ルピー得る）  
キースどもがいなくなると、ぼくはロッドをしまい込み、再び頂上をめざし始めた。

→ 26へ

アモスの像に触れないよう、迂回して歩き、向こう側へぬけた。

岩のアーチがぼくを待っていた。

それをくぐりぬけ、岩場にはさまれた道を進む。ふいに視界が開ける。

そこに泉があつた。

この荒れた土地にあつて、まるで違う世界にでも来たような美しいオアシス。水は澄み、泉のまわりには原色の花が咲き乱れている。

引き寄せられるように、ぼくは泉のほとりに歩いていった。

ふいに七色の光が舞い、ファニーは泉の方に飛んでいった。彼女は水の中に飛び込み、元気づいて戻ってきた。

ぼくの前に飛んでくると、小さなステイックを振る。

ぼくは自分のエネルギーが満たされるのを感じた。(持てる♡の数だけ、LIFEエネルギーを満杯に)

さて、アモスの像の並ぶ場所に帰ってきたぼく。この像たちには、何やら秘密がありそうなんだが……。

●像に触れてみる ..... ↳ 170 ヘ ●やめてその場を去る ..... ↳ 4 ヘ

LIFEエネルギーは満杯だ！

剣のビームで戦えるぞ！

竜はこつちに向かい、雲間をまつすぐ進んできた。

全身は金色に輝き、時おり稻妻を放つてゐる。

□173へ

## 75

ちよつと待てよ。このまま渡つていいものだらうか。

ぼくは急に不安になつた。

その時だ。甲冑かっちゅうを着たひとりの剣士がぼくのすぐそばを通り過ぎ、吊り橋を渡り始めた。剣士が吊り橋を半ば渡つた時、対岸から杖を突いた老人が出てきた。ふたりは橋の中ほどで向き合い、何か話合つてゐる。

——と、突然剣士が悲鳴を上げた。

同時に天からものすごい勢いで竜巻きが降りてきた。それは剣士を包み込むや否や、あつという間に空高く持ち上げていつた。

老人はいつの間にか消え、谷に静けさが戻つた。

●橋を渡る

··· ⇄ 139へ

●渡らないで去る

··· ⇄ 47へ

山のまわりをピーハットが飛びまわっている。この空飛ぶ食肉植物は、しつこく攻撃を仕掛けてきた。剣を振りまわし牽制する。

悪魔の塔。この岩山の頂上は平らなようだ。

登つてみたいが、道はない。どうしよう。

●何としても登る

··· ⇄ 99へ

●あきらめてほかへ行く

··· ⇄ 152へ

77

手紙を持っていた。

それを渡すと、老婆は矢をくれといつた。交換にいいものをくれるというのだ。

●矢を差し出す

··· ⇄ 31へ

●やめておく

··· ⇄ 79へ

78

ぼくは、モリプリンに向け、ひたすら矢を射た。

だが、敵の数はあまりにも多すぎる。正面の濃い霧の中から、整然と並んだ5体のモリ

プリンが現われ、一勢に矢を放ってきた。

そのうち3本の矢が、ぼくを貫いた。1本は胸、1本は腹、そしてもう1本は眉間。<sup>みけん</sup>ぼくはその場に崩れながら、残されたゼルダ姫の事を思っていた。

END

7  
9

ぼくはその岩穴を出ていった。

▽76へ

8  
0

その部屋に入つたとたん、ぼくはギョツとなつた。今までとはうつて変わつて、真つ暗な部屋だ。闇の中に光るふたつの眼。

あれは一体、何だ!?

●ローソクを持つていれば …… ▽15へ ●持つていなければ …… ▽214へ

8  
1

C

ブーメランをよけ、剣で斬りつけようとした。ところがそれは大変なミスだつた。  
獲物<sup>えもの</sup>に当たらず反転してきたそれは、ぼくを背後からとらえた。強烈なショックに目を



81 ●飛んできたゴーリアのブーメラン。それは空中で反転し、ぼくを背後から襲ってきた。イテーッ!!

まわし、ひざをついてしまう。（LIFEエネルギー♡一個失う）  
とつさにぼくは――

●西の扉から逃げた……………▽7へ ●南の扉から逃げた……………▽142へ

## 82

『逃げた方がいいよ、リンク！』ファニーがいった。腰のポーチから顔をのぞかせている。  
『そいつは普通のオクタロックじやない。魔将軍セネラルガイアの魔力で、パワーアップした怪物  
なのよ』  
ぼくはくるりと背を向けると、全力でその場を逃げ出した。情けないけれど、命あつて  
の何とやらだものね。

## ▽183へ

## 83

大鴉おおがらすと化したガイア。それに対抗できるのは銀の矢とマジカルロッド、そしてゼルダの  
持つバイブルの3つを組み合わせた時だけだ。  
君はとんだ失敗をした。大鴉おおがらすは巨大な爪づめを使い、リンクたちをズタズタにするだろう。  
のがれるすべは――最早ネヴァ・モアない。（E・A・ポオ『大鴉』より引用）

UNHAPPY END

## ☆バトルC

基本ポイント リンク（—） モリプリン（—）

276ページのバトル記号表を見て、Cの数字を基本ポイントにプラス。

●勝つた：……………⇨230へ ●負けた：……………⇨180へ

## 85

「おい、この揺れは何だ!?」

そうきくと、モリプリンはさりげなく答えた。「なんでもないない。ただの地震や。このあたりはよく地震があるんや。気にせんとおくんなはれや」

モリプリンが森の中に消えてから、はてどうしようと思つた。

ひと休みするか。ぼくは大木の根元にもたれてすわった。やがて眠気がやつてきた。（ここで眠っちゃまずい……）そう思いながらも、睡魔<sup>すいま</sup>はぼくをとらえて離さなかつた。やがて目が覚めた。

潮の香り？

ハツと気づき、立ち上がる。あわてて丘の斜面をすべり降りる。

何と、そこは海！　おかしい。近くに海なんてなかつたのに……。そしてふり返つた時、

ぼくはさらに驚くべき光景を見た。

巨大なカメ。——そう、ぼくが今までいた丘は、何と巨大なカメの甲らだつたのだ！  
愕然とするぼくの前で、その怪物はノツシノツシと歩き、海の中へ入つていった。

▽127へ

86

細い路がまっすぐ続いている。

ぼくは剣を握つたまま、ゆつくりと進む。あちこちで水のしたたる音がし、風が岩穴に吹き込んで、不気味な遠吠えのような声も聞こえた。

ふいに前方に、2つの横穴を見つけた。それは右と左の岩壁に、向かい合つて開いている。

●穴を無視してまっすぐ進む

▽202へ

●右の穴へ入る

▽175へ

●左の穴へ入る

▽160へ

87

□

ぼくは剣をかまえた。

ゆつくりと前進すると、化け物は横に移動を始めた。触手をうごめかし、ハサミを開閉

# 85～88

させ、エラをヒクヒクと動かしている。

うーん。どこまでも不気味な奴。ぼくは覺悟を決め、さかで逆手に剣を持った。

「テエーイ!!」気合いもろとも奴に飛びかかった！

剣はその怪物の体に深々と刺さつた。すぐに引きぬき、素早く後退する。

するとどうした事だ。そいつはギャツと声を発したかと思うと、床の上にぐにやりと倒れてしまった。

恐る恐る近寄り、剣の先でツンツン突いてみる。死んでいた。

何なんだ？ こいつ。まるつきり見かけ倒し——ハリポテの怪物じゃないか！ (L—F

Eエネルギー♡一個得る)

ぼくはその地下室を出、地上に戻つた。

□132へ

88

砂漠……。

しかも足元の砂はまつ黒だ。その黒は太陽の光を充分すぎるほど吸収している。  
覆き物を通して、熱は足の裏にまで伝わってきた。チクショウ、何て場所なんだ！

ポーチのふたを開け、ファニーが顔を出した。可哀想だが、水は一滴もない。ぼくですらまいりかけているんだから、この水の妖精ははなおさらだ。しかも体が小さいぶんだけ、

消耗も早い。行けども行けども黒い砂ばかりだった。

やがてぼくはその場に突つ伏した。とたんに熱い黒砂が頬を焼き、飛び上がってしまう。突如、目の前の砂地がスリ鉢状に陥没した。そして砂塵が舞い上がる中、リーバーが出現した。

赤くヌメヌメとした体皮が、たち上る陽炎の中で不気味に揺らいでいる。

- ホワイトソードを持つていれば……………→ 120へ
- 持っていないので弓を使う……………→ 112へ

89

ぼくは雷に打たれないように、武器をすべて捨てていた。

こうなれば、早くこの平原を突つ切り、出ていくしかない。

ぼくは全力で走り出す。

その時、上空でものすごい声が聞こえ、同時に稻光が走った。振り向くと、雲の中にいた龍がこっちへやってくるのが見えた。

巨龍のスピードは、のたのた走るぼくよりもはるかに速い。あつという間に追いつかれたぼくは、龍の全身から発される雷に打たれ、炎に包まれた！

END

手紙を持つていないので、それ以上の収穫はなかつた。

⇒ 79へ

モリプリンを無視し、ぼくは丘の斜面をすべり降りて、再びあの干上がった土地へ戻つた。その時だ。突然ものすごい地響きがし、地面が揺れた！

⇒ 250へ

〔C〕

その入口から石段が続き、地の底に向かつてゐる。ぼくは用心しながら降りていく。石段がとぎれると、そこは広い地下室になつていた。松明がふたつ灯り、その後に緑色の服を着た商人がすわつていた。

「何かこうてくれや。どれでも、大安売りにしまつせ」

商人の前に敷かれた筵の上に、品物がズラりと並んでいた。

○ホワイトソード——7ルピー ○ふえ——20ルピー

○銀の矢——7ルピー ○マジックシールド——7ルピー

○マジカルブーメラン——7ルピー ○ロウソク——3ルピー ○ハシゴ——3ルピー

○バクダン5個——3ルピー ○マジカルロッド——20ルピー

(品物を買った人はアイテムチェックシートに記入。値段分のルピーを消す)  
「最近景気悪うてな。今日で店じまいや。わて他の世界へ行きますさかい、あんさんも達者でやつとんなはれ。ほな、さいなら」

そういうや否や、商人は白煙と共に消滅した。ぼくはまた地上へ戻った。

▽4へ

### 9 3

イカダを北に向けた。

どこまで行つても海また海。こりやぐすぐずしていると日が暮れちゃうぞ……。

▽276へ

### 9 4

そこを通り抜け、次の部屋へ。

突如、すさまじいうなり声が起こつた。

グリオーパークだ！

この部屋には、巨竜・グリオーパークがいたのだ。何とそいつには4つも首がある。

●マジカルソードを持つていれば

●持つていなければ……

▽157へ

▽148へ

92～94



94●次の部屋へ入ると、すさまじいうなり声がした。怪  
獣グリオーク、しかもその首は4つもある。強敵だ。

バクダンを2個。火をつけて投げる。

おそいかかろうとするデグドガの前に転がっていく。

突如、耳をつんざく轟音。四方の石壁を揺るがして、爆発の衝撃が伝わった。（バクダン

2個失う）

煙が晴れる。デグドガの姿はどこにもない。

足元に小さな黄色いものが落ちていた。何と変わり果てたデグドガの姿だった。爆発のショックで小さくなってしまったのだ。すかさず剣で真っぷたつに。（LIFEエネルギー

♡一個得る）

●西の扉へ ↓ 122へ ●南の扉へ ↓ 137へ

●バクダン一個を北の壁へ ↓ 105へ

部屋の真ん中に歩いていく。

テーブルの上の、命の器を取つた！

そう。素直な人間こそ、こうして得をするべきなんだ。（命の器入手。持てる♡の数と、持てるバクダンの数がそれぞれ4個ずつ増える）

↓ 240へ

# 95~99

そこにもつと下らないヤツがいるような気がした。ぼくは洞窟に入らず、再び山道を下り続けた。

▽47へ

9 8

C

ぼくの剣は、疾風となつて空を切つた。

バイアはその切つ先で心臓をつらぬかれた。とたんに小悪魔は炎に包まれた。翼を動かしあがいたが、じきに動かなくなる。

部屋には黒煙と悪臭がたちこめている。(LIFEエネルギー♡一個得る) ▽128へ

9 9

岩の出っぱりにつかり、よじ登れそうだ。

ぼくはゆつくりとはい上つた。

何とか中腹まで着き、安定した足場を見つける。ひと休みだ。

その時、数匹のピーハットが空中から襲ってきた!

LIFEエネルギーは♡5個以上?

YES

▽52へ

NO

▽218へ

9 7

# 100

C

ふたつのブーメランを剣で払い落として、ぼくはゴーリアにかかる。武器をなくしたこの怪物は、いともあつさりと退治なげじできた。そしてその死体のそばに、マジカルキー入手)が落ちているのを見つけた。(マジカルキー入手)

□242へ

# 101

オクタロックはノドをふくらませた。また岩をふき飛ばすつもりだ。

ぼくは弓に矢をつがえ、思いつきり引き絞つた。今だ! 右手の矢を放はなつ。それは狙ねらいあやまたず、巨大な頭部を貫いた。さらにもう1本射ち込んだ。

その時だつた。今まで枯木をつかんでいた触手が、音をたてながらこつちへ迫つてきた。何て事だ。こいつは普通のオクタロックじゃないぞ。

矢が通用しないとみるや、ぼくはあわてて逃げ出した。吸盤だらけの触手が追つてきた。大人の胴ほどもある太いやつだ。

ぼくは立ち止まり、剣を振りかざした。渾身こんしんの力をこめ、横殴りにそいつを斬きつた!

草むらに落ちた触手の切れはしが、くねつて踊つていてる。

切断された触手はズルズルと戻り、代わりに違うやつが2本伸びてきた。逃げきれない

# 100～102

と悟つたぼくは、もう一度弓を引いてかまえた。

- オクタロツクの口の中へ矢を射ち込む……………▽ 233へ
- オクタロツクの目を狙う……………▽ 131へ

## 102

〔C〕

必死に走る。

だが、城はすでに消えかかり、まさに時空の歪みに没していくところだつた。

ぼくは空間にできた穴に、吸い込まれてゆく。七色の光が舞い、花火のように四散する。やがて気が遠くなってきた。

うすれていく意識の中で、誰かが話しかけてきた。

——リンクよ。お前は目的地に到着したにもかかわらず、蜃氣樓城ミラージュ・キャッスルをみすみす取り逃がした。このままあきらめるかね。

嫌だ。絶対に！ ぼくは叫ぶ。

——よろしい。ではもう一度チャンスをやろう。ただし、今までの旅はすべて無効になる。得た力、得た武器、すべて最初の状態に戻し、旅を始めるがよい。記憶は若干残るだろうが、それが正しい道ルートじやない事は今回の失敗でわかつておるはず。

では、時間を元に戻すぞ！！

「待つてください」ぼくはいった。「あなたは、どなたですか!?」

——私はこの物語の作者・作者・作者・作者……（エコーがかかつてます）  
再び静寂がおとされた。（リンクとゼルダがそれぞれに得たアイテム、情報、♡、ルピー、  
バクダンはすべてスタート時の設定にもどります）

▽1へ

### 103

□C

「わて、あんさんとは戦いとうないねん」

モリプリンは情けなくいった。

「あんさんはここらで有名な剣士やし、わてはただの日雇い兵士や。勝負にもなりまへん  
がな。見逃がしてくれまへんか？」お金ならいくらでもあげまつせ」

何とも情けない奴。敵を前にして命返いのちかたいをするとは。ともあれ無益むえきな戦いをしても意味  
がないし、見逃がしてやるか。

そのモリプリンはぼくに10ルピーくれ、ペコペコおじぎをした。（10ルピー得る）

その時だ。突然地面がグラリと揺ゆれた。

地震か？

●何事だ、とモリプリンにきく

▽85へ

●急いでこの場を去る

…………▽10へ

## 104

銀の矢をさやから抜く。ガイアの表情が変わった。ぼくは弓に矢をつがえて引き、ヤツめがけて射た。矢は銀色の直線となり、ガイアの額に向かう。命中した——かのようだつた。だが銀の矢はヤツの額に矢尻を当てたまま、空中で静止している。その額から、一筋の血が流れた。効果はあつたのだ。ヤツの表情が険しくなつていた。

●さらに銀の矢を射る……………▽8へ ●姫を救出する……………▽40へ

## 105

〔C〕

バクダンを1個、北側の壁に仕掛けた。

轟音と共に火柱が上がる。煙が晴れると、そこに穴が開いていた。(バクダン一ヶ失う)ぼくは穴を通り抜ける。

▽27へ

## 106

ハシゴはない。仕方がないので戻る事にするか。(ただし、19から来た場合は、戻れません)

●元の部屋へ戻る……………▽161へ ●(19から来た場合のみ)……………▽128へ

107

正解は、「くだらない病気」。

汚ない問題ですいません。ハハハ……。

●正解の人は

●違っていたら  
↓221へ  
↓115へ

108

そしてぼくは、この血生臭い部屋ちなまぐさを後にした。

●北の扉へ

●西の扉へ  
↓128へ

109

[C]

じりじりと後ずさりし、出口まで戻る。

そしてサツと逃げ出した。

こんな恐ろしい奴と戦うのはごめんだ。君子危あやうきに近寄らず、だ。(L-E-FEエネルギー  
—♡—個失う)

↓132へ

110

平原を通り抜け、山脈をいくつも越えた。

やがて目の前に、岩の塔が見えてきた。悪魔の塔と呼ばれる山。天にもとどかんばかりにまつすぐ伸びた岩。

そこをめざし、歩いてゆく。山のまわりを小さな黒点が飛びまわっている。ピーハツトのようだ。距離があるので確認できないが、かなりの数がいるようだ。  
麓には岩穴がある。

まず、そこに入つてみる事にした。暗く細い路を歩いてゆく。出し抜けに起こつた唸り声にびっくりした。テスチタート——4本のはさみを持つ食肉植物がそこにいた！

### ☆バトルN

基本ポイント リンク( ) テスチタート( )

276ページのバトル記号表を見て、Nの数字を基本ポイントにプラス。

●勝つた……………▽30へ ●負けた……………▽241へ

1-1-1

[C]

ローソクがないため、壁に沿つて歩いた。

西側に出口の明かりがある。そちらへ向かつて急いだ。その時だつた！

突如、闇の中から呪文が聞こえ、ぼくは息ができなくなつた！(LIFEエネルギー♡2個失う) ウィズロープの呪文だ！！

▽138へ

ぼくは弓をかまえ、それを引いた。  
額からこめかみに汗が伝い落ちる

☆バトルM

基本ポイント リンク（） リーバー（）

276ページのバトル記号表を見て、Mの数字を基本ポイントにプラス。

●勝った……………⇒ 166へ ●負けた……………⇒ 220へ

113

□

呪文師はパツと現われてはパツと消え、あちこちから呪文を放つてくる。だがよく見れば、その動きは単調だ。

四角い部屋の角から角。対角線上をワープする事が多い。

消えた直後、ぼくは次の出現地点を予想し、待ち構えた。ウイズロープはちゃんとそこへ現われた。思わず笑いたくなつた。

剣を振り降ろすと、ヤツは真っぷたつになつた。

ウイズロープは死んだ。そして思いがけないプレゼントを残していた。命の水。そう、飲めばたちまちLIFEエネルギーが満杯になる、あの薬だ。

## 112～114

(命の水入手、チェックシートに記入。この命の水は、これから戦いで一度だけ使えます。エネルギーが尽きかけたら、使って下さい)

扉がふたつある。さてどっちへ行こうか?

● 東の扉へ

↓ 27へ

● 西の扉へ

↓ 65へ

### 114

(C)

左側の洞窟に入つていく。

闇の中を手さぐりで歩くと、突き当たりの広い場所にふたつの明かりが見えた。松明だ たいまう  
つた。その間に、緑色の服が見えた。

「何か買うてくれや」それは商人だつた。

彼の前にはじゅうたんが敷かれている。その上に6つの品物が並んでいる。

○ ホワイトソード——10ルピー ○ ローソク——5ルピー

○ マジカルロッド——10ルピー

○ バクダン5個——7ルピー ○ マジックシールド——10ルピー ○ 銀の矢——10ルピー

(品物を買った人はアイテムチェックシートに記入)

ぼくはその洞窟を出た。

↓ 46へ

すると老人は、杖をサッと上げた。

空の一角にポツンと黒い点が現われた。と、見る間にそれは黒い竜巻となり、ぼくに向かって降りてくる。

せまくて不安定な吊り橋だ。これじゃ逃げようがなかつた。竜巻がぼくを包み込んだ瞬間、あつという間に天高く舞い上がる。

ぼくはすぐに意識を失つていつた。

ドサリ！ 亂暴に投げ出されたショックで、ぼくは目を覚ました。黒い竜巻は天へ消えてゆくところだつた。

気温が低い。あたりを見まわすと荒れ果てた岩石ばかり。どこかの山岳地帯。またずいぶん遠くまで運ばれたようだ。（たかがナゾナゾごときで……）

ぼくは仕方なく歩き始めた。

## 116

マジカルソードを持ち、燃え上がる大鶴<sup>おおがらす</sup>の胸を刺し貫く。<sup>つらぬ</sup>ヤツはひつくり返り、炎の翼を激しく振つた。

やがてそれも終わつた。大鶴はパツタリと動かなくなつた。

□186へ

「焼き鳥一丁上がり」と、ぼくは笑つた。ゼルダに向き直つた。その時だ！  
『リンク！ 危ないッ』

ファニーの声に振り返つたぼくは、アツと叫んで床に身を伏せるハメになつた。いつの間にか起き上がつた大鴉が、炎に包まれたまま飛びかかってきたのだ！

LIFEエネルギーは♥3個以上ある？

●YES ..... □400へ ●NO ..... □236へ

## 117

□C

タートナックどもを一か所に集める。すかさずそこに、バクダンを放つた。（バクダン－個失う）

大音響と共に火球が生じ、ぼくは爆風をもろに食らつていた。（LIFEエネルギー♥1

個失う）

ところが、タートナックは生きていた。目をまわして動けなくなつていたが……。

そこへ剣でトドメを刺す。奴らはやつと倒れた。ぼくは敵の剣のひとつを拾う。それは何と、無敵のマジカルソードだった！ 斬り合つていたら、勝ち目はない。（マジカルソード入手。アイテムチェックシートに記入。ただし、一度通つた人は取れません）

□227へ

剣を握ったまま、階段を登つてゆく。

地上から遠ざかるにつれ、この水晶の林はさらに異様な景色を見せてくる。1本1本が陽光を受けて輝き、さながら鏡でできた夢の城塞のようだ。

階段を半ばまで登つた。すると出し抜けに無数の羽音が聞こえた。コウモリの化け物・キースの群れが襲ってきたのだ。

1匹ではさして恐くないこの怪物も、集団で来るとなれば別だ。無数の鋭い牙の攻撃は人間をいとも簡単にズタズタの肉塊に変えてしまう。

●マジカルロッドを持つていれば…………▽72へ ●なければ…………▽135へ

### 119

[C]

ぼくはそのガイコツと戦つた。剣と剣がぶつかり合い、火花を散らす。だが、力も技もこつちの方が上だ！

ぼくは2匹の剣を、同時にはじき飛ばし、返す刀で奴らを真つぶたつに断ち斬つた！

石畳の上に、スタルフオスはくずれていた。そして1本のマジカルロッドが、音をたてて転がる、（マジカルロッド入手、アイテムチェックシートに記入。LIFEエネルギー+♡一個得る）

▽9へ

ホワイトソードをぬいた。

リーバーは触手を伸ばしてきた。それをたたき斬り、本体に飛びかかる。  
不快な音と共に、剣は怪物の体に深々と突き刺さつた。抜くとそこから粘液ねんえきが噴き出し、  
砂地に染みを作つてゆく。リーバーはぐにやりと横倒しになり、死んだ。その死骸しがいの側に  
ルピーが5つ光っている。(5ルピー得る)

そしてぼくは、また絶望の砂漠を歩き出した。

↓203へ

「よく来たね、リンク」

だだつ広い部屋に、低い声が響いた。

ぼくは緊張した。マジカルソードの柄えに手をかける。そこは宮殿の大広間だつた。

魔将軍ゼオラルガイアは石作りの椅子にすわつていた。

黒い上着に黒いズボン。黒い髪に口髭ひげ。肌も浅黒い。何から何まで黒一色の紳士然とした男。

そう。ガイアはまつたく人間と同じ姿をしているのだ。  
そしてその横には、ゼルダがいた。それもちゃんとした人間の姿で！



121 ● 「よく来たね、リンク」大広間で魔将軍ガイアは待  
っていた。しかもその横には、愛しのゼルダが。  
ゼネラル

「この娘を水晶球に入れておくのはもつたいない。いずれわたしの妃になる身」

「ウソだ！」ぼくは思わず叫んでいた。

だがゼルダは表情ひとつ変えず、ガイアの横に立っている。

白い衣裳が美しかつた。

『催眠術をかけたのよ』ぼくのそばでファニーがいつた。

そうか。何て事をするんだ！

ぼくはマジカルソードを抜いた。すかさず、ヤツめがけて突く。

剣先がヤツに触れる寸前、ガイアの両眼が光つた。そのとたん、ぼくは見えない力で吹き飛ばされていた。

今度はマジックシールドで身を守り、再び剣を持って突っ走った。

「ムダだ！」ガイアがいつた瞬間、ぼくはまたもや宙に持ち上げられ、背後の円柱に叩きつけられる。

気が遠くなりかけた。（L—FEエネルギー♡一個失う）

『リンク！ しつかり』ファニーの声。

ぼくは頭をふつて闇を払い、立ち上がる。

●マジカルロッドを使ってみる ⇨ 248へ

●銀の矢を使ってみる ⇨ 104へ

その扉を抜け、ぼくは次の部屋へ入つていた。

ガランとした空部屋。ぼくを待ち受ける怪物の姿もない。

仁方なし  
先へ進むか

●東の扉へ………↓69へ ●北の扉へ………↓197へ ●南の扉へ………↓189へ

1  
2  
3

ぼくはイカダを東へ――つまり陸地に向けた。とたんに今まで黙つて泳いでいたゾーラが、口から光の玉を吐いて攻撃してきた。

おおつと、危ない！ それをよけざま、対抗する武器を探した。

バクダンを3つ以上持っている？

Y  
E  
S  
↓  
2  
0  
7  
^  
N  
O  
↓  
5  
3  
^

1  
2  
4

ぼくは手にしていたホワイトソードをかまえた！ 驚いた事に、この魔法の剣は、闇の

中でそれ自体光を発している。

敵の姿はその青白い輝きによつて浮かび上がつた。ゴーマ、巨大なひとつ目のカニだ！

☆バトル

基本ポイント リンク（ ） ゴーマ（ ）

276ページのバトル記号表を見て、一の数字を基本ポイントにプラス。

●勝った ..... ↓ 178へ ●負けた ..... ↓ 182へ

125

□

ふえを吹いてみた。

すると効果テキメン。デグドガは見る見るしほんで小さくなつてゆく。

手のひらの大きさになつたそれを、踏みつける。ギヤツと叫んで、デグドガは死んでしまう。（LIFEエネルギー♡2個得る）

●西の扉へ ..... ↓ 122へ ●南の扉へ ..... ↓ 137へ

●バクダン一個を北の壁へ ..... ↓ 105へ

126

一步踏み出したとたん、氷壁に亀裂<sup>きれい</sup>が入つた。大音響とともに氷の塊<sup>かたまり</sup>が降りそそぎ、怪物の哮<sup>なげ</sup>りが山々に轟<sup>とどろ</sup>く。

グリオークは体を揺すり、氷の中から脱け出した。

●ホワイトソードがあれば …… ↪ 187へ

●なければ …… ↪ 205へ

## 127

しばらく歩くと、浜辺に出た。  
はるか彼方まで海が続いている。

足元の砂地に、半ば埋もれたイカダを見つけた。おそらく前の戦いの時に使ったものだ  
ろう。

ぼくはそれを引きずり出し、波間に浮かべる。そして大海原にこぎ出してゆく。

## ⇒ 246へ

## 128

次の部屋に入ると、ゴーリアが2匹いた。

耳が大きい。ネズミが進化したような怪物だ。

ゴーリアは手についていた武器——ブームランを投げてきた。鋭いカーブを切って、それ  
はぼくを襲う。

●剣で戦う …… ↪ 168へ ●バクダンを一個使う …… ↪ 201へ

# 126～131

1 2 9

〔C〕

北の壁にバクダン1個をしけた。

轟音がして、土の塊が飛んだ。やがて煙が晴れた。そしてそこへ歩いていく。(バクダン  
1個失う)ダメだ。出口はない。

●南の扉から出る

……………⇨69へ

●西の扉から出る

……………⇨11へ

1 3 0

そこをくぐり、向こうの部屋へ抜ける。

ポルスボイスが待っていた。耳の大きい、頭だけの怪物だ。まるでキツネの頭そのもの。

こいつは確か、ある弱点を持っているはず……。何で戦おうか?

●バクダンを使う

……………⇨68へ

●剣で戦う

……………⇨200へ

目をねらつた。

巨大な口の両側にたれ下がつたまぶたの下、緑色に光るガラス玉のような目。矢尻とそ

の目を結ぶ線が一直線になつた時、ぼくは射つた。  
『やつた!』ファニーが叫ぶ。

1 3 1

〔C〕

オクタロックの断末魔<sup>だんまつま</sup>の声は、子供の悲鳴そつくりだつた。12本の足をくねらせ、何とか急所に刺さつた矢をぬこうともがいていたが、じきに動かなくなつた。(5ルピー得る)ぼくはまた、霧の中を歩き始めた。

▽183へ

## 132

林立する巨大な水晶の群れ。

その中でも一番大きな水晶には、外周に沿つてらせん階段が続いていた。頂上まで行くらしい。

●そこを登る事にした ..... ▽118へ ●登らずに去る ..... ▽62へ

## 133

□C

右の洞窟に入る事にした。

足を踏み入れ、剣の柄<sup>つか</sup>に手をかけたまま、暗闇に目が慣れるのを待つ。そして歩き出した。

「そこの若者よ」。突如<sup>とつじよ</sup>、前方の暗がりから声が響いた。

ぼくはギョッとして立ち止まつた。洞窟の奥にポツとふたつの火が燃えた。その松明<sup>たいまつ</sup>の向こうに、ひとりの老人がすわつてゐる。炎に照らされた赤い僧服に、妖気が漂つてゐる。

## 131～133

「何かようかい？」と老人はいつた。

● ぼくはずつこけた。

「じいさん。そんな古い洒落しゃれ、どこで習つた!!」

「ふおつふおつ。お前さんはリンクじやな。あの魔王ガノンを倒したという——。その時この洞窟で会つておるはず。なつかしい顔じや、ようかいつて（よう帰つて）きたのオ」

● ぼくはまたずつこけた。ウーム。すさまじいダジャレのパワー。

「——ところでリンクや。お前さんは蜃氣樓城ミラージュ・キャッスルを探しておるときいたが」

今度は眞面目な話らしい。

「——ひとつヒントを教えてやろう」

「え？」ぼくは向き直つた。

「あの城は時間と空間を超え、このハイラル地方のあちこちに現われては消える幻の城じや。ゆえに蜃氣樓城と呼ばれておる。しかし、おかしなことに、この地方のはずれにしか現われないのじや」

「この地方のはずれ？」

「ふむ。つまり、城はこの地方の中央には現われたことがないのじやよ」

● ぼくはお礼に2ルピーあげた。そして洞窟を出た。（2ルピー失う）

● その丘を去る……▽46へ ● 今度は左側の洞窟へ入つてみる……▽114へ

## 地下への穴。

石段をゆっくりと降りてゆくと、目の前に巨大な空洞があつた。

無数の鐘乳石が天井からたれ、床には石英の砂粒が敷きつめられている。

その時、恐ろしいうなり声が静寂を破つた。見ると、この空洞の奥、石英を散りばめた岩壁が崩れ、そこから数本の触手が突き出した。

無数に並んだ吸盤。オクタロツクか？

その触手の上にある巨大な口は、まぎれもなくオクタロツクのものだが、さらに上にあらひとつ赤く光る目は違う。そいつは岩石から少しづつ体を押し出してきた。現われるに従い、その全体像はいよいよグロテスクなものになってきた。

頭部はリーバー。その両側にある大きなはさみは、テスチタートのそれ。また半魚人ゾーラのひれやエラ。触手の後ろには化けグモ・テクタイトの節足がある。

それは複合生物だつた。ガイアの魔力は、ハイラル中のいろいろな魔物から、こんな化け物を創つたのだ！

その生物は岩穴を抜け終えた。ぼくを見つけ、いやらしい音をたてながら近寄つてきた。

●戦う ..... ⇄ 87ヘ ●強そなうなので逃げる ..... ⇄ 109ヘ



134●石英の岩壁を崩し、そいつは出現した。何たる醜い姿！ ガイアの魔力で作られた複合生物だ。

ぼくは剣をかまえ、襲いかかるコウモリどもに斬りつけた。丁々発止……というわけにはいかなかつた。やみくもに剣を振りまわすしかない。

何匹ものキースが、翼や体を斬られて落ちてゆく。だがしつこい攻撃は止む気配がない。肩に激痛を感じ、そこに噛みついた奴を引きはがして捨てる。(LIFEエネルギー♡一個失う) やがて必死の抵抗の効あつて、キースたちは退散していつた。ぼくは、ヤツらの落としていつた8ルピーを拾つた。(8ルピー得る)

▽26へ

## 136

ぼくはゼルダからバイブルを受け取つた。

それとマジカルロッドを手にした瞬間、光が生じた。

ぼくは今、最強の武器を持つた!

ロッドの先端から、突如、炎の矢が放たれた。それは大鴉——ガイアに突き刺さる。魔将軍は一瞬にして、炎に包まれた。死の舞踏を続けながら、恐ろしい叫び声をあげる。『トドメよ、リンク!』ゼルダの肩の上で、ファニーが叫ぶ。

ぼくは——

●マジカルソードを使った : ▽116へ

●銀の矢を使った ..... ▽400へ

その部屋の扉を開けたとたん、ものすごい声が耳をつん裂いた。サイの化け物・ドドンゴが、床からゆっくりと身を起こしたところだ。巨大なヤツだつた。<sup>ノーマル</sup>普通なドドンゴの3倍はあるだろう。バクダンを使いたいが、3発や4発じやききそうもないぞ！

●バクダンが5個以上あれば……………▽45へ ●4個以下なら……………▽191へ

## 138

ウイズローブ。それは呪文師とも呼ばれる魔法使いだ。ボロぎれのようなものをまとい、首に鏡のペンダントをぶら下げている。

しつこく何度も現われては消え、人を金縛りにする呪文を放つてくる。

☆バトルD

基本ポイント リンク（） ウィズローブ（）

276ページのバトル記号表を見て、Dの数字を基本ポイントにプラス。

●勝つた……………▽113へ ●負けた……………▽48へ

## 139

ぼくは吊り橋を渡り出した。

足元の板は不規則に揺れ、早く渡り終えようと、気ばかりがあせる。半ばまで渡り終えた時、対岸の岩陰から杖をついた老人が現われた。揺れる橋を、器用な身のこなしで、トントンと渡ってきた。褐色のかぶつ色のフードを被り、あごの下に長い鬚を垂らしている。丸顔で小太りのその老人はいつた。

「わしはこの山の番人・魔術師のターニ・ケイジヤ」そして目をしばたたいた。  
「ここを通るにはわしの問うナゾナゾに答えねばならぬ。さもないと、命の保証はない」「よし。受けて立とう！」ぼくはうなずく。

魔術師ターニ・ケイは、ムフフと笑つた。「ではゆくぞ——。昼は短かく、夕方は長く、夜になるとなくなる物なあーんだ?」

● 答えがわかつたなら …… ▷ 36 ヘ ● 答えがわからないなら …… ▷ 115 ヘ

## 140

モリブリンは動きの遅い怪物だ。だが、矢を放つてくる。最初の戦いの時、この四方から飛んでくる矢にすいぶん苦しめられたものだ。

うかつに近づかず、こつちも弓矢を使つてやつつけるほうがいい。

● LIFEエネルギー♡は4個以上?

▷ 234 ヘ

● L-I-F-E エネルギー♡が3個以下しかない

▽12へ

## 141

〔C〕

ぼくの意識は、急速に薄れてゆく。(L-I-F-E エネルギー♡一 個失う)

その時だ。心の中でファニーの声がした。

『水よ！ リンク。砂を掘つて』

幻聴？ じやなかつた。よろよろと起き上がり、両手を使つて砂地を掘り始める。指先に血がにじんだが、痛みは感じなかつた。

やがて、手に触れる砂が湿気をおびてきた。ぼくは目が覚めたように勢いよく手を動かした。穴の底に——水がたまつていた！

それがぼくとファニーの喉を潤すに充分な量だつたのは、いうまでもない。

やがてぼくは、再び歩き出した。

前方に岩山が見えてきた。その中腹に洞窟がある。

中に何がいようと、入つてみようと思つた。日陰——今のぼくにとつて、これほど魅力的な場所は他にない。

暗がりの中、ふたつの松明(たいまつ)が灯つてゐる。

赤い僧服の老人がすわつていた。

▽211へ

## 142

次の部屋へ入った。扉は北にひとつ。あとは南の壁にあるバクダンの穴のみ。  
その部屋の中央に、コウモリの翼を持つた悪魔がいた。バイア。化け物コウモリ・キースの親分だ。

バイアは3つの眼でぼくをにらみ、大きな翼を広げて飛びかかってきた！

### ☆バトル

基本ポイント リンク（） バイア（）

276ページのバトル記号表を見て、「」の数字を基本ポイントにプラス。

●勝つた ..... ⇄ 98へ ●負けた ..... ⇄ 44へ

## 143

バトルポイントでは勝ちだが、魔将軍ともなればそう簡単に倒せはしないのです。喜ぶのはまだ早い。努力しなさい！

●銀の矢とマジカルロッドを使う ..... ⇄ 245へ 姫を救出する ..... ⇄ 40へ

## 144

剣をさやに收め、ぼくは出口を探した。

東に扉がある。これだと思つて勢いよく開ける。とたんに烈しい風が吹き込んできた。

扉の向うは——何もなかつた。

足元は無限に続く深淵。<sup>はんえん</sup>はるか下方で光と影が渦を巻いている。時空の間。<sup>はざま</sup>異次元空間だ。落ちた時の事だけは考えたくもない。

気をとり直し、前方を見る。すると遠くに扉が見えた。この城は真ん中にポツカリと空洞があるんだ！ めざすゴールは反対側。この空洞を渡るか、引き返してまわるかだ！！

●ハシゴを持つていれば …… ↴ 243へ ●ないので引き返す ……… ↴ 169へ

## 145

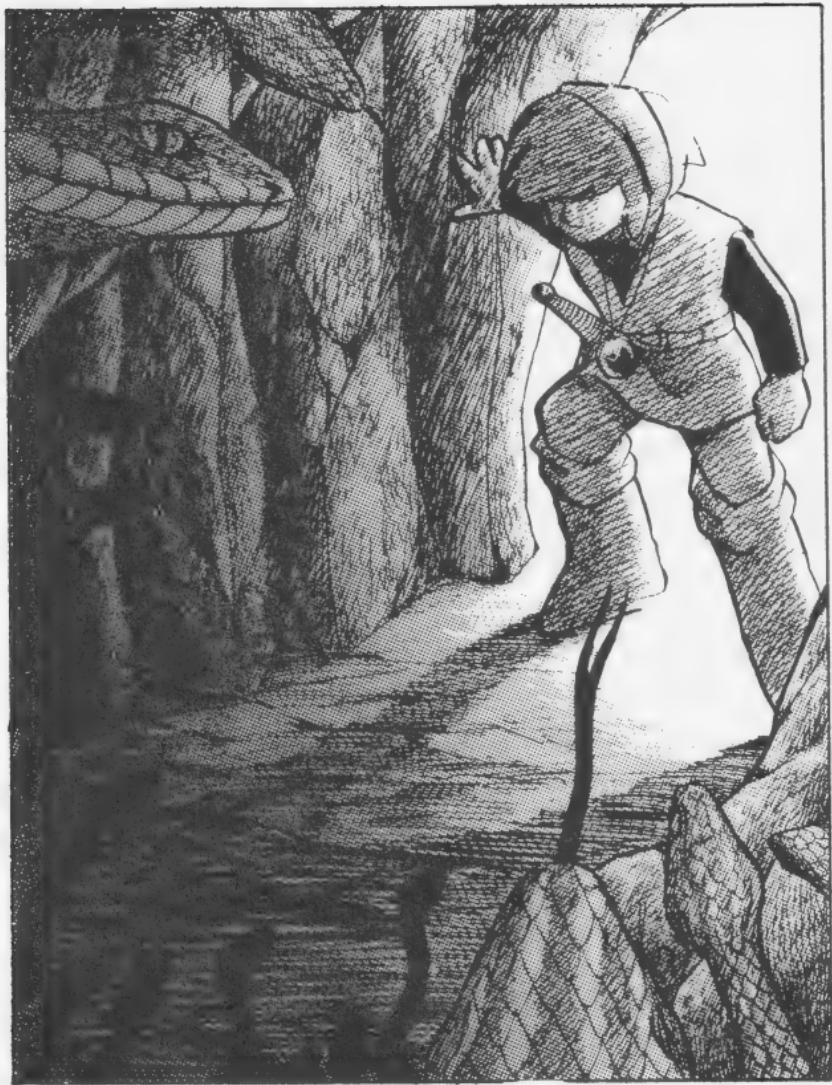
荒涼とした大地を歩く。

遠くに見える火山は、白煙と共に時折、山鳴りを轟かせる。足元にころがる岩々は、溶岩が固まつたものだ。

やがて、切り崩したような岩場にさしかかる。大きな台地を形成する岩壁。そこにひとつ、洞窟があつた。

ぼくはそこへ入つていつた。

闇に光る無数の眼。洞窟の入口付近には、ロープという名の毒蛇が群れている。ここを越えないといと、奥へは進めない。蛇どもを一度にやつつけたいが……。



145 ● その洞窟に入っていくと、暗がりに無数の毒蛇・ロープ。ここを通らないと先へ進めないのだ。

145 ~ 146

● 剣でなぎ払つて進む ..... ▼ 150へ

● バクダンを2個使ってみる ..... ▼ 34へ

●♥が満杯なら——剣のビームで  
▽43へ

1  
4  
6

その穴に入つてみた

せまい道を歩いていくと、やがて突き当たりの部屋へ。

松明のそばに緑の服が見えた。  
商人だ。

「あんさん、お早いお着きでんな。来たついでに、何か買うてくれや」

敷物の上に、いくつもの品物が並んでいる。

○ホワイトソード——15ルピー  
○マジックシールド——15ルピー

○ふえ——10ルピー

○マジカルキー——20ルピー ○バクダン5個——5ルピー

○ロウソク——3ルピー ○ハシゴ——5ルピー

(品物を買つた人はアイテムチェックシートに記入。値段分のルピーを消す)

「景気はどうだい？」とぼくはきいた。

「ぼちぼちでんな」と答えが返ってきた。

ぼくはその穴を出、また洞窟の奥へ向かう。

ガイアは椅子にすわったまま、身じろぎもしない。  
ぼくはマジカルブームランを手にした。

大きく振りかぶり、魔将軍めがけて投げつける。

だがそれは、ガイアに当たらないばかりか、急カーブを描いて戻り、ファニーを追いまわし始めた！ ピュンピュンうなりながらついてくるブームラン。ファニーがぼくの後ろに隠れたとたん、それは床の上に落下した。

笑い声。ガイアだ。

ヤツは椅子の上で大笑いをしている。

LIFEエネルギーは♡5個以上ある？

● YES ↓ 40へ ● NO ↓ 245へ

### 148

マジカルソードはないが、戦えない相手じゃない。  
ぼくも剣を構え、強敵にのぞんだ！

☆バトル♪

基本ポイント リンク（ ） グリオーケ（ ）

276ページのバトル記号表を見て、Jの数字を基本ポイントにプラス。

●勝つた ..... ⇄ 157へ ●負けた ..... ⇄ 67へ

## 149

右の道を選んだ。

暗闇の中を、どこまでも歩き続ける。道は上りになつたり下りになつたり、また蛇のように曲がりくねつたりした。

前方に明りが見えてきた。ぼくは急ぎ足で歩き、洞窟の外へ。

そこは果てしなく続く砂漠だつた。ところがおかしい。洞窟のあつた場所はゴツゴツとした岩だらけの岩石地帯だつたはず。こんな砂漠があつただろうか。

そしてぼくは、後ろを振り返つた。

「あつ!!」思わず声を上げてしまう。

さっきまでぼくが歩いていた、あの洞窟がないのだ。

四方どつちを見渡しても、果てしなき砂の海が続くばかり……。

⇨ 88へ

## 150

〔C〕

右へ左へと剣をふり、ロープたちをたたき斬つてゆく。だが、この蛇たちは思いもよら

ぬ所から襲つてきた。

ドサリ！ 突如とうじよ、首筋に冷たいものが落ちてきた。あわててそれをふりほどき、岩壁にたたきつける。ぎよつとしたぼくは思わず頭上をふり仰いだ。岩の天井に、蛇ヘビどもがウヨウヨといるじゃないか！

悲鳴が口を突いて出そうになる。

その瞬間、それらは雨のようにバラバラと降つてきた。(L-E-F-Eエネルギー♡一個失う。また、ロウソクを持つていればそれも失います。チエック表から消して下さい。ロウソクのない人はL-E-F-Eエネルギー♡をもうひとつ失ないます)

□86へ

151

(C)

暗い洞うあの中、松明たまきが灯り、商人がすわつていた。

「何か買こうてくれや」

品物をざつと見ると――

○銀の矢――15ルピー　○マジックシールド――15ルピー　○ふえ――10ルピー

○ロウソク――10ルピー　○バクダン5個――10ルピー

「もうすこしまけてよ」とぼくは不平ふけいきをもらす。

「すんまへんな、お客様はん。不景氣な世の中、まつとうな商売しとると、生きてゆけまへ

んねん。人助けやと思うて、何か買うてくれまへんか？ 魔法のハシゴもサービスしまつせ」（品物を買った人は買った品物とハシゴをアイテムチェックシートに記入。値段分のルピーを消す）

152

● 悪魔の塔を去り、ぼくはまた旅を続けた。

● 北へ

→ 261へ

● 西へ

→ 167へ

153

〔C〕

ぼくは剣を抜き、タートナックに挑戦した！

ヤツらは魔界でも指折りの強者ぞろいだ。甲冑かっちゅうと盾たてで身を守っているので、正面からの攻撃はまつたくきかない。

激しく動き、フットワークをつけて背後を取ろうとした。だが奴らは素早そわいえに、連係プレーのうまさもあつた。

ぼくはたちまち追いつめられ、剣で脚を突かれた。（LIFEエネルギー♥2個失う）それに驚いた事に——奴らの剣。これが無敵のマジカルソードなんだ！

逃げろ！

→ 159へ

→ 227へ

部屋の中に入り、剣を左右に打ちふるつていった。断ち切られたロープどもが、血の海に沈んでゆく。

ちくしょう！ やっぱりキリがない。ぼくは疲労の中で、後悔し始めていた。

突如、左脚に鋭い痛み。1匹噛みついてきた！（LIFEエネルギー♡1個失う）

ぼくはとっさに、足を引きずりながら逃げ出した。

▽19へ

## 155

C

背中にのしかかつた岩。ぼくの体重の3倍はあるそれを、何とか押しのけた。

岩のすきまから、かすかに陽光が差し込んでいる。身体を動かし、必死で脱出を試みる。やがて最後の岩をどけて、ぼくは外の世界へ出た。（LIFEエネルギー♡2個失う）腰のポーチを開ける。ファニーは幸いにも無傷だつた。ホッと胸をなでおろす。

▽14へ

## 156

大グモの死骸しゃがいを乗り越え、洞窟に向かつた。  
洞窟はふたつ。右と左どちらへ入る？

154 ~ 158

●右へ  
↓  
215へ  
●左へ  
↓  
224へ  
●入らない  
↓  
20へ

157

C

その剣を振りかざし、グリオーケの胸をねらう。巨竜はビームを放<sup>はな</sup>つてきたが、ぼくは難なくかわす。

敵がひるんだスキに、すかさず突進。2度3度と巨体を突き刺す。首がこつちを向くと、サッと身をかがめる。そしてまた刺す！

グリオークは、どうとばかりに横倒しになる。完全に息絶えていた。そのそばに、バクダンが10個落ちていた。（LIFEエネルギー10個、バクダン10個得る）→108へ

1  
5  
8

怪物は口からビームを吐いた。

ぼくはそれに当たらないよう、接近していく。今だ——。

☆バトルE

基本ポイント リンク（ ） アクオメンタス（ ）

276ページのバトル記号表を見て、Eの数字を基本ポイントにプラス。

● 勝つた ↓ 179へ ● 負けた ↓ 209へ

ぼくはまた歩き出した。その頃には空もすっかり晴れ、日が差し始めていた。

●東へ ..... ↳ 110へ ●西へ ..... ↳ 50へ ●北へ ..... ↳ 88へ

## 160

左の穴に入つたぼくは、闇の中を手さぐりで歩き続けた。天井が低いので、身をかがめなければならぬ。

道は、上つたり下つたりしながら続いていく。ずい分と長い間歩いたような気がした。突然、前方に明かり。ぼくは歩を早め、やがて出口に立つた。安心感と同時に理由のわからない不安感が、ぼくをさいなんだ。

そこは、霧のたちこめる草原。どこかで見たような光景だ……。

アツと叫んで背後を振り向く。さつき確かに出て来たはずの洞窟が消えている。

ぼくは呆然として立ちすくんだ。何て事だ。ここは旅のスタート地点じゃないか!! 洞窟にできた空間の歪みが、ぼくを振り出しの草原まで戻してしまったのだ！ ↳ 23へ

## 161

次の部屋には、怪物の姿がない。しかもうれしい事に、真ん中のテーブルに命の器うつわが置



161●部屋の真ん中にテーブル。その上には命の器があつた。<sup>うつわ</sup>怪物の姿はどこにもない。ワナか!?

いてあるじゃないか！

●どれ、命の器を取りに行くか ↓96へ ●待て、戻かもしれないぞ ↓59へ

1  
6  
2

突進してくるゴーマ。ぼくは火を点けた2個のバクダンを、思いつきり投げつけた。  
強烈な爆弾音と共に火柱が上がる。もうもうとたちこめる黒煙。

やつつけたか!!  
ぼくは煙の中、目をこらして見た。  
ゆきのり

その時、黒煙を突いて、まつ黒い塊かたが飛び出した！ ゴーマだ。生きていたのか。

あわてて残りのバクダンを投げようとした。怪物ガニはそこへ飛びかかってきた。奴の鋭い牙でぼくがバラバラになつた時、やつと残る1個のバクダンが破裂した。

もちろん、何にもならなかつた。

E  
N  
D

1  
6  
3

一瞬後、天から降つてきた雷はぼくを貫いていた。胸にかけられたクリスタルムーン。この水晶球さえも、そのショックでこなごなになつて散つていった。

END

ぼくは必死に走った。

眼前の蜃氣樓城ミラージュ・キャッスルは、すでに陽炎かげろうのように揺らぎ始めている。

駄目か!?

七色に輝く城塞じょうさいは、その下方からじょじょに消えてゆく。そして全体が消えると、城の形の影が空中に残つた。それは空間に開いた切り抜きの穴だつた。そこから遠くの砂漠が垣間見えた!

ぼくは城の転移に巻き込まれないよう、とつさに岩陰に隠れた。近くに落ちていた無数の岩の塊かたまりが浮き上がり、空間のひずみに吸い込まれてゆく。(5ルピー失う)  
やがて静寂が戻つた。

●谷へ降りる ..... ↪ 16へ ●その場を去る ..... ↪ 181へ

## 165

足元の地面は、すっかり干上ひあがつていてる。褐色かつしょくの土は縦横にヒビが入り、複雑な紋様を作つている。

昔、ここは湖だつたに違いない。その水が一滴残らず蒸発してしまつたのだ。こんな光景を見るたびに、水の妖精ファニーは悲しげな顔をする。

やがて遠くに丘が見えてきた。この不毛の土地にあつて、そこだけ緑に恵まれている。ぼくはその丘へ向かつた。丘は小さな森になつていて、急な坂を何度も滑りながら登り、何とか頂上へたどりつく。

木陰の涼しさが心地よい。ところどころ地中から丸い岩が突き出している。そのうちのひとつに腰をおろした。

その時だ。突如、前方の林で、葉群はぐらがガサゴソと音をたてた。

と、見る見るうちに木々をなぎ倒し、無数の赤い触手がこつちへ伸びてきた！ オクタロツクだ！

●剣で戦う ..... ↳ 196へ ●矢で戦う ..... ↳ 58へ

## 166

〔C〕

ねらいをつけ、矢を放はなつた！

それはあの、氣色悪い赤い体に深々と突き刺さつた。リーバーはドロドロとした水分を噴ふき、ぐにやりと倒れた。その体液はあつという間に砂地に吸い取られてゆく。残骸のかたわらにルピーが5つ光っている。それを拾い、また歩き出す。

(5ルピー得る)

↳ 203へ

# 167

□

旅を続けるぼくが、次に来たのはだだつ広い平原だつた。  
空には黒雲が渦巻き、その中を時折、稻光りが走つてゐる。  
そして耳をつんざくような雷鳴<sup>らいめい</sup>。

うわさに聞いた事がある。雷の平原。ここを通り抜ける者は、神の光によつて射抜かれ  
るという。

金属を持つてゐると危険だが……。

- 小道具<sup>アイテム</sup>をすべて捨てる(アイテムチエツクシートからすべての小道具<sup>アイテム</sup>を消す)⇒18へ
- 捨てずに平原を渡る ······ ⇒39へ

# 168

飛んでくるブーメランをさけ、剣で斬りかかつた。

☆バトルF

基本ポイント リンク( ) ゴーリア( )

276ページのバトル記号表を見て、Fの数字を基本ポイントにプラス。

- 勝つた ······ ⇒100へ ● 負けた ······ ⇒81へ

ぼくはそこを通り抜け、次の部屋へ入った。床の上に無数の毒蛇・ロープがいる。1匹1匹は大したヤツじゃないが……。ロープは、まるで床に敷かれた動くジユウタンに見えるほどウジャウジャいるのだ！

- 剣で一匹ずつやつづけていく……………⇨154へ
- (ローソクがあれば) ローソクに火をつける……………⇨198へ

## 170

そう。アモスの像は、手で触れないかぎり動き出さない。こいつらが束になつてかかつてこないかぎり、恐れる事はないんだ。

ぼくは手前の像に近づき、そつと手を押し当てた。

次の瞬間、ズラリと並んだ石像が一勢に青白く光り、震え始めた。見る見るうちに、そいつらは剣と盾をかまえ、ぼくめがけて襲いかかってきた！エーッ？ そんなのありかよーつ。

## ☆バトルH

基本ポイント リンク( ) アモス( )

276ページのバトル記号表を見て、Hの数字を基本ポイントにプラス。

●勝った

▽219へ

●負けた

▽42へ

## 171

□

この目玉の怪物をやつつけるには、手順をふむ必要がある。まずまわりの子分どもをやつつけ、それからボス目玉をやつつける。

ぼくは剣をめくらめっぽうにふりまわし、小さな目玉をかたっぱしから叩き落とした。だが、ヤツらはむざむざそれを待つていたわけじゃない。

エエイ！

気合もろとも、そいつらを斬<sup>さ</sup>つた。そしてボスをもひと突き。（L—F E エネ

ルギー♡一個得る）

●西の扉へ

▽11へ

●南の扉へ

▽69へ

●北の壁にバクダンをしかける

▽129へ

## 172

バクダンはその数に満たなかつた。

だが逃げるわけにはいかない。必死の覚悟で、剣を構えた。

ゴーマは風のように<sup>おぞ</sup>襲つてきた。その長い脚で大きくジャンプし、ぼくの上に落ちてく

る。

あわてて剣を突き上げるが、その堅い甲らにはね返される。

死ぬ寸前、ぼくはその巨大ガニの眼を見た。

それは氷のように冷たい眼だった。

END

### 173

〔C〕

ぼくは剣を構え、雲の中にいる竜に向けた。

その刃先からビームがほとばしる！ 光の矢が刺さつたとたん、竜は激しくのたうち、恐ろしい声で吠えた。  
続けざまに剣のビームを放つ。天空の主は、その体から雷を放つ間もなく、炎と黒煙に包まれて落下してきた。

大音響と共に地面がゆれ、巨竜は地表に激突する。

やがて炭化したその骸の中に、ぼくは10ルピーを見つけた。（10ルピー得る） → 3へ

### 174

〔C〕

南に向け、イカダをこいだ。

## 172～175

遠くに見える陸地が、だんだんと近づいてくる。ゾーラは追つてこないが、いつどこで攻撃をしかけてくるかわからない。

しばらくして、イカダは砂浜に乗り上げた。ホッとため息をついたとたん、海から音もなく光球が飛んできた。それはぼくの背中に当たり、ぼくはうめいて倒れた。（LIFEエネルギー♡一個失う）

油断は禁物だ。

ぼくは起き上ると同時に、必死に走った。波間に浮かぶゾーラは、そのでかい口を開け、ケタケタと笑っている。

### 175

ぼくは恐る恐る、右の穴に入つていった。

その穴は途中で行き止まっていた。真っ暗で何があるのか、さっぱり見えない。

闇の中で、何かが動く気配。

身がまえたとたん、そこに光る目が出現した！

ホワイトソードはある？

●YES

↓124へ

●NO

↓182へ

□28へ

すかさずぼくは、ふえを吹いた。

「リンク！」ゼルダはぼくの名を呼んだ。  
するとどうだ、ゼルダ姫の眼に生気が蘇よみがえつたのだ！

「リンク！」

ゼルダはぼくの名を呼んだ。

。

その瞬間、ぼくは胸のうちにある力がみなぎつてくるのを感じたのだつた。

驚きの表情を浮かべたのはガイアだ。ヤツは正気に返つたゼルダを見、そしてぼくをにらみつけた。その顔が見る見る変化をとげてゆく。口が耳まで裂け、前方に突き出してくる。全身は真っ黒い羽毛で包まれ、足は巨大な鉤爪かぎづめと化した。

ガイアの正体は——そう、巨大な鴉からすだつたのだ！ 巨鳥に変ぼうし終え、ガイアは翼を振つて飛び上がつた。

来る！ まつしぐらにこつちへ！

● 地上でゼルダが取つた小道具アイテムの中にバイブルがあれば…………… ↳ 136へ  
● なければ…………… ↳ 83へ

ぼくは剣を力一杯ふりまわし、襲おそつてくるテクタイトどもに切りつけようとした。だが、敵はたくみにかわし、ぼくはそのひょうしにひっくり返つてしまつた。



176 ● 魔将軍ガイアはぼくらをにらみつけた。そしてその  
顔がみるみる変わっていく。ガイアの正体は…。

背後から来た1匹が、左肩をガブリと噛んだ。（LIFEエネルギー♡一個失う。2ルピ失う）

ぼくはよろめきながら、その場を逃げ出していった。

□20へ

## 178

〔C〕

ホワイトソードで、ゴーマに斬りつけた。だがこの魔法の剣をもつてしても、そのかたい甲らをつらぬく事はできない。

それについは動きが速い。ぼくはあつという間に壁ぎわに追いつめられ、絶体絶命のピンチ。

その時だ。

ぼくは偶然にもこの巨大ガニの弱点を思い出していた。

怪物がぼくを昼飯がわりにしようと飛びかかってきた！

ぼくは剣をかまえ直し、ゴーマの大きな眼に突き刺した。

ガニは見事にひっくり返った。

脚をじたばたと動かし、やがてパツタリと止めた。そこに7ルピー落ちていた。（LIFEエネルギー♡一個得る。7ルピー得る）

ぼくはその穴を出、右に曲がり、洞窟の奥に向かつた。

□202へ

179

C

この一角獣いっかくじゅうは頭かしらが弱点はなのはず。

ぼくは奴やつがビームを放はなった直後ただごろ、反撃はんげきにかかつた。

剣けんをふり上げ、その脳天のうてんにふりおろす。鈍とんい音おとと共に、血ちしぶきが散はなる。

2打目は首くびに打ちつけた。

そして3打目。アクオメンタスの首くびは胴からから断はなち切きられ、石畳いはだの上うへへ転ころがつた！（L  
—FEエネルギー♡—個得こくとくる）

⇒ 144へ

180

C

ぼくの放はなった矢やは、ねらいどおりに敵の頭かしらや胸むねをつらぬき、勢ぜいいあまつて背後せうにいる2  
匹びきまで倒たおしてゆく。

いいぞ！思わず安心しんしんしたのがまちがいだつた。横一列に並ならんでいたモリブリンが一勢せい  
に矢やを放はなち、そのうちの1本一本がぼくの肩かたをつらぬいたのだ！（L—FEエネルギー♡2  
個失こくしつう）

ぼくはよろめきながら、その場ばを逃のが出した。木立かみだての陰かげに隠かくれ、刺ささつた矢やをぬいてた  
め息きそをつく。

⇒ 33へ

## 181

再びあてのない旅を始めた。

次第に太陽が西にかたむいてゆく。

●西へ向かう……………⇨262へ ●南へ向かう……………⇨273へ

## 182

果たして勝てる相手か……。

意を決し、ぼくはそいつに近づいた。光る巨大な眼……。その正体は、カニの怪物・ゴーマだつた！

後悔先に立たずとはこの事だ。ぼくはあわてて逃げようとした。そう、こいつは地下世界でもトップクラスの強さを誇る怪物なのだ。

だがぼくは、恐るべき速さで走るゴーマに背後から襲われた。

その巨大な口は、悲鳴を上げるぼくをパクリと呑み込んでしまった。

END

果てしない原野を、ひたすら歩き続けた。

## 183

やがてわざかだが、霧が薄くなってきた。遠くにぼんやりと、小高い丘の影が見える。  
ぼくはそこをめざして進んだ。

丘の中腹にポツカリと並んで開いたふたつの洞窟。ぼくは立ち止まり考えた。  
どうすればいい？

●右の洞窟に入つてみる …… □ 133 へ ●左の洞窟に入つてみる …… □ 114 へ

184

残る5体のアモスと戦う事にした。

だが疲労も激しく、剣を持つ手もしびれてくる。

☆バトル A

基本ポイント リンク（） アモス（）

276ページのバトル記号表を見て、Aの数字を基本ポイントにプラス。

●勝つた …… □ 38 へ ●負けた …… □ 42 へ

185

「それからもうひとつ。妖精ファニーを起こしてやるのじゃ。きっと役に立つ」  
ぼくは腰のポーチの蓋ふたを開けた。そう、ファニーはこの城に入る前に、気絶していたの

だつた。ええい、人がさんざん苦戦してたつてのに！

指先で頭をポンとたたく。とたんに妖精は飛び上がつた。

『リンク!! ゼルダは?』

「ガイアにさらわれたよ。今からヤツと一騎討ちだ。手伝ってくれるかい?」

ファニーはうなずいた。

「よろしい」老人は背後の扉に手をかけた。

「では、行くがよい」

ぼくとファニーは、魔将軍のいる部屋へ入つていつた。

□121へ

## 186

ぼくは山道を登つていく。

岩場を避け、外周をまわり込んで登りきる。そこでぼくは、ついにめざすものを発見した！ 七色の光に包まれた蜃氣楼城ミラージュ・キャッスルが、岩の高台の上に出現していたのだ。

全力で走つた。城が消える前に、たどり着かなくちやならない。地面は雪で覆われ、滑りやすい。やがて両側を氷の崖がけにはさまれた道にさしかかつた。

そこでハタと足を止めた。左側の氷壁の中に、グリオーグが眠つている。3つ首の巨大なドラゴンだ。

そいつはふいに眼を開けた。三白眼がぼくを見すえていた。

●進む……………▽126へ ●グリオーネと戦いたくないので引き返す……………▽16へ

## 187

ホワイトソードをかまえた。

グリオーネは3つの首をくねらせ、迫つてくる。口から吐く火球は、雪を蒸発させ、露出した岩をも溶かしてしまった。

食らつたらひとたまりもない。

その火球をかわしながら、グリオーネの懷に飛び込む。

気合いをこめて首を叩き落とし、すかさず飛びすさつた。

するとどうだ。その、落ちた首が、それだけでひとつ生物のように、宙を舞い襲ってきたじやないか！

### ☆バトルD

基本ポイント リンク（—） グリオーネ（—）

276ページのバトル記号表を見て、Dの数字を基本ポイントにプラス。

●勝つた……………▽217へ ●負けた……………▽6へ

北の壁にバクダンを1個仕掛けた。

爆音とともに岩が舞つた。(バクダン一個失う。チェック表に記入)  
すると、そこにはポツカリと穴が――。

▽169へ

### 189

次の部屋にはヒトダマがうようよいた。

入つたとたん、そいつらは、ぼくに向かつてきた。光の中にはガイコツの顔があり、不気味にケタケタ笑つている。

こいつはバブルという名の化け物だ。触ると手がしびれ、剣が使えなくなる。

よけようと身をかわしたとたん、後ろにいたヤツがぶつかってきた。うつ！ ぼくは片膝ひざを突き、うめいた。

だが本当の脅威は別の所にいた。

飛び交うヒトダマのため、気づかなかつたのだ。部屋の隅にうずくまつていた怪物が、その大きなひとつ目を開いた。

カニの怪物・ゴーマだ！

●バクダンが3個以上あれば…………▽61へ ●なければ…………▽172へ



189 ● 飛びかう無数の人魂。その中には不気味に笑うガイ  
コツの顔。だが本当の敵は、別の場所にいた。

マジカルキーを使い、扉を開いた。何もない。長居は無用、すぐにそこを出た。元の部屋へ戻り、さうにどつちへ行くか考える。

⇒ 9へ

## 191

〔C〕

そんなにバクダンは残っていない。どうすればいい？

まごまごしているうちに、ドドンゴが突進してきた。ものすごい地響き、城郭じようかくが崩れそうだ！ 逃げようとしたぼくは、そのゆれで倒れてしまった。

激しい衝撃しようげき。次の瞬間しゅんかんぼくはドドンゴに突き飛ばされ、石壁に叩きつけられた。（――）

FEエネルギー♥3個失う

体を引きずつて逃げ出した。幸い奴は、その巨体のせいで、方向転換に苦労している。ぼくはよろよろと立ち上がる。

⇒ 22へ

## 192

「それは影だ」とぼくはいった。

「がつちよくん」魔術師はのけぞつた。そして再びこつちを向き直り、「よろしい。では、第2問！」

# 190～194

「え!? まだあるのかよ」

「そうじゃ。第2問! 下痢はつまらない病気。では便秘は?」

● 答えがわかつたら ..... □ 107へ ● わからなければ ..... □ 115へ

193

□

ぼくは必死に剣をくり出した。

「氣味悪いヤツ。あつち行け。この! この!」

振りまわした剣が、手の妖怪にめり込んだ! とたんにこいつは、パツと消えた。(L-

F E 工ネルギー♡一個得る)

194

その場に仁王立ちになり、ヤツが地上へ来るのを待つた。降りてくれば、剣でやつつけ  
てやる。

果たして、巨竜はぼくを見つけて舞い降りてきた。巨大な口をカツと開け、黄金の体を  
波打たせるのがはつきり見えた。

その時ぼくは、どう見ても勝利のチャンスはない事を悟った。あいつは地上へ降りる前  
に、ぼくに雷を投げつけるだろう。

そう、その通りだつた。

▽163へ

## 195

氣がついた時、ぼくは洞窟の闇の中に倒れていた。両足は落ちてきた岩にはさまれてい  
る。

その岩を押しのけ、何とか足を引きずり出す。奇跡的に怪我はない。

ファニーの事が気になり、ポーチを開けてみた。よかつた。無事だつた。彼女は砂ぼこ  
りの中で、しきりにクシャミをしている。

それからぼくは、暗がりの中を歩いた。

洞窟の奥へ向かつて……。

▽86へ

## 196

ぼくは剣の柄<sup>え</sup>に手をかけた。ホワイトソードを持っている？

●YES

▽58へ

●NO

▽37へ

北の扉を開けた。

## 197

## 194～199

だがその向こうは暗闇の世界。そこは部屋じやなかつた。何故なら、足元に床がなかつたからだ。

耳鳴りとめまい。ぼくはその異次元空間を泳ぎながらあえいでいた。

やがて出口の扉が見えてきた。それは左右に揺れながら、ぼくに近寄ってきた。

そしてその扉を開け、次の部屋に入る。

あれ？　ぼくはポカンと口を開けた。どこかで見たような……。

▽128へ

## 198

ローソクに火を点け、ロープどもに向けてかざしてみた。

驚いた。予想外の反応。毒蛇たちは、まるで海が断ち切れるかのように、左右にザツと分かれてしまった。ぼくはその間を通った。

こいつら、驚くほど火に弱いぞ。ぼくは樂々と、その危難をくぐり抜けた。▽19へ

## 199

〔C〕

LIFEエネルギーは満杯だ。

今なら剣のビームが使えるぞ。ぼくは光る剣をかまえ、アクオメンタスに向かって。その一角獣の放つ三連のビームをよけ、ぼくは気合いをこめる。剣は突如七色に輝き、

とうじよ

ビームの矢を放った。

一角獣はのけぞつて吠えた。巨大なあごを開き、再びぼくにビームを放とうとする。だがぼくはそのチャンスを与えるなかつた。

再び剣を向ける。

光の矢がアクオメンタスに突き刺さる！

やがて大音響と共に、怪物は倒れた。

ぼくはそのそばで、ハシゴを拾つた。（ハシゴ入手。アイテムチェックシートに記入）

▽144へ

200

巨大なキツネの顔——ポルスボイスが襲つてきた。コミカルな容姿にもかかわらず、なかなか手強いヤツだ。

剣をかまえ、斬りかかつた。

おつと、意外に動きも速い。素速く飛びまわるポルスボイスに、ぼくはすっかりまどわされ、尻もちをつく。

こりや、逃げる方がいい！

壁の穴から抜け出し、もう一度出口を選んだ。

▽9へ

201

C

ブーメランをさけ、バクダンを1個、奴らに放<sup>はな</sup>つた。逃げもしないところを見ると、その怪物はバクダンを知らないようだ。

大音響と共に爆発した時、ゴーリアめ、さぞかし驚いただろう。（バクダン一個失う）

舞い上がる煙の中、バラバラになつたゴーリアの死体のそばに、マジカルブーメランが落ちていた！（マジカルブーメラン入手。アイテムチェックシートに記入。ただし、一度通つた人は取れません）

□242へ

202

闇の中を泳ぐように、ぼくはどこまでも歩いていく。時折、ゴオツという音をたて、風が吹き抜ける。まるで竜の叫び声だ。やがて前方左に、小さな穴を見つけた。

●入つてみる ..... □146へ ●入らずまつすぐ進む ..... □29へ

203

情け容赦なく照りつける太陽の下。ついにぼくは砂の海に倒れ込んだ。体中の水分が蒸発してしまつたようだ。何に代えても、一杯の水がほしかつた。

LIFEエネルギーは、♡5個以上？

● YES ..... ⇄ 225へ ● NO ..... ⇄ 141へ

## 204

[C]

銀の矢を弓につがえ、引きしほる。  
絶大な威力を持つそれを放つた時、巨竜はぼくめがけ、空中を突進してくるところだつた。

銀の矢はその巨大な口の中に飛び込んだ。竜は恐ろしいうなり声と共に身をくねらせ、やがて地表めがけて落下していく。地響きがした。大地に叩きつけられた怪物は、それつきり動かなくなつた。(LIFE 工ネルギー♡2個得る)

そしてその死骸のそばに、ルピーが10個散らばっているのを見つけた。(10ルピー得る)

⇨ 3へ

## 205

グリオーネが迫ってきた!

どう戦おうかと考えている時、怪物のすぐそばに巨大な氷壁があるのを見つけた。

● バクダンがあれば ..... ⇄ 66へ ● なければ ..... ⇄ 13へ

## 203～207

の死骸が浮かび上がる。  
同時に3つの水柱が立ち、ぼくのイカダは激しく揺れる。そしてポツカリとゾーラども

B O M……!!

いる海に投じた。

207

[C]

ぼくはバクダンを3つ、袋から取り出した。火打ち石で導火線に点火、ゾーラが群れて

●入つてみる ..... ↳ 237へ ●入らない ..... ↳ 97へ

ダン5個得る)  
吊り橋をわたり終え、山道を下つていった。  
途中、岩場に開いた洞窟を見つけた。

「どうだい。これなら通してくれるだろう?」  
「よろしい。では、かわりにバクダンを5個やろう。旅の無事を祈るぞよ」

何が無事を祈る、だ。アホらしいナゾナゾを仕掛けときやがつて。(10ルピー失う。バク

10ルピーを魔術師に渡した。

206

[C]

●入つてみる ..... ↳ 237へ ●入らない ..... ↳ 97へ

(LIFEエネルギー♡2個得る。バクダン3個失う)

やがてイカダを浜に乗り上げ、ぼくは上陸した。そこは緑がまだ残った土地だつた。

▽229へ

## 208

(バクダンがなければ、この城の迷宮は突破できません。地上へ戻り、バクダンを手に入れて戻ってきて下さい。)

▽167へ

## 209

スキを見て、アクオメンタスの腹に剣を突き刺す。

肉にめり込む鈍い感触。

ところが剣が抜けない。ぼくはあせり、ヤツの脇腹に足をかけ、力づくで引き抜こうとした。

怪物が吠えた。そしてこっちを向いた。

ぼくは金縛りにあつていた。アクオメンタスはその口からビームを放つた。一瞬後、ぼくは炎に包まれた。

END

氷の山脈へ行つてみる？

210

YES

186へ

NO

181へ

211

C

「お前さん、名は何といいうんじやね」老人はやさしい声でそうきいた。

「ぼくはリンク。魔将軍ガイアの棲む蜃氣樓城を探して旅をしています」

「ほう。蜃氣樓城か。あの城はそう簡単に見つかるもんじやないよ」

「知つているんですか？」

「フム。わしも一度だけ見た事がある。ありや時間と空間を超えて旅をするため、七色のバリアで包まれておる。美しい城じやつた」

「どこで見たのですか？」

「セイバーの森じや。リンクとやら、城を探すなら、ピーハットのいない所へ行つてみる事じや。あの妙な植物は、城を包む七色のバリアを吸い取つてしまふでな。だから城は、ピーハットのおる所には出現せんはずじや」

「ありがとう。おじいさん」ぼくは礼をいい、2ルピーを渡した。（2ルピー失う）

そしてその洞窟を出る時、老人はぼくに魔法のふえをくれた。（ふえ入手、アイテムチエ

(ツクシートに記入)

● 東へ ..... ↓ 261へ ● 西へ ..... ↓ 259へ  
● 南へ ..... ↓ 167へ ● 北へ ..... ↓ 258へ

212

はやる気持ちを抑え、ぼくは蜃氣樓城ミラージュ・キャッスルへ近づいた。驚いた事に、城はほんのわずか、地面より浮いてる。人間がくぐり抜けられるぐらいの高さだ。

城壁に飛びつく。石のブロックは隙間すきまが多く、そこに手足をかけば楽に登れた。疲れた体にムチ打って、やつとの事で壁を登りきつた。

中庭に降り立つ。外の景色が七色に光り輝いている。砂漠は消え、代わりに原色の渦巻こうまき模様が交錯こうさくしている。城が空間転位を始めたのだ。

城館は3つの尖塔せんとうを持つ建物でできていた。この城のどこかに、憎き敵、魔將軍ゼネラルガイアがいる。倒さない限り、ハイラルに平和は戻つてこない。

入口はすぐそこにあつた。ドラゴンでもくぐり抜けられるほど大きな扉がある。

その時、何かが風を切る音がした。黒い竜巻たつまきが頭上から襲つてきたのだ！

それは渦の中にぼくを取り込むと、城の石壁に叩きつけた。恐ろしい力だ！

動けないぼくのそばに、誰かがやつてきた。そいつは今しがたぼくを襲つた竜巻のよう

に黒い、影のような男だつた。

ほくの胸にかかつた水晶球・クリスタルムーンが奪い去られる。声のない叫びをあげたが、意識は急速に薄れていった。

ゼルダ姫は、またしても敵に捕まつてしまつた。

やがて我こ返つたまくは、武器を手こゝでぬつくり立ち上がる。ボーリチの中をのぞいて

やがて私は逃げたはくは武器を手にして吹き下ろした。ボーチの中をのぞいてみた。ファニーは、竜巻のショックで気絶している。

ゼルダ姫……。ぼくは彼女をさらつた男を追いかけて、城館の中へ入つていった。

最初の部屋は壁ばかりの無機質な部屋だ。出口はどこにもない。どうなつている？

● バクダンがあれば  
↓ 55  
↖ なれば  
↓ 208  
↖

2  
1  
3

ヒントはありがたかつたけれど、この老人、ホントに大丈夫なんだろうか。ま、いいか！  
ぼくはこの洞窟を去る事にした。

「ありがとう、おじいさん。では、これで——」クルリと背を向けた。

「まてイ！」突如、背後から老人の声。

「——ところでお主、何という名前じゃ」

ぼくは岩壁に頭をぶつけた。

## 214

明かりがない。これは困った事になつたぞ……。

●このまま部屋に入る ..... ↳ 57へ ●戻る方がいい ..... ↳ 169へ

## 215

右の洞窟へ入つていつた。崩れかけた穴だ。

もしかすると、ここで重要な情報を何か得られるかも知れない、と期待しながら。

闇の中、何かが鋭く光つた。

近づいていくと、ガラガラ蛇に似た音が聞こえた。そして巨大な光る眼が開かれる。  
ゴーマだ！ カニの怪物。ひとつ目の手強いヤツ――。

●バクダンを一個使ってみる ..... ↳ 54へ ●逃げる ..... ↳ 71へ

## 216

〔C〕

ガイコツ兵は、その不気味な風体にもかかわらず、弱いヤツだつた。勝敗は目に見えて  
いる。斬りかかってくる化け物を一匹、斬り払う。斬られた奴は、文字通りバラバラにな  
り、床に崩れ落ちる。

その時だ。落ちていたスタルフオスの骨を踏んだとたん、ぼくはひっくり返った！

油断大敵とはこの事だ。

起き上がろうとした時、敵の鋭い剣がぼくの肩を刺しつらぬいた。（LIFEエネルギー

♡1個失う）

傷口を押えて後退りし、ぼくは逃げ出した。

□9へ

## 217

□

飛んできた首をかわし、残るふたつの首をも斬り離した。すると3つの首はそれぞれ宙を舞いながら、火の球を吐いてくる。

その熱で雪や岩が溶け、もやで視界はゼロになる。

それはかえつて好都合だつた。首どもがこつちを見失つたのに對し、ぼくは本体の位置をしつかりおぼえていたのだ。

剣をかざし、グリオーラにトドメを刺す。断末魔の声と共に、3つの首は地上に落下する。（LIFEエネルギー♡2個得る）

グリオーラの死骸から、5ルピーと銀の矢が数十本出てきた。それを拾い、また城めざして走つた。（5ルピー得る。銀の矢入手）

□164へ

必死に剣をふつた。

2、3匹のピーハツトを斬り落としたが、何しろ足場のせまさは致命的だつた。バランスを崩し、ぼくは崖を落<sup>さき</sup>下していく。

地上へ叩きつけられた時、何か柔らかい物にぶつかり、はね上げられた。死を覚悟していたぼくは、予想外の事に驚いてしまつた。

それはぼくが殺したピーハツトの死体。何とも幸運というほかない。だが、ぼくは落下のショックでしばらく動けなかつた。

(LIFEエネルギー♡一個失います)

▽152へ

## 219

敵の剣をうまくかわし、ぼくは反撃に転じた。

アモスどもは皆、攻撃力、防衛力ともにすぐれている。が、たつた一つ弱点がある。それは、奴らの動きがぶい事だ。ぼくはたくみに敵の背後を取り、一撃を加えてやつた! ヤツらの死体の側に5ルピーやつた。(5ルピー得る)

倒したアモスは5体。残る数もあと5体だが……。

●もう限界だ。逃げよう…………▽4へ ●あくまでも戦う…………▽184へ

体力の消耗<sup>しょうもう</sup>は予想外に大きかった。

ロクにねらいをつけないうち、矢は勝手に飛び出し、あさつての方角へ消えていった。リーバーはまた砂の中にもぐり、見えなくなつた。ぼうせんとしているうちに、今度は足元の砂地がくずれ始めた。あわてて飛びのかなかつたら、そのままヤツの蟻地獄<sup>ありじごく</sup>に落っこちていただろう。

ぼくはとっさに逃げ出した。怪物は追つてはこなかつた。

(LIFEエネルギー♡一個失う)

221

▽203へ

「くだらない病気の事だ」とぼくは答えた。

「がつ……ちょ——ん！」老人はまたのけぞつた。「——では、第3問!!」

「ちょ、ちょつと待つた。そのナゾナゾつて、いつたいいくつあるんだ？」

「3万5千ほど用意してあるが……」

「がつ……ちょ——ん！」今度はぼくがのけぞつた。こんなにつき合つてたら時間の無む駄<sup>だ</sup>もいいところだ。

「他にこの橋を渡る方法はないの？」

「フム。お主が10ルピーくれるならばそれを通行税にして通してやろう」

●10ルピー持っている ..... ⇣ 206へ ●持っていない ..... ⇣ 60へ

## 222

扉を抜け、次の部屋に入つていく。

何もない部屋だ。石畳と壁に囲まれているだけ。肩をすくめた時、背後で扉が閉まつた。押しても引いてもビクともしない。開けるには、マジカルキーが必要なのだ。

●マジカルキー持つている ⇣ 190へ ●持つていない ..... ⇣ 239へ

## 223

次の部屋は東西に長い水路がひかれていた。対岸にスタルフオスが2匹！　こいつは剣を操るガイコツの兵士だ。そのうち1匹は、肋骨の中にマジカルロッドを入れている。

戦うには、水路の向こうへ渡らなければならない。ハシゴは持つている？

●YES ..... ⇣ 231へ ●NO ..... ⇣ 106へ

## 224

〔C〕

ぼくは左側の洞窟へ入つていった。



223●水路の対岸にガイコツ兵士・スタルフォスが2匹。  
そのうち1匹は、肋骨の中にマジカルロッドを！

奥の闇の中に、ふたつの松明たいまつが灯り、赤い僧服の老人がいた。

「ハウディ、ナイスボーキ！」

突然ひょきんな声で老人はいった。ぼくはひっくり返りそうになりながら怒鳴どなる。

「あ、あのねえ。せつかくのシリアルドラマを、あんたたちはいつも台無しにするんだからな」ぶんぶん。

「ほつほ。たまには息抜きも必要じやて。ときにそこの青少年、何をおさがしかな」

「ぼくは魔将軍ガイアのいる蜃氣樓城ミラージュ・キャッスルをさがして旅をしているんだ」

「蜃氣樓城ミラージュ・キャッスルとな」老人は杖つえの先で地面の上に、無数の「の」の字を書き始めた。

「あの城は悪魔の城じや。いつさいの清淨せいじょう、いつさいの善、いつさいの美を排し、暗黒界に君臨する魔王の棲み家。すなわちそれは、忌まわしき呪われし地にあるという事じや。わかる？」青少年

「忌わしき呪われし地……」だがハイラル地方はガイアの呪いによつて、その全土が呪われているじゃないか。

ふいに腰のポーチから、フアニーが顔を出した。『妖精の泉だけは例外よ、リンク』

そうか……。蜃氣樓城ミラージュ・キャッスルは妖精の泉の近くには出現しないんだ！

「ありがとう、おじいさん」

「よいつて事よ。達者でやつてくれ。ところで、お主にとつておきのプレゼントを授けよ

## 224～225

う」老人はそういう、ぼくにマジカルロッドをくれた。（マジカルロッド入手）  
「ところで、お主は誰じや？」

ぼくは出口の岩壁に額をぶつけ、外の坂道を転げ落ちていった。

□20へ

## 225

ぼくは砂の海に沈んでいた。

まわりの光景は陽炎ひがとうのため、幻のように揺ゆれている。そのユラユラ動く地平線から、人影が現われた。

こんな所を歩いているなんて、あの人は一体どうしたつていうんだろう？　ほんやりと考えるうち、ぼくは気を失っていた。

しばらくして目を覚ました。ぼくは誰かに背負われていた。骨太で頑丈な肩の上で、この人間がさつき見た人影と同一人物だとほんやり思っていた。

「あと少しじゃ。辛抱しんぱうしろ」と声がした。

ぼくはまた意識を失った。

次に気がついた時、そこは暗い洞窟の中だつた。松明たいまつがふたつ灯り、赤い僧服の老人がすわっている。

「あなたは……」

「わしか？ わしゃ、ただのじいさまじやよ。それよりもお前さん、元気になつて何より  
じやつた」

ぼくは助けてもらつた礼を述べた。

▽211へ

## 226

いただき  
頂とがが鋭角に尖つた山が、いくつも並んでいる。

ぼくはその間を歩いていった。

あたりはうつすらともやに包まれ、静寂に支配されている。

やがて頂上を、灰色の雲にスッポリと包まれた、ひときわ高い山が見えてきた。風が白  
いもやを吹き飛ばすと、その全景がよく見えるようになつた。いくつもの峰が重なりなが  
らできた山。その形ゆえにのこぎり山と呼ばれている高山だ。

ぼくはふもとまで歩いていった。岩場にふたつの洞窟があつた。そこに入つてみようと  
思つた。だが、厄介やうかいなヤツがいる。クモの化け物テクタイトだ。ファニーをポーチに隠し、  
ぼくは進む。

細長い4本足と、大きなひとつ目の目玉が氣味悪い。そいつらは、何と5匹もいる。そし  
て時折ピヨンピヨンと跳んで、ぼくを威嚇いかくしている。LIFEエネルギー♥は満杯？

●YES

▽235へ ●NO

▽63へ

# 225～229

227

東と西。どつちの扉から出る？

● 東の扉 ..... ▷ 128へ ● 西の扉 ..... ▷ 161へ

228

銀の矢は持っていない。普通の矢を射てもとても竜のいる所までは届かない。仕方なく、ぼくは剣を抜く。

LIFEエネルギーは満杯？

● YES ..... ▷ 74へ ● NO ..... ▷ 194へ

229

[C]

しばらく歩き続けた。突然、行手を霧がおおい、あらゆる危険・障害を隠している。足元は背の低い草がビツシリ生え、白いカーテンの向こうで、フェイドアウトしている。『気をつけて、リンク！ 何かが羽ばたく音がするわ』耳のいいファニーが、ポーチの中から警告してくれる。

何だろう？ 剣を抜き、身構えた。

もやを突つ切つて、ピーハットが出現した。花ビラを回転させ、空中を飛びまわる食肉

植物だ。触るとダメージを食らう。気をつけなきや。

ぼくは剣を使い、霧の中からしつこく現われては襲つてくるピーハットどもと戦つた。一度背後を取られ、毒針で腕を刺されてしまった！ かろうじてそいつを剣で突き刺し、ぼくはその場に倒れた。（L-E-F-Eエネルギー♡一個失う）

そのピーハットが最後の1匹だった。そのおかげで、ぼくは命拾いしたのだ。何とか起き上がり、体を引きずるようにして歩き出す。

『リンク、大丈夫？』ファニーが飛びながら、ぼくを勇気づけてくれる。

その時、前方の白い闇の中。何かの影が立ちはだかり、ぼくを待ち受けていた。サツと風が吹き、ほんの一瞬だが、霧を追い払つた。そしてぼくは、敵の姿を垣間見た。いかつい小鬼モリプリンだ！

武器は？

●剣を使う

→ 49へ

●矢を使う

→ 140へ

230

C

数本の矢を放ち、きりがないと見るや、ぼくは霧にまぎれるゲリラ戦法をとつた。動きの鈍いモリプリンどもに、剣をかまえて一太刀浴びせ、また霧に隠れて移動する。

怪物たちはアワを食い、同士討ちをするなどのパニックの中で、全滅していく。ヤツ

らの死体のそばに5ルピー光っていた。（5ルピー得る）

→33へ

## 231

折りたたみ式のハシゴを持っていた。

それを水路にかけ、向こうへ渡る。待つてましたとばかりに、ガイコツ兵・スタルフオスがかかるつてきた！

### ☆バトル①

基本ポイント リンク(+) スタルフォス(−)

276ページのバトル記号表を見て、0の数字を基本ポイントにプラス。

### ●勝つた

→119へ

### ●負けた

→216へ

## 232

〔C〕

5ルピー<sup>ゆき</sup>恵んでやつた。（5ルピー失う）すると老人はこういつて手紙をくれた。

「これをホラ穴に住むおばあさんに渡しなさい。何かを教えてくれるじやろ。そしてもうひとつ、この洞窟をもつと奥に行くと、やがて山の反対側へ出る。そこに妖精の泉がある」（手紙入手）その名をきいたとたん、ポーチの中でファニーが跳び上がった。  
「ありがとう、おじいさん」礼をいい、ぼくは洞窟の奥に向け、歩き出した。

「よいっつて事じや。ところでお主、誰だつたかの？」

ぼくは岩壁に頭をぶつけた。

しばらく行くと、確かに山の反対側へ出た。そこは一面の野原。草花が咲き乱れ、蝶が舞つている。

「ファニー!!」ぼくは妖精を呼び出す。ポーチの中から飛び出した彼女は、嬉しそうにあたりを飛びまわる。

やがて泉に着いた。

そこはぼくにとつてもファニーにとつても、心のやすらぐ泉だつた。

(持てる♡の分だけLIFEエネルギーを満杯に)

□47へ

## 2 3 3

□ C

カツと開いた大きな口。

ぼくはそこに向け、矢を射ち込んだ。触手の動きが一瞬止まつた。が、すぐにこつちをめざして伸びてきた。きき目なしか！(LIFEエネルギー♡2個失う)

とつさに枯木の後ろに隠れる。いやらしい触手はその木に巻きつき、ぼくとカン違いしたのだろう、それをへし折つて持つていつた。

□82へ

# 232～236

☆バトルB

基本ポイント リンク( ) モリブリン( )

276ページのバトル記号表を見てBの数字を基本ポイントにプラス。

●勝つた

●負けた

▽180へ

235

□

剣を抜き、ピヨンピヨンと目ざわりなテクタイトに切っ先を向ける。

剣は七色に光り、突如そこからビームがほとばしった！ 化けグモどもはそれを食らい、次々と散つていった。ぼくはその横にマジックシールドを見つけた。（マジックシールド入手。チェックシートに記入）

▽156へ

236

怒りに目を燃え上がらせた大鶴<sup>からす</sup> ヤツにはすでに、人間の理性はなくなっていた。  
そして——何て悲惨な結末なんだろう。ガイアはその巨大なクチバシで、ぼくとファニ<sup>ヒ</sup>、それに花嫁にするはずだつたゼルダまでを捕らえ、ムシャムシャと食つてしまつた。

UNHAPPY END

234

洞窟に入つて いつた。

ふたつの松明の火に照らされ、老人がすわつて いるのが見える。

「わしは誰じや」と老人は いつた。「ここはどこじや」

ぼくはムツとして彼に近寄り、落ちていた石で頭をポカリとやつた。まるで表情が凍りついたように口を開けたまま、老人はバタリと倒れた。

しばらくして年寄りは息を吹き返した。

「すまない、おじいさん。さつき吊り橋でバカな魔術師を相手にして いたから、ついカツとなつちやつたんだ」

「——ああ。よいつて事じや。実は最近、物忘れがひどくてな。ちょっと前の事も思い出せぬ。さつきは自分が誰かも忘れておつた。お主のおかげで思い出したよ。ところでお主の名は?」

「リンク。魔将軍ガイアの蜃氣樓城を探して旅をして いるんだ」そして事情を説明した。

「ほう。蜃氣樓城とな」老人はその名を知つて いるようだつた。「それならヒントを教えよう。あの城はトライフォースが隠された場所には出現せんのじや。何故なら、トライフォースの力は、あの悪魔の城のパワーを崩壊させるからじや」

ぼくはうなずいた。

「もつといいことを教えてやつてもよい。ただし、5ルピー<sup>めん</sup>惠んでくれればのウ」

● 恵んでやる ..... □ 232へ ● やらない ..... □ 213へ

2 3 8

□

剣をかまえ、突こうとした。

そのとたん、ウォールマスターは音もなく、再び壁に没していった。

逃げたのか!? ホツとしたとたん、そいつは床から出現した。あつという間にぼくは、その巨大な手につかまっていた。

「うーわー!」体がしびれ、動けなくなつた。そしてぼくは妖怪につかまれたまま、いっしょに壁をぬけていった……。ドサリ! やがてどこかに投げ出された。(LIFEエネルギー<sup>おも</sup>ギー♡一ヶ失う) 目の前に扉がある。それを開けて入つていった。

□ 80へ

2 3 9

完璧に閉じ込められてしまつた。

四方の壁は、どんなに手を尽くしても開かない。ぼくはその場にすわり込み、これからの運命を想つた。

END

## 240

さて、次の部屋へ行こう。  
北と東の扉を選ばなきや。

●北の扉へ行く ..... □223へ ●東の扉へ行く..... □7へ

## 241

[C]

テスチタートはてごわかつた。

4本の巨大なハサミ、その攻撃もすさまじいが、ハサミから放たれる光球にも苦しめられた。

ぼくはじりじりと後退あとずさりし、ついにその岩穴を逃げ出すことになった。命あつてのものだねだ。（LIFEエネルギー♡一個失う）

## 242

この部屋の扉は西と南にある。

どつちから出る？

●西から出る..... □7へ ●南から出る ..... □142へ  
●いや、待てよ、と思いとどまる ..... □21へ



241●怪物テストチートは、4つのハサミで攻撃していく。  
る。とてもかなわない！　ぼくは逃げ出した。

ぼくはハシゴを使う事にした。

それを対岸の扉まで掛ける。ちょっと不安定だけど、何とかなりそうだ。

ハシゴを渡り始めた。頭上と足元で、異次元空間が渦を巻いている。落ちるとどうなるのだろう、とふと思つてしまふ。

やがて反対側の扉に着いた。そこを開け、部屋へ入つてゆく。

▽65へ

## 244

〔C〕

奥へ歩いていつた。

松明がふたつ灯つている。その明かりで照らされた部屋に老婆がいた。

「あんたア、誰ね？」と彼女はいつた。

「ぼくはリンク。蜃氣樓城ミラージュ・キャッスルを求めて旅をしています」

「そりや、えりやー（えらい）ものをお探ししとられますな」

「あの城を知つてますか？」

「知つとるよ。あの城は時空を抜けて飛ぶ時に、七色のぱりやあ（バリヤー）を張つとーがや。そんだども。あのぱりやはピーハツトいう怪物が食べるがや。つまり、蜃氣樓城ミラージュ・キャッスルは、ピーハツトのおる所にやあ出現せんがや」

## 243~246

そういえば、この山もピーハツがいたな。

「——ところで、あんた。じーさまからもろうた手紙。持つとーかや？」

●手紙を持つている……………⇨77へ ●持っていない……………⇨90へ

### 245

ガイアの表情が険悪になつてゐる。

ゆつくりとイスを立ち、こちらへ足を踏み出した。

ぼくは銀の矢とマジカルロッドを持つてゐる。どうすればいいんだ!?

それを組み合わせてみた。十字架の形に！

そのとたん、まぶしい光が生じた。ガイアがうめいて、目をおおつた。

今だ！ 剣を抜き、ぼくは疾走した。

ガイアはカツと目を見開き、仁王立ちになつた。

### 246

イカダは潮流に乗つて進んでいつた。

波間に、時折、半魚人ゾーラの姿が見える。が、攻撃はしてこない。

念のため、ファニーにポーチに隠れているよういう。

⇨24へ

東を見ると、陸地がある。南にも陸は見えるが、ずい分遠く、おぼろにかすんで見える。  
ちょうど東南の位置——蒼あおい山脈の背後に、三角形の建築物の突端とうたんが見える。ピラミツ  
ドだろうか？

●東へ向かう ↳ 123へ ●南へ向かう ↳ 174へ ●北へ向かう …… ↳ 93へ

## 247

C

群れをなして歩いているモリプリンに矢を放はなつた。

最初の3本で3匹を倒したあたりから、奴らがやくしゆうが逆襲ぎやくしゆうしてきた。敵の矢を巧みにかわしながら、ぼくはありつたけの矢を射続けた。

やがてぼくは、弓を持つ手をおろした。そこらじゅうに、頭や胸を射抜いぬかれたモリプリンの死体が転がっている。

ぼくは勝ったのだ。（L—F Eエネルギー♥—個得る）

モリプリンの死体のそばに、5ルピーとマジカルロッドが落ちていた。（5ルピー得る。  
マジカルロッド入手。チェックシートに記入） ↳ 33へ

## 248

C

マジカルロッドを持った。

それをガイアに向けて突き出す。ロッドが光り輝き、呪文が矢となつて放たれた。だがそれは魔将軍の手前で、無数のコウモリに変わり、反転してぼくを襲つてきた。

ファニーが悲鳴をあげて逃げまどう。ぼくは剣を振りまわしてコウモリたちを斬り落とす。(LIFEエネルギー♡一個失う)

●銀の矢を使う ↓104へ ●ブーメラン(あれば)を使う ↓147へ

## 249

C

マジックシールドを持つていたのは、大きな強みだ。これは魔物たちのほんどの攻撃から、ぼくを守つてくれる。

モリブリンの放つ矢も、例外じやなかつた。奴らは縦や横一列にならび、一勢に矢を放つてくる。

ぼくはシールドを前に立て、その攻撃をかわしながら逆襲に転じた。動きのにぶいモリブリンどもをやつつけるのに、時間はかからなかつた。

ヤツらの死体のそばに5ルピーを見つけた。(LIFEエネルギー♡一個得る。5ルピー得る)

そしてぼくは、その場を後にして歩き出した。

↓33へ

250

〔C〕

土煙(づけむり)が激しく舞い上がった。その中で、ぼくは見た！ 今までいたあの丘が、ほんのわずかだが空中に浮き、左右にゆれながら移動していくのを。

いや、浮いてるんじゃない。あれは4つの大きな足に支えられているんだ。

何と丘は、1匹の巨大なカメの甲だつた！

そいつは背中にある森の木々を揺らしながらノツシノツシと歩いてゆく。後には大きな足跡が点々と残っている。ふと見ると3ルピー落ちていた（3ルピー得る）

大亀が遠くに去ると、ぼくはハツと我に返つた。

●北へ……………▽264へ ●東へ……………▽50へ ●西へ……………▽269へ

251

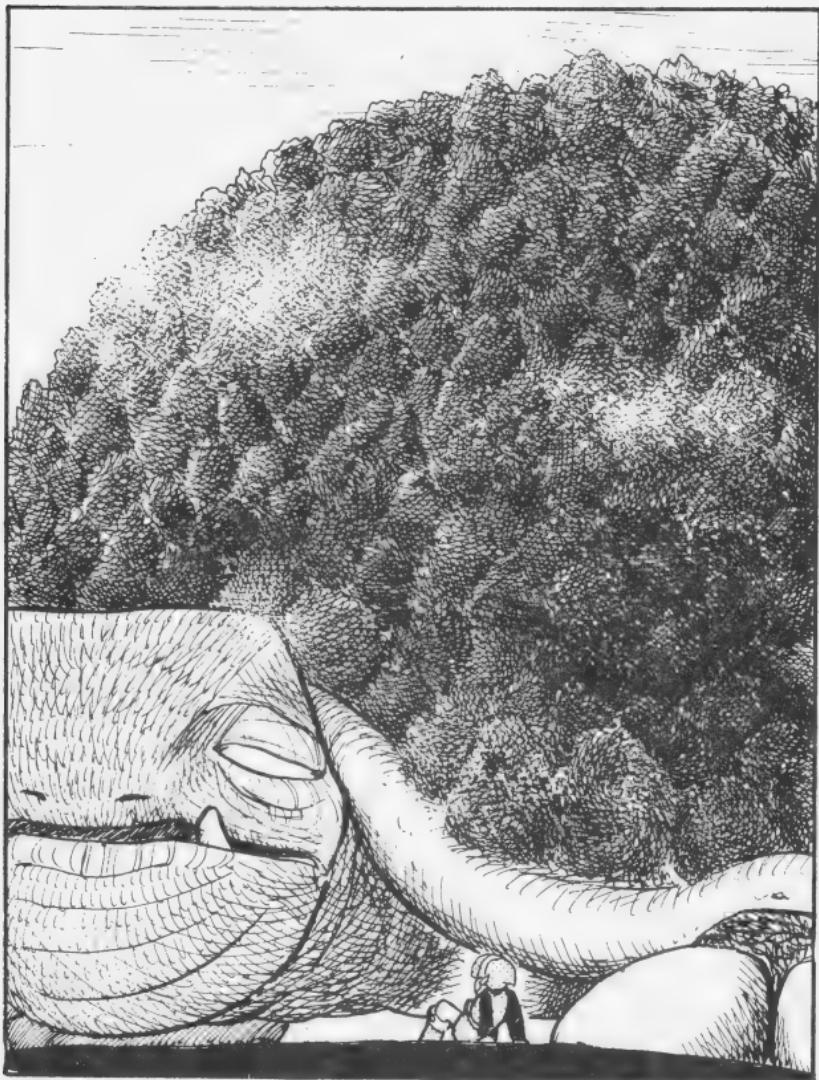
〔C〕

中心のボスをねらつた。

が、まわりを飛ぶ子分の目玉にはばまれ、うまく行かない。そのうち子分どもの攻撃が激しくなってきた。縦横無尽(じゆうおうむじん)に飛びまわり、体当たりしてくる！

ぶつかるたびに、ぼくの体力は下(ひ)上がりつてゆく。くそつ、これじゃ袋叩(あ)きだ！ （L-1

F E エネルギー♡2個失う）ぼくはあわてて逃げ出した。



250●舞い上がる土煙の中で、ぼくは見た。その丘は左右  
にゆれながら歩いていく。何と巨大なカメだ！

●南の扉へ

▽69へ

●西の扉へ

▽11へ

252

□

東の壁にバクダンを置いた。  
火柱と轟音。そして——そこにポツカリと穴が開いた！（バクダン一個失う） ▽94へ

253

□

よく見ると、テクタイトは単調な動きをしている。一度ジャンプすると、次のジャンプまで時間がかかるのだ。

ぼくは大グモが飛びはねた直後に接近し、背後から斬りつけた。2匹をあつという間に倒すと、残った1匹は逃げていった。後には5ルピーとマジックシールドが落ちていた。  
(LIFEエネルギー1個得る。5ルピー得る。マジックシールド入手) ▽156へ



歩いているうちに、西の地平線の向こうに太陽が沈み始めた。少しでも旅を先へ進めようと、ぼくは急いで歩く。だが無慈悲な光の天子は、ついにその姿をかくしてしまった。

ぼくはその場に、ガツクリとひざまずいた。

両の手のひらが透けていく。やがて残光が消えると共に、ぼくの体は煙のように消えていく。

(リンクはクリスタルムーンの中へ。そしてゼルダが入れ代わりに出現します)

潮の匂いの中で、あたしは意識を取り戻した。

夜空に星がきらめいている。そよ風がまた潮の香りを運んできた。海があるんだ。

『気がついた？ ゼルダ』

ファニーの声。あたりを見まわすと、その妖精はかたわらに立っていた。透明な羽根を風にそよがせている。

『リンクは消えちやつたよ』と、悲しげな顔。

あたしはうなずいた。そしてファニーを拾ってポーチに入れ、歩き出した。□363へ

## 255

東の谷間から朝の光がかすかにさし始めた。その淡い輝きの中で、あたしは大地に身を横たえた。意識がしだいに薄れてゆく。

(ゼルダはクリスタルムーンの中に吸い込まれ、代わりにリンクが出現します)

朝霧が森の中を、ゆっくりと流れていた。

日の光が目に差し込み、やけにまぶしい。

ほほについた枯草を手で落とし、ぼくはファニーをさがした。

▽165へ

## 256

山の輪郭が、白々と明け始めた空をバックに、くつきりと浮かんでいる。

あたしは大地にそつと身を横たえた。あとはリンクにまかせよう……。

(ゼルダはクリスタルムーンの中に吸い込まれ、代わってリンクが出現します)

ぼくは意識を取り戻した。

砂にまみれた体を起こし、あたりの様子をうかがう。

▽50へ

## 257

黄昏の残光の中で、ぼくは砂地に腰をおろす。ポーチの中にいるファニーを外に出し、

## 255～258

ゼルダへの伝言を話す。

そしてまた、静かに眠る時がきた。  
（静かに眠る時がきた。  
（リンクはクリスタルムーンの中に吸い込まれ、代わってゼルダが出現します）

夜風が心地よかつた。

あたしは目を開け、天空に輝く星を見ている。かたわらにファニーが舞い降りてきた。

「お早よう、ファニー。リンクは元気だつた？」

あたしは会えないリンクからの伝言を、この小さなメツセンジャーにきいた。

▽342へ

258

原野に日が沈む。太陽は真っ赤にそまり、巨大にふくれ上がって山の向こうに没してゆく。

ぼくは肉体と意識の消滅の中で、まるで死の直前にそうするよう——過去の回想を始めていた。

（リンクはクリスタルムーンに吸い込まれ、代わりにゼルダが出現します）

（リンクはクリスタルムーンに吸い込まれ、代わりにゼルダが出現します）  
下降するような星の下。あたしは意識を取り戻した。そつと身を起こし、あたりを見まわしてみた。

▽330へ

ぼくは絶望の眼差しで夕陽を見つめた。これで何度目だろう。そしてこの先何度も、ぼくはこの絶望の眠りに落ち込むのか……。

(リンクはクリスタルムーンの中に吸い込まれ、代わってゼルダが出現します)

きれいな小川がすぐそばにあつた。まだこんな所が残っていたのか。

あたしは身を起こし、歩いていった。両手に冷水をすくい、口に運ぶ。澄んだ水が、あたしに生氣を与えてくれる。

星空を見上げ、そして背後を振り返る。草むらにクリスタルムーンが置かれ、そのそばにファニーがすわっていた。

## 260

東の空がしらみ始めた。

あたしはポーチの中で眠つているファニーを起こす。

「ファニー、あたしはもう消えるわ。リンクに伝えてほしいことがいろいろあるの」妖精はうなずいた。

すべてを話し終えてから、あたしはイカダの上で横になる。

(ゼルダはクリスタルムーンの中に。代わりにリンクが出現します)

▽360へ

背中が塩水に濡れ、氣味が悪い。ぼくは悪態をつき、寝返りを打とうとした。  
『キヤツ！』ファニーの声。おつとつと、危ない。ファニーを背中で押しつぶすところだ  
つた。

『んもう。気をつけてよ、リンク』口をとがらせた彼女にあやまり、あたりを見まわす。  
海また海。太陽の位置でかろうじて方角はわかつた。

□246へ

## 261

□

日が暮れ始めた。

ぼくはすべてをゼルダにまかせ、また眠りにつかなければならぬ。  
ファニーに伝言を話し、そして大地に横たわる。体がスッと消えてゆく。  
(リンクはクリスタルムーンに吸い込まれ、代わってゼルダが出現します)  
夜になつた。

あたしは立ち上がり、あたりの様子をうかがう。

黒い森。風にゆれる木々の枝。

『ゼルダ！』ファニーが、その森の方角から飛んできた。

「どうしたの？」手のひらに彼女をとまらせ、あたしはきいた。  
『ここは魔女の森よ。入つたら危ないわ』

「うん。でも危険な所ほど、役に立つものがあるのよ。行つてみなくちゃ」

あたしはファニーの制止をふり切り、歩き出した。

森の中にふみ込み、進んでゆく。ファニーはポーチの中に引っ込み、蓋<sup>ふた</sup>を閉じてしまつている。

ふいにあたしは足を止めた。樹液や葉群<sup>はぐら</sup>の臭いが、ツンと鼻を突く。さつきまで聞こえていた虫の声が、パツタリと止んだ。

近くの木立の影に、白いもやが3つ見えた。それは音もなく近づいてきた。  
黒髪を肩まで垂らした3人の女。白く見えるのはその服だ。彼女たちは木綿で作られたらしい白い衣を着ている。それはカーテンのように長く、足首まであつた。

「よく来たわね、ゼルダ」3人が同時にしゃべつた。

「この魔女の森が、お前の旅の最後の地よ」

3人は両手を天にかざし、呪文をとなえ始めた！ そう。魔女っていうのはこいつらなんだ。「ウッ！」そのとたん、あたしの体から力がぬけていく。(LIFEエネルギー個失う)

マジックシールドはある？

● YES ..... ↳ 318へ ● NO ..... ↳ 332へ

262

山岳地帯を出、森をぬけて歩いてゆくうちに、日が沈み始めた。  
また時が来た。ぼくは湖を見下す高台にする。夕陽が湖面に映え、照り返しが美しく  
きらめく。

(ここでリンクはクリスタルムーンに吸い込まれ、ゼルダが代わりに出現します)

あたしは目覚め、起き上がった。

いつもの事だが、かたわらに置いてあるクリスタルムーンを確かめ、そしてファニーに  
あいさつする。

263

夜明けの淡い光の中で、あたしは大地に横たわった。

『お休みなさい、ゼルダ姫』薄れゆく意識の中、ファニーの声がかすかに響いた。

(ゼルダはクリスタルムーンの中に入り、代わってリンクが出現します)

ゴツゴツした岩の感触。ぼくはその不快さに思わずうめき声を上げていた。

目を開けると、そこは荒涼とした岩石地帯だつた。地表は固い岩でおおわれ、遠くには

もうもうと煙を上げる火山があつた。

□145へ

やがて山の向こうに、西陽にしひが沈んでいった。眠りにつく前に、ぼくは今日得た情報をすべてファニーにたくした。

(リンクはクリスタルムーンの中に吸い込まれ、代わってゼルダが出現します)

あたしは草原の真ん中に横たわっていた。

あれからもう半日たつたのだ。

クリスタルムーンの中にいる時は、眠っている時と同じ。

意識がなく、時間の感覚もない。そして、いつも目覚めると妖精ファニーが心配そうにあたしを見つめている。

「リンクは無事だつた?」あたしの質問もいつも同じ。そしてファニーもにつこりとうなづく。

▽361へ

## 265

星々の最後の輝きが消えた。

あたしは足をとめる。あたりは荒れ果てた原野。ドラゴンの歯のような岩が、地面から無数に突き出している。

腰のポーチからファニーを出した。

『眠つちやうのね、ゼルダ』

あたしはうなずき、岩に背をもたれてすわる。やがて意識の中に無がおとずれてくる。  
(ゼルダは消え、リンクがクリスタルムーンから現れます)

ぼくが意識を取り戻した時、かたわらの岩の上にファニーがすわっていた。悲しげな表情。ゆつくり身を起こし、手のひらをさし出す。ファニーは羽ばたいて飛んでくる。

「よう、相棒」<sup>あいぽう</sup>と、ぼくはやさしく声をかけた。

□28へ

## 266

東の空が黒から灰色、そして青に変わり始めた。あたしは大地に腰を降ろし、とうとうハイラルの果てまで来てしまった事を想つた。リンクがここで、蜃氣樓城ミラージュキヤッスルを見つけてくれたら……。

(ゼルダはここでクリスタルムーンに吸い込まれ、代わってリンクが出現します)

ぼくは意識を取り戻した。

『リンク、目が覚めた?』ファニーのテレパシーが頭に入ってきた。彼女は地面に転がるクリスタルムーンのそばにいた。

『もうここは最果ての地よ』<sup>さいは</sup>

うなずいて、あたりを見まわす。朝霧にかすむ平原。この美しい光景も、やがてガイア

の魔力によつて滅んでゆく。

▽110へ

## 267

北に見える山々は、頂きに雪をかぶつていた。ずい分と高い所まで来たようだ。  
朝日の中で、その雪の白さがきわだつようになつた。あたしは荒い岩肌にもたれてすわ  
る。リンク……後はよろしくね。

(ゼルダはクリスタルムーンの中に吸い込まれ、代わつてリンクが出現します)

寒さに身をすくめ、ぼくは起き上がる。

遠くに見える山々は、白い帽子をかぶつているようだ。ゼルダのヤツ、ずい分と高い所  
まで來たんだなあ。

ぼくはクリスタルムーンを拾い、首にかける。やがてファニーがもどってきた。その小  
さな両手一杯に、木の実を抱えている。

●さらに高地へ……………▽186へ ●低地へ降りる ………………▽16へ

## 268

やがて眠りの時がおとずれた。

白々と明け始める東の空を見ながら、あたしは横たわり、そして目を閉じた。

# 266～269

(ゼルダはクリスタルムーンに吸い込まれ、代わりにリンクが出現します)

朝もやの中、小鳥のさえずりが聞こえる。

ぼくは立ち上がりを払い、落ちているクリスタルムーンを拾う。朝日がその水晶球に当たり、美しく輝いている。

地面にはゼルダの足跡が残っていた。それは今、ぼくが立つ場所で途切れている。崖の下を、岩場に沿つて歩いていく。やがて道は登り坂になり、てっぺんまで行くと吊り橋が見えた。

切り立つた深い崖。谷をはさんだふたつの岩壁を、吊り橋は結んでいる。

●吊り橋を渡る ..... ⇠ 139へ ●様子を見る ..... ⇠ 75へ

269

やがて日が沈み始めた。

ぼくは胸にかけていたクリスタルムーンを地面に置き、妖精ファニーをそのかたわらにすわらせた。

同時に体がスッと透き通るのがわかつた――。

(リンクはクリスタルムーンの中に吸い込まれ、代わりにゼルダ姫が出て来ます)  
あたしはハツと目覚めた。

ファニーが、夜霧に濡れたほほをなでてくれた。地面に落ちているクリスタルムーンを拾う。リンクは無事なんだろうか？

▽327へ

## 270

あたしはある旅を続けた。いくつもの森、いくつもの河、いくつもの山を越えた。そして東の空に光が差し始め、またリンクと旅を交代する時が来たのを知った。

(ゼルダはクリスタルムーンの中に吸い込まれ、代わりにリンクが出現します)

まぶしい陽光の中でぼくは目覚めた。

早朝にもかかわらず、照りつける日射しが強い。ぼくは額に汗を浮かべている。まわりに草木が1本もないのに気づいた。

▽88へ

## 271

やがて東の空がほんのりと明るくなつた。

あたしはその場にすわり込み、意識を失つていくを感じている。

(ゼルダはクリスタルムーンの中に消え、代わりにそこからリンクが現われます)

ぼくは地面に横たわっていた。頭には落ち葉がつき、ほほに土がこびりついている。

「やあ、ファニー」

ぼくは頭上を飛んでいるファニーにあいさつをする。彼女はニッコリ笑うと、音もなく羽ばたき、ぼくの肩の上にとまつた。

▽226へ

## 272

夜明け。あたしは歩みを止め、東の空に差す薄日をぼんやりと見つめた。

地面にすわり、ファニーをポーチから出してあげる。これから旅は、またリンクと交代する事になる。悲しいけれど、これが定められた運命。

(ここでゼルダはクリスタルムーンに吸い込まれ、代わってリンクが出現します)

目覚めたぼくは、ゆっくりと立ち上がった。ゼルダ姫の夢を見ていた。この皮肉な運命の中で、ぼくは彼女に夢でしか会えないのだ。

▽41へ

## 273

太陽はあつという間にかたむき、山の後に沈んでいった。

ぼくはファニーに、ゼルダへの伝言と情報をたくし、そして深い眠りに落ちた。

(ここでリンクはクリスタルムーンに吸い込まれ、代わってゼルダが出現します)

目の前に夜の森が広がっていた。

あるのは暗い木立と虫の声。そして星明かりばかり。クリスタルムーンを首にかけ、あ

たしはファニーの姿をさがした——。

▽298へ

## 274

西の空の残光が、さらに淡くなつてゆく。ぼくは自分の時間がなくなつたのを知つた。  
眠りに落ちる前に、胸にかけた水晶球をはずし、ポーチからファニーを出す。そして彼女に、ゼルダへの伝言をいつた。

(リンクはクリスタルムーンの中に吸い込まれ、代わりにゼルダが出現します)

あたしは意識を取り戻していつた。

ひんやりとした空気。夜氣の冷たさではあるが、それ以上のものがある。ここは高地だらう、と見当をつけた。

▽325へ

## 275

歩みをとめ、ぼくは小高い丘の後ろに沈む夕陽を見つめた。また旅をゼルダにまかせなきやならない。

「ファニー、よろしく頼むよ」そういつてぼくは、クリスタルムーンを地面に置いた。妖精は羽ばたきながら宙を舞い、消えてゆくぼくを見守っている。

(リンクは消え、代わってゼルダがクリスタルムーンから出て来ます)

眠りの中から、あたしは蘇よみがえった。

ゆっくりと上半身を起こし、夜の闇を見つめる。

『ゼルダ、大丈夫?』頭の中にファニーの声が響いた。あたしはふり返る。近くの木の枝に、彼女はすわっていた。

▽321へ

## 276

荒波に揺れるイカダの上。ぼくは水平線に沈む夕陽を見つめている。

『リンク……、ゼルダへのメッセージは?』

ぼくはファニーに向き直り、今日一日の旅で得た情報をたくした。そして――  
自分の体が消えていく感覚。苦痛はない。だが、苦難の旅をゼルダにまかせなきやならない事が辛い。

(ここでリンクは、クリスタルムーンの中へ、代わってゼルダが現われます)

体がゆっくりと上下に揺れている。

目を開けると、あたしは海の上にいる事を知った。横たわっているのはイカダの上だ。  
満天の星、そして暗い海。流れ星が音もなく空から滑り落ちる。  
そばにいるファニーが、リンクの旅の事を語ってくれた。

▽288へ

夜明け……。

あたしは疲れ切つた体を大地に横たえ、眠りの中に沈んでゆくのを待つた。あとはリンクにまかせよう。きっと彼なら蜃氣楼城ミラージュ・キャッスルまでの道を見つけてくれるにちがいない。

(ゼルダはクリスタルムーンの中に吸い込まれ、代わってリンクが出現します)

『リンク、目を覚まして』

妖精の声でぼくは我に返った。

「ゼルダは無事だつたかい?」起き上がつてそうきくと、ファニーはうなずいた。

そして再び、ぼくの旅が始まつた。

□229へ



襲いかかるギニーの群れ。

あたしはたくみに身をかわしながら走った。

ギニーにふれると石になつてしまふ。フワリフワリと**変幻自在**(へんげんじざい)に飛びまわるヤツらをかわすのは、樂じやなかつた。

目ざす本体は……いた！ ニセ物どもの中にまじつているけど、ひときわ大きく、目立つてゐる。そして他のヤツらほど激しく動かない。

あたしはセラミック鋼の剣、ホワイトソードをかまえ、そいつに斬りつけた。

地の底から響くような絶叫(ぜつきょう)！

一瞬後にはギニーたちは、無数の青白い人魂(ひとだま)と化し、それぞれの墓石の中に吸い込まれていた。（LIFEエネルギー♥3個得る。5ルピー得る）

『やつたあー』 ファニーがポーチから顔を出し、喜びの声を上げる。地上世界で最強の敵を、あたしはやつつけたのだ。

そして、今、目の前の墓石が倒れ、そこに人が通れるくらいの穴が開いている。  
ひよつとしてこれは……。

● 入つてみると……………▽379へ ● 入らない……………▽387へ

あたしはファニーと共に、その明かりに導かれるように、木の洞うろに入つていった。松明が燃えている。そのそばに、赤い僧服を着た老人がすわっている。

「お前は誰じや」暗がりに声が響いた。

「あたしはゼルダ。ミラージュ・キャッスル蜃氣樓城を求めて旅する者」

「何、蜃氣樓城とな!!」

「知つているの!! おじいさん」

老人はじつと腕組みをし、そしてこつちに向き直つた。「全然知らん」

なんなのよ、このじいさんは!! あたしはクルリときびすを返し、その場を去ろうとした。

「——ただし、お前さんが魔將軍ガイアをさがしておるのなら、少しは役に立つ事もあるがの」

「え?」あたしは立ち止まつた。

「ヤツはお前さんの国の秘宝トライフォースを奪つたそうじやな。だが、あやつは自分の手でそのトライフォースに触れる事はできん。つまり、ガイアはトライフォースを自分之城から離れた所に隠しているんじやよ」

「という事は、蜃氣樓城とトライフォースは別々の場所にあるのね」

## 279~281

「ふむ、ときにゼルダ姫。この木のそばにある墓石の下に、商人がおる。よければ立ち寄つて、何かこうてやつてくれ」

あたしは礼をいい、木の穴から外へ出た。

□390へ

280

橋を渡り始めた。

足を踏みだすたびにグラグラゆれる。橋の梁に打ち寄せる波の音がする。

その時、波間に黒い影が浮かんだ。光る眼が、こちらを見正在する。半魚人ゾーラだ。

3匹いた！

LIFEエネルギーは満杯か？

●YES ..... □351へ ●NO ..... □340へ

281

あたしは4匹目をねらい、弓を引きしほる。

その時だ。ぬるつとした冷たい手が、右足首をつかむ。悲鳴をあげる間もなかつた。

気がついた時、あたしは海中に引きずり込まれていた。

何とか海面に浮き上がるうとした。が、どうあがいても、水中はゾーラたちの天下。あ

たしは逃がれようがない。

腰の剣をぬこうとしたけど、もはや力は残っていない。あたしの体は、海底深く沈んでゆく……。

## 282

ところがとんだドジ。

あわてすぎたあたしは、剣を持つ手を滑らせてしまった！ 頼みの武器は砂の斜面を転がり落ちてゆく。

リーバーは勝ち誇ったように体を震わせ、あたしの脚に触手を巻きつけた。ものすごい力。あたしは力尽き、砂の中に引きずり込まれてゆく。そしてあたしの意識の消滅と同時に、蜃氣樓城<sup>ミラージュ・キャッスル</sup>も消えていく……。

## END

END

## 283

あたしは老人に5ルピー<sup>ムーラン</sup>でやつた。（5ルピー失う）

すると彼は、あたしにバイブルをくれた！ （バイブル入手、アイテムチェックシート

に記入)

礼をいって、その洞うつろを出る。

▽309へ

## 284

その場を離れる事にし、また森の中を歩き出した。

しかし、少したつて再び足を止めることになってしまった。前方の木立こだちの後ろ、繁しげみの中に、赤いゼリー状のものが見えた。

剣をぬき、ゆっくりと近づく。リーバード！ 砂地に棲すむ陸のイソギンチャクだ。まさかこんな場所にいるとは！

先へ行くにはやつづけるしかない。

あたしは剣をかまえた。

## ☆バトルK

基本ポイント ゼルダ( ) リーバー( )

276ページのバトル記号表を見て、Kの数字を基本ポイントにプラス。

●勝った ..... ▽369へ ●負けた ..... ▽307へ

バクダンの手持ちがない。  
あたしはしかたなく、その頼りになる武器をさがしにいく事にした。（バクダンはこのピラミッドのどこかにあります）

▽397へ

森は果てしなく続いていた。

あたしはひたすら歩き続ける。ひよつとして、このまま永遠に、森をさまよう事になるのかも知れない。そんな疑念が心に浮かぶ。

その時、背後から、奇妙な音が聞こえた。何かが羽ばたくような音。ふりむくと、木々の間から、ピーハットが姿を現わした。

空を飛ぶ人食い花だ。4匹もいる！

無駄なエネルギーは使いたくない。あたしは走つてその場を逃げだした。

木々の間を抜け、ひたすら走り続けた。そして再びふり返る。ピーハットの姿はなかつた。

だが……。何だか森の様子が変だ。一度通つたことがあるような気がする。とにかくもうすこし歩いてみよう。

▽314へ

ミラージュ・キャッスル  
蜃氣樓城は消滅した。再び時空の間に吸い込まれたのだ。消えた後の空間は、いつまでも七色に輝いている。

その時、あたしの体が宙に浮いた。まるで見えない巨大な手が、あたしをつかんで投げ飛ばしたようだ。

そう。城が消えた空間の穴に、あたしは引き込まれようとしているのだ！

LIFEエネルギー♡は5個以上ある？

● YES ..... ↪ 365へ ● NO ..... ↪ 345へ

288

イカダは海流に乗り、どこまでも流れていった。

風はなぎ、波は静かになっていた。

頭上を一群の海鳥が舞っている。

と、突然その鳥たちが一勢に飛び散り、遠くへ去った。見る見る波が荒れてゆき、あたしの乗ったイカダのまわりに、しぶきが上がった！

その時だ。波間で何かがゆらめき、海上を光の球が走ってきた。とつさによけたあたし。目をこらして見ると、海面に半魚人の顔。ゾーラだ。あれが吐き出す光の球に触ると、



288●海鳥が突然飛び去った。その時だ。波間に何かが浮  
かび上がった。半魚人・ゾーラだ。危ない!!

エネルギーをうばわれてしまう。

ファニーがあわてて、ポーチの中に飛び込んだ。

よく見ると、イカダのまわりに無数のゾーラがいた。いつのまにか取り囲まれていたんだ！

この危機をどう乗り切る？

●♡は満杯になつていてる …… ↳ 388へ ●♡は満杯ではない …… ↳ 336へ

2 8 9

崖下に続く坂道があつた。

あたしはそこを下り、森へ分け入つた。

ムツとする湿気の中、星の明かりだけを頼りに進んでいく。すぐそこに泉が！

ガツツン!! 出しぬけに額ひたいが何かにぶつかり、あたしはその場に倒れた。痛た……。立ち上がりつて前を見る。枝にでもぶつかったのかしら。気を取り直し、また歩き出す。

ガツツーン!! 目から火花が出る。

あたしは同じ所に同じ姿勢で倒れた。何なんだろう？ もう一度立ち上がつた。枝なんてない。

手をそつと伸ばしてみる。すると、そこに目に見えない壁がある。左右に移動してみて  
も、やはり透明な壁は続いている。上もきつとずい分高い所まであるんだろう。

泉はすぐそこだつていうのに、何て事なのよ！ そうだ。ファニーに聞いてみよう。

あたしはポーチの蓋(ふた)を開け、妖精の名を呼んだ。

「ファニー、泉がすぐそこにあるわ。でも見えない壁があつて進めないの。どうすればいい  
の？」

彼女は眠そうに目をこすり、それから答えた。

『これは空間がズれているのよ。断ち切られたまま、わずかにズれてくつづいているの』  
「どうすれば向こうへ行ける？』

『バイブルの呪文がいるわ』

他に方法はないようだつた。バイブルを持つている？

● YES ..... ↳ 306へ ● NO ..... ↳ 359へ

290

□

真ん中の魔女だ。ほかは幻にちがいない。

あたしは真一文字にかまえた剣をふり降ろした。すさまじい絶叫。女は白い衣を血に染  
め、倒れた。するとどうだ。左右にいた、ほかのふたりは煙のように消えてしまつたのだ。

291

C

あたしは魔女の落とした5ルピーを拾い、歩き出す。（5ルピー得る）

あたしは魔女の落とした5ルピーを拾い、歩き出す。（5ルピー得る）

→294へ

敵の攻撃は鋭いが、動作が鈍い。

勝つにはそこにつっこむしかない。

だが敵は多すぎた。

4体倒すまでに2度も斬りつけられた。（LIFEエネルギー♥2個失う）あたしは腕の傷口を抑え、剣を握り直した。

死にもの狂いの攻撃。やっとアモスを全部倒したあたしは、その場にへたり込む。

→315へ



次の部屋。

真っ暗で何も見えない。

闇に目が慣れてきた。扉がふたつ見える。その隙間すきまから差す光によつて、扉の色がかるうじてわかる。1枚は黄、1枚は紫。そのふたつの扉の間に何かある。バクダンだ。（バクダン3個得る）

どつちかの部屋から、ものすごい声が聞こえる。

●紫の扉へ ↓374へ ●黄の扉へ ↓308へ

## 293

C

あたしはマジカルロツドを使うことにした。

その魔法のツエをラネモーラに向けた。

ロツドは光り輝き、怪物に向けて光の矢を飛ばす。ラネモーラはのたうちまわる。呪文が光と化して飛んでゆくのだ。

剣でトドメを刺すと、大ムカデはルピーを5個口から吐き、息絶えた。（5ルピー得る）  
 ●崖の洞窟へ行く ↓357へ ●滝へ行く ↓333へ  
 ●この場を去る ↓302へ

## 292~296

294

森の中を歩き続けた。

近くに見える大木に洞うつがあり、明かりが灯ともっている。行つてみる?

● YES ..... ↳ 320へ ● NO ..... ↳ 309へ

295

[C]

マジックシールドで、ライネルのビームから身を守つた。よし、反撃できるぞ!

あたしはシールドをかざしたまま、ライネルにかかっていく。

怪物の脇をつらぬき、いつたん逃げてはまた攻撃をくわえる。ついにライネルは倒れた。あたしはその怪物が落とした7ルピーを拾い、竜巻をよけるため、岩陰へ戻つた。(L-1-F Eエネルギー♡2個得る。7ルピー得る)

↳ 328へ

296

片手で腰の剣をぬく。これは相当不利な戦いになりそう……。

☆バトル

基本ポイント リンク( ) リーバー( )

276ページのバトル記号表を見て、ーの数字を基本ポイントにプラス。

●勝つた……………▽393へ ●負けた……………▽282へ

## 297

〔C〕

「ええイ!!」 気合いをこめ、あたしは次々と死んどもを斬り払つた。

押し寄せてくる疲労もさる事ながら、奴らの巻き散らす血と腐汁の悪臭ときたら……。やつと全員倒した時は、あたしは勝つたといううれしさよりも、嫌悪感にさいなまれている自分に気づいた。(L—I F E エネルギー♡一個得る。4ルピー得る)

ため息をつき、剣を收め、ファニーの入つてゐるポーチを開けてみる。彼女はその中で目をまわして氣絶していた。美しい泉に棲んでいた妖精だから、あたし以上に臭気に弱かつたんだろう。

▽300へ

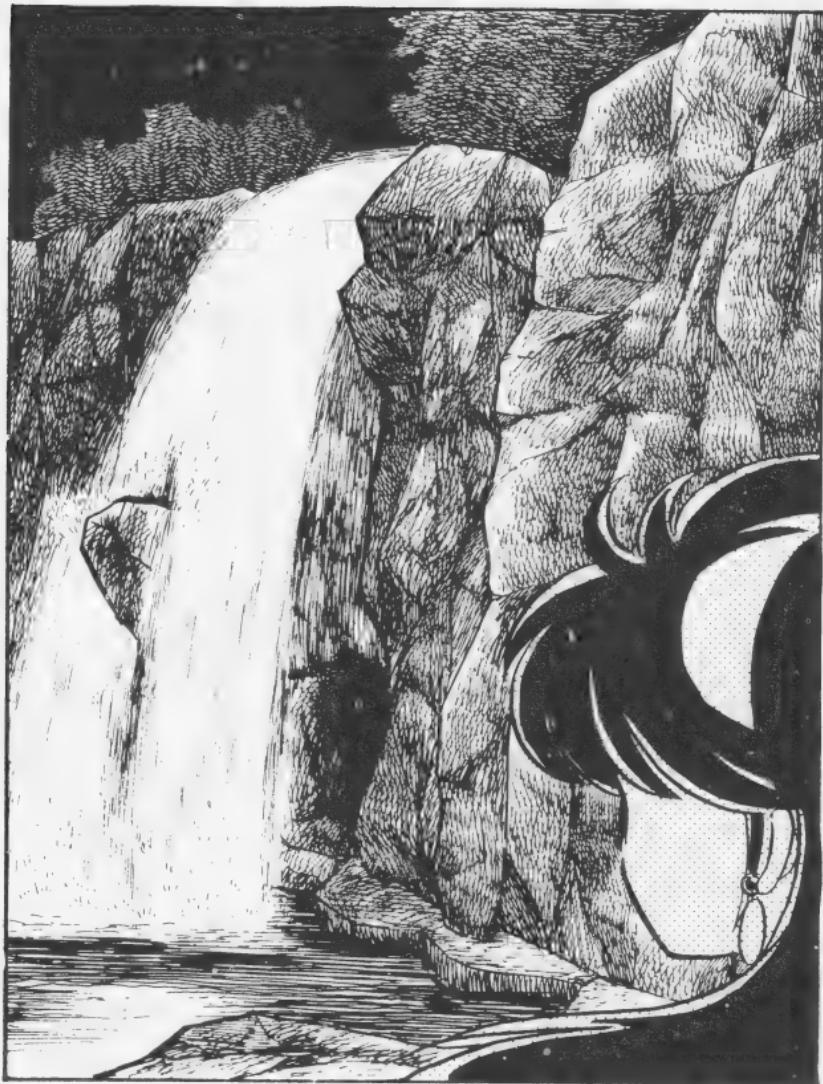
## 298

1本の河が流れている。

それに沿つて歩いていつた。水の流れる音は戦いに疲れた心に安らぎを与えてくれる。いつまでもこの音に耳をかたむけていたかった。

やがて大きな滝に出くわした。眼前の崖の上から落ち、途中で2つに分かれている。飛び散る水しぶきが、霧状になつて漂つてゐる。太陽の下で見れば、きっと虹がかかつてい

ただよ



298●河に沿って歩いていくと、大きな滝に行きついた。  
水しぶきが霧となって舞っている。もしや……？

るだろう。

あたしのそばには、大きな老木があつた。

また、滝のある岩場には洞窟が見えるが——。

●木の様子をさぐる

滝へ行つてみる

●木の様子をさぐる ..... ↓313へ ●洞窟へ入つてみる ..... ↓357へ  
滝へ行つてみる ..... ↓333へ

2  
9  
9

あたしは崖の道を登つていつた。

341

300

街の出口へ来たあたし。

四方を見渡してみた。

北は険しい山脈。南は湿地帯。東は岩場が続く荒野。西は海。  
さて、どっちへ行けばいいかしら？

● 東へ行く	北へ行く
.....	.....
.....	.....
.....	.....
.....	.....
↓ 2 6 3 へ	↓ 2 7 1 へ
● 西へ行く	南へ行く
.....	.....
.....	.....
.....	.....
.....	.....
↓ 3 6 3 へ	↓ 2 7 7 へ

## 298～303

301

マジカルロッドを持つている?

● YES ..... □ 293へ ● NO ..... □ 380へ

302

あたしはこの場を去り、また夜の世界を旅し続けた。

● 北へ ..... □ 267へ ● 南へ ..... □ 268へ ● 西へ ..... □ 325へ

303

□ C

マジックシールドでビームをはね返し、スキを見て剣で突く。ただ一筋繩じやいかない。  
アクオメンタスは、地下世界でもトップクラスの強敵。

いくらシールドが効くとはいえ、恐ろしいビームをたて続けに食らうと、衝撃でふつ飛  
ばされそうになってしまう。

アクオメンタスの急所を何度も突き、やっとトドメを刺した時、あたしは疲勞のあまり  
にその場にへたり込んでしまった。足もとにルピーが5個落ちている。(5ルピー得る)  
黒と紫の扉、どちらへ行く?

● 黒の扉へ ..... □ 397へ ● 紫の扉へ ..... □ 292へ

腰のさやから、ホワイトソードを引き抜いた。ゾンビたちの動きが、一瞬止まる。先手必勝だ。

剣をまっすぐふりかざし、あたしはかかつていった。先頭の死人の頭をはね飛ばし、返す刀で右どなりの首を斬り落とす。

全員を倒した時、あたしはどうす黒い返り血を浴び、剣を地につけて体を支えていた。肩で息をしながら、しばらく休んだ。ふと見ると、倒れたゾンビの側にマジックシールドとルピーが5個落ちていた。（マジックシールド入手。ルピー5個得る） ↳300へ

## 305

手紙はありません、と答えるしかなかつた。

「あたしやーハイラルーガンコなばーさまだがや。手紙がにやーと（ないと）絶対何も教えてやらにやーでよ（教えてやらないよ）」

それつきり老婆は、貝のようにピタリと口を閉ざしてしまつた。おしとやかなお姫様の（！）あたしとしては、老婆の口を無理に割らせるわけにもいかない。  
仕方なくこの場を立ち去る事にした。

あたしはバイブルを取り出した。

空間の断層に向け、それをかざしてみる。するとどうだ。バイブルは、突如、赤い光を発したかと思うと、前方に光のシャワーを降らせた。

一瞬のち、稻妻が真近に落ちたような音がし、大地がゆれた。

『もう大丈夫だよ』ファニーがいった。

あたしは歩き出した。今度は何の抵抗もなく通りぬける。

泉についたあたしは、そのほとりに立つ。ファニーが小さなステイツクをふり、ハートを満たしてくれる。(持てるハートの数だけLIFEエネルギー♡を満杯に)

●この場を去る事にした……⇨ 354へ ●崖の上へ戻る ………………⇨ 299へ

剣で斬りかかると、リーバーは目にも止まらない速さで、地中に潜り込んでいた。  
ぼうぜんと立ちすくむあたしの足元で、突如、地面がスリ鉢状に陥没した。

驚くヒマもない。その穴から、触手が2本飛び出してきた！ それはあたしの脚にからみつく。(LIFEエネルギー♡一個失う)  
とつさに剣をさばき、触手を斬る。逃げなければ！！

立木をいくつもさけ、ひたすら走り続ける。息を切らせて立ち止まつた時、あたりの様子が妙なのに気づいた。

ここは……確かに一度通つた場所だけど。

□314へ

### 308

扉を開けた。

暗闇の中、人の形をした光が舞つてゐる。

目が慣れてくると、その正体がわかつた。

ギブドだ。地下に住む凶暴なミイラ男。

それが3匹、両手を広げて「大」の字になつて迫つてきた！

●ホワイトソードがあれば……□381へ ●なければ……□370へ

### 309

魔女の森を出たあたし。

夜明けが近づいてきた。

リンクと入れ代わる前に、なるべく遠くまで歩いておこう。

●北へ ⌂268へ ●南へ ⌂266へ ●西へ ⌂270へ

3 1 0

C

バクダンをひとつ取り出した。

岩の上に体を引きずり上げ、それに火をつけて放<sup>ほう</sup>つた。  
火柱と砂煙<sup>さじん</sup>。そしてこなごなになつたりーバーの破片が舞う。そこに5ルピーを見つけた。(LIFEエネルギー♡2個得る。5ルピー得る。バクダン一個失う) ▷377へ

3 1 1

あたしは歩き出した。

森は相変わらず暗く、陰湿<sup>いんしつ</sup>な気配<sup>けはい</sup>に満ちている。

突如<sup>たちじよ</sup>、何かが体に巻きついた。それはあつという間に、あたしを宙に持ち上げた。

巨大な食肉植物だつた。タコの足のように無数のツタがくねり、その根元には巨大な花ビラがある。いや、それは毒々しい色をした□だ。

あたしはその木を凝視<sup>ぎょうし</sup>した。そいつは人ひとり呑みこめるほどの大きな□をカツと開け、待ち構えている。脚に巻きついたツタは、あたしをそこへ運んでゆく。

LIFEエネルギーは満杯?

● YES

▷344へ

● NO

▷367へ

さて、このピラミッドの外に出なければ……。

バクダンはまだ残っている?

(あればピラミッドの壁に仕掛け、バクダンで開いた穴を通りて外へ出ます。バクダン一個チエックシートから消します。もしバクダンを持っていなければ、今までのルートを逆にたどり、外へ出る事になります。実際に項目をたどる必要はありませんが、ゼルダはこの場合L-E-F-Eエネルギー♡を一個失います)

あたしはピラミッドに別れを告げ、再び旅を続ける事になつた。

- 北へ行く ..... ↓ 277へ ● 南へ行く ..... ↓ 255へ
- 東へ行く ..... ↓ 360へ ● 西へ行く ..... ↓ 265へ

### 313

無数の枝を張りめぐらせ、天に向かつて突き立つた老木。

確かにリンクは、前の戦いで得た経験を話してくれたつけ。こんな木には秘密が隠されている事がある、と。

よし、ローソクを使って焼いてみよう。

- ローソクがあれば ..... ↓ 322へ ● なければ ..... ↓ 353へ

不気味な葉群<sup>はぐら</sup>を夜風にゆらし、木々がざわめいている。まるで侵入者であるあたしに、出て行けと叫んでいるようだ。

複雑にからみ合う枝の隙間<sup>すきま</sup>から、星の輝きがみえる。その頼りない明かりの中、あたしは森の中を進み続ける。

行く手を獣<sup>けもの</sup>の影が横切る。頭上からはフクロウの声。思わず走り出したくなる。

ふいに前方に小さな明かりが見えた。それに吸い寄せられるように近づいていく。明かりは大木の根元にある洞<sup>うろ</sup>の中から漏れていた。あたしはその中に入つていつた。

カビくさいにおいが漂<sup>ただよ</sup>う中に、商人がすわっていた。例によつて緑の服。それが松明<sup>たいまつ</sup>の炎の動きにつれて、淡くなつたり濃くなつたりしてしている。

「何か買うてくれや」

あたしは彼の売ろうとする品物を見た。

○ホワイトソード——25ルピー ○マジックシールド——25ルピー

○マジカルロッド——40ルピー ○ふえ——35ルピー

「あれ？ ずいぶん高いのね。ちょっとぼりすぎじゃないの、おじさん」

「ホウ、いらんのかね。買わんのなら、別にこつちはかまわんよ」  
ええい。人をなめてるな、こいつ。

● あたしは――

● 買う事にした(アイテムチェックシートに記入。値段分のルピーを消す) : → 378へ  
● 値切つてみる : ..... → 317へ ● 商人をぶんなり、去る : → 392へ

### 315

地下に通ずる穴があつた。アモスの一体が立つていた所だ。あたしは不安と期待の入りまじつた複雑な心境で、そこを降りていく。

ブーンと鼻を突く臭い。うつ、何よ。これ――。

地下の部屋で、あたしが見たもの。それはいつもヒントをくれる赤い僧服の老人には違ひなかつた。ところが、その老人は床に横になつていて。死んでいるの? そうじやなかつた。右手に酒びんを持ち、唄つていた。



どーせわしらはヒントじいさん

雨が降ろうと、嵐が来ようと

暗い穴で人を待つだけ

誰かさんが来るのを、ひたすら待つてゐるだけの人生よ  
酒でも飲まずにやいられない



315●その穴に入っていくと、鼻を突く酒の臭い。酔いつぶれた老人がいる。な、何なのよ、この人は…。

こんな穴倉、他に何の楽しみがあるものか

ア、コリヤコリヤ♪

「おじいさん、ちょっと！」あたしは酒臭い老人の肩に手をかけ、ゆすつてみた。

「ヒツク。極楽極楽。ねえちゃん、美人やないけ」

そうよ。あたしは美人よ。悪かつたわね——なんていつたりせず、あたしは何とか老人を正氣づけさせようとした。

「ういっ。ワシ、もう駄目」

そういうなり、高々とイビキをかいて寝込んでしまった。後はもう、どうゆきぶつても起きるもんじやない。

あたしはあきらめ、地上へ戻った。

●この場を去る ..... ↳ 354へ ●崖を降りて樹海へ ..... ↳ 289へ

### 3 1 6

□

岩山は砂地から突き出した、一個の巨大な岩の塊かたまりだつた。

その中腹に、洞窟がある。そのため岩山は、大きく口を開けた巨人の顔のように見える。あたしは岩肌をよじ登り、洞窟に入つていつた。せまい空洞をぬけると、大きな部屋に出た。岩をくりぬいたその部屋の中央に、松明たいまつがともが灯り、老人がいた。

# 315～316

「ちょっと聞きたい事があるの」

あたしはそういった。だが老人は返事もせず、じつとこつちを見ている。

「ねえ、ちょっと。聞こえてるの？」

GU……GU……

何だ寝てんだ、この人。つたくもう、目を開けたまま眠らないでよね。

あたしは老人の肩をポンと叩いた。

「ン？ あんたア、誰じやね」

「あたしはゼルダ。蜃氣樓城ミラージュ・キャッスルを求めて旅する者」

「ホウ。あんたがゼルダ姫か。それならよい所へ来た。その蜃氣樓城ミラージュ・キャッスルは、昨夜からこの

岩山の裏に出現しておるよ。

あの城は海や湖など、水のある所には出ない。その点この砂漠なら大丈夫じゃからな

あたしは嬉しさのあまり、礼をいうのさえ忘れ、この岩穴を飛び出そうとした。

「まちなさい！」背後から老人が叫ぶ。あたしは立ち止まった。

「この手紙を持つていきなさい。湖にいるばあさまに渡せば、きっとよい事があるぞ。それ

からとつておきの贈り物じや」老人は手紙といっしょになんと命の器を受け取った。

老人が放つてよこした手紙と命の器を受け取り、あたしは岩穴を出た。（命の器入手、手紙入手。アイテムチェックシートに記入）

「こーいう商売の仕方、嫌いなんやけど」

あたしはムツとしていった。「商人の風上にも置けないと思うわ」

「何やと!」さすがに商人も、おこつた。

「あなたもアキンドのはしくれなら、もつと客を大事にしなさいよ」

「よろしい。そんならこの値段はどうやー!」

彼は、品物に貼った値段を次々とはいいでいた。新しい値が、その下から出てきた。

○ホワイトソード——15ルピー ○マジックシールド——15ルピー

○マジカルロッド——15ルピー ○ふえ——10ルピー

「——どうや。これ以上、ビタ一文まからんで!」

まだまだ高いっていうのに、何なのこのえらそうな態度。あたしは——

●買うことにした。(アイテムチェックシートに記入。値段分のルピーを消す) ↳ 378へ

●買わずに去る ..... ↳ 311へ ●商人を殴って去る ..... ↳ 392へ

### 318

とつさにマジックシールドを使った。

その魔法の盾は、あらゆる呪文をはね返すのだ。

# 317～320

シールドの後ろに身を隠し、剣を抜いて近づいてゆく。

●ホワイトソードがあれば……⇨335へ ●なければ……⇨332へ

## 319

〔C〕

あたしはうなずき、手紙を出した。老婆はそれを受け取り、フムフムと読む。

「ようわかつたがや。あなたの王国は、どえりやー日に遭おうとる。助けたらにやーあかん。  
蜃氣樓城ミラージュ・キャッスルならわたいも少しやー知つとるでよ。

ありやーあんたの捜しとるトライフォースのある所にやー出現せんて。あの悪魔の城は  
聖なる物にやー近寄れんがや」

つまり、トライフォースと蜃氣樓城は、別々の場所にあるという事なんだわ。

あたしは老婆に礼をいい、その場を去ろうとした。そこへ後ろから声がかかった。

「だけんどあんたア、蜃氣樓城へ行くにやーこの湖はちいと遠まわりだがや」

⇨373へ

## 320

〔C〕

その木の洞うらの中、松明たいまつがふたつ灯ともり、老人がすわっている。

「あんた、ゼルダ姫じじゃな？」

あたしはうなずいた。「おじいさん、蜃氣樓城ミラージュ・キャッスルについて、何か知らない？」

「あんたは運がいい。わしはハイラルで一番の、蜃氣樓城ミラージュ・キャッスル博士じゃよ」

「あれは今度、どこへ出現するの？」

「ハイラル地方の南じやよ」

「え？ 南って」

「南といえば、北の反対じや」

「そ、それだけしかわからないの？」

「バカを申すな。こんなくわしい情報を持つ男は、他におらん。何しろわしはこのハイラルで一番の——」

あたしは出ていこうとした。

「またれい！」老人の声が追つてきた。

「ゼルダ姫。もしわしに5ルピーくれたら、いいものをやるがの。どうする？」

● 5ルピー やる(ルピーシートにチェック) : □ 283へ ● やらずに去る : □ 309へ

### 3 2 1

夜の世界をあてどもなく歩くあたし。  
やがて大きなふたつの山にはさまれた街に着いた。静かな街。明かりはまつたく見えず、

## 320～322

人の気配もない。何の生活臭もない街だ。

ゴーストタウン。

あたしは面妖な空気に包まれたその街に足を踏み入れた。石やレンガ造りの家々は朽ち果て、今にも崩れそうな気配。

それらはまるで、巨大な墓標の群れのように見えた。

街の真ん中には円型の広場があり、石畳が敷きつめられている。その中央には井戸があつた。井戸を覗いてみると、

● YES ..... ↪ 398へ ● NO ..... ↪ 386へ

322

あたしはローソクを木の根元に近づけた。

ボツ！ 魔法のローソクの力か。木は一瞬にして炎に包まれ、あたしはすんでのところで、それに引き込まれるところだつた。

老木はすぐに燃え尽き、灰になつた。するとそこに——地面に開いた穴がある。期待を抱き、たちこめる煙にむせながら入つてゆく。

だが暗闇の中にいたのは——何とムカデの怪物ラネモーラだ。うつ、とんだヤブヘビだわ！

巨大で細長い体。その先端には丸い頭部があり、一つ目がランランと輝いている。

●戦う ..... ⇄ 301へ ●逃げる ..... ⇄ 380へ

323

C

アモスたちは、強力な剣と盾で攻撃を仕掛けてきた。だがこの兵士たちは動作が鈍い。  
丁々発止と剣を結び、スキを見て背後にまわり込む。

この戦法で8体を倒した。が、あたしも左脚を斬りつけられている。(LIFEエネルギー  
-1個失う)

アモスの死体の中に、5ルピー落ちているのを見つけて拾つた。(5ルピー得る)

⇨ 315へ

324

東に陸が見え、南はどこまでも続く大海原だ。どう行こう?

●南へ行く ..... ⇄ 260へ ●東へ行く ..... ⇄ 358へ

325

荒野を歩いていった。

飛ばす。

縄をふりほどき、自由になつたあたし。喜びが湧きおこる。

モリプリンはうなり声をあげ、矢を投げつけてきた。それをかわしざま、あたしは剣を

た。するどい刀先で縄を切る。

カタとふるえ始めた。あたしはギュと目を閉じる！

とたんに重力の法則が消失した。ホワイトソードは一瞬にして、あたしの手に移つていった。地面上に横たわったホワイトソード。それはあたかも命を吹き込まれたかのように、カタ

精神を集中する。

望みはひとつだけであつた。

ホワイトソードには、隠された力がある。あたしはそれに賭ける事にした。

モリプリンは唸りながら、すぐ近くまでせまつてきた。が、気を取られないようにし、

●崖を降り、その泉へ向かう ⇢ 289へ ●このまま崖の道を進む …… ⇢ 341へ  
崖道にさしかかり、下界が見下ろせるようになつた。月光の下、地平線の彼方まで樹海が続いている。その中に、キラリと光るもののが見える。月の光を反射させているらしい。  
泉に違ひなかつた。

## 326

〔C〕

ホワイトソードを胸に突き立て、怪物はぶざまに引つくり返る。

死体のそばに、3ルピーが落ちている。それを拾つた。(3ルピー得る) ↳ 294へ

### 327

枯木の林が続いている。

死人の手のように冷たいもやが足元にまとわりついている。木々は枝をくねらせ、巨人の影のように立ちはだかっている。

そこは墓地だつた。こんな荒涼とした所に、どんな人が埋められているんだろう。  
伸びほうだい伸びた草の中、白い墓石が並んでいる。

ファニーはさつきからあたしの肩にとまり、不安げにあたりを見まわしている。  
点在する墓の向こうに、大きな枯木があり、その洞の中に明かりが灯つていて。

●行つてみる ..... ↳ 279へ ●行かない ..... ↳ 390へ

### 328

C

ライネルを倒したが、次の脅威はすぐ側まで迫つていた。必死に走り、岩陰に飛び込む。  
その横を、巨大な竜巻が通りぬける。ゴーッという音で一瞬耳が聞こえなくなつた。  
すべての危険が去つた後、その原野をぬけた。林を越えると、妖精の泉があつた。

フアニーがポーチから出、泉の辺りを飛びながら歌つた。彼女がステイツクを振ると、あたしの体にエネルギーがみなぎってきた。

(持てる♡の数だけLIFEエネルギーを満杯に)

そしてまた旅は続く――。

- 東へ行く ..... ↓ 268へ
- 南へ行く ..... ↓ 270へ
- 西へ行く ..... ↓ 272へ
- 北へ行く ..... ↓ 325へ

329

□

あたしはLIFEエネルギー、攻撃用の武器ともに十分持っていた。

アクオメンタスがビームを放つた！ マジックシールドで、それをはね返す。そして間髪容れず剣先からお返しのビームを発射してやる。この無敵の武器を使えるあたしにとつて、一角獣を倒すのは難かしい事じやなかつた。何度もかのビームをくらわせてやると、そいつは地響きと共に倒れた。

そしてあたしは、そこに1本のふえがあるのを見つけた。

(5ルピー得る。ふえ入手チエツクシートに記入)

扉は黒と紫。どっちへ？

- 黒の扉へ ..... ↓ 397へ
- 紫の扉へ ..... ↓ 292へ

歩いてゆくにつれ、夜空の星々は、灰色の雲に覆い隠されていった。同時に風が吹き始めた。

風は次第に強くなり、身を低くしていないと飛ばされそうになつた。

あたしはしばらく何かの陰に避難する事にした。地表から突き出した岩。その後ろに身を伏せる。

空はすっかり雲におおわれてしまつた。そして遠くの地平線から伸びた3本の白い筋が、その雲に吸い込まれている。

竜巻だ。

それはじよじよに、こつちに向かつて近づいている。逃げようか、どうしようかと考えた。

その時、あたしは背後に蹄の音を聞いた。

闇の中に、ふたつの眼が光っている。ライオンの顔がそこにあつた。だが体は人間、下半身は馬。

ライネル。手強い怪物だ！ そいつはあたしを見つけると、風を突いて襲いかかってきた！

●ホワイトソードがあれば …… ↳ 375へ ●なければ ..... ↳ 339へ



330 ● その怪物の名はライネル。顔はライオン、体は人間、下半身は馬。そいつは風のように襲いかかった。

3 3 1

〔C〕

もう何本の矢を射たのだろう。

疲れた手で引き絞つてかまえた時、ゾーラは残すところあと数匹になっていた。

海上には一面ゾーラの死骸。

海はヤツらの血で青く染まり、まるで地獄のようだ。

ちょっと残酷だけどしかたない。負けるわけにはいかないんだ。(LIFEエネルギー♡)

2個得る)

東に陸地が見える。そつちへ向かう?

●YES ..... ↴ 391へ ●NO ..... ↴ 356へ

3 3 2

あたしは力をふり絞り、剣をかまえて突進した。

☆バトルE

基本ポイント ゼルダ( ) 魔女( )

246ページのバトル記号表を見て、Eの数字を基本ポイントにプラス。

●勝った ..... ↴ 337へ ●負けた ..... ↴ 366へ

**3 3 3**

あたしは滝に近づいてみた。

ものすごい水音。しぶきが顔にかかる。滝の後ろに岩穴がある。それが水流の隙間すきまから見えた。

意を決し、あたしは滝を突つ切つていく。一瞬、恐ろしい水圧で押しもどされそうになつたけど、すぐ滝の向こうへ抜けた。

岩穴は、人ひとりが入れる大きさだ。深くはなかつたけれど、奥の突き当たりの壁に、鉄の扉があつた。

カギがかかっている。マジカルキーはあるか？

● YES ↓ 364 へ ● NO ↓ 383 へ

**3 3 4**

〔C〕

ホワイトソードはなかつた。

仕方なく剣を抜いた。死人ソンビたちは、頭を斬り落とさなきや倒せないという。あたしは剣をかまえた。

(もし逃げるなら、↓ 352 へ)

☆バトルC

基本ポイント ゼルダ（） ゾンビ（）

276ページのバトル記号表を見て、Cの数字を基本ポイントにプラス。

●勝つた……………⇨297へ ●負けた……………⇨362へ

### 335

[C]

魔女たちは、その白く光る剣を見たとたん、呪文を中断した。剣の光に射すくめられて  
いるようだ。

あたしはこのチャンスを逃がさなかつた。エイ！ と叫び、真ん中の女に斬りつける。  
悲鳴をあげて倒れる魔女。同時に左右にいたふたりも消えてしまう。何と、実体はひと  
りだつたのだ。（LIFEエネルギー♡2個得る）⇨294へ

### 336

弓をかまえ、背中から矢を数本取つた。

弦を引き、狙い、射つ。ゾーラが1匹、額に矢を突き立てて沈んでいく。続いて2本目。  
そして……。

あたしは襲いくる光球をよけながら、矢を射続ける。駄目だ。これじゃキリがない。

☆バトルN

# 334～338

基本ポイント ゼルダ（） ソーラ（）

276ページのバトル記号表を見て、Nの数字を基本ポイントにプラス。

●勝った ..... ▶ 331へ ●負けた ..... ▶ 281へ

337

魔女たちの呪文が解けた。今がチャンスだ！

あたしは――

●右の魔女を斬りつけた ..... ▶ 371へ ●真ん中の魔女を斬りつけた ▶ 290へ

338

岩山の後ろへまわり込み、進むあたし。

突如、足元の砂地が消え、あつという間に斜面を転がり落ちてゆく。何とか途中の岩に

しがみついたものの、上から落ちる大量の砂で息もできない。

やがて顔を上げたあたしは、砂丘の向こうにぼんやりと浮かぶ、幻の城塞を見つけた。  
蜃氣楼城だ!! 何て事だ。ゴールを目前にして、ニツチもサツチも行かなくなるとは!

必死にあがいていると、足元の砂が、ザワザワと動き始めた。ひょつとしたら――ここ  
は巨大なアリ地獄!?

その瞬間、砂を噴き上げて青い怪物が出現した！ イソギンチャクのような姿。ヌメヌメと光る体。リーバーだ！

あたしは岩にしがみついたまま、あわてて体を引きずり上げようとした！ ●バクダンでやつつける ……▽310へ ●剣を使う ……▽296へ

### 339

C

怪物はさすがに手強かつた。それに強風と迫り来る竜巻の脅威もある。

あたしは剣をかまえ、果敢にもライネルにかかるといつた。が、ライネルは手にした長大な剣からビームを放つた。

かろうじでさけると、蹄で踏みつぶそうとのしかかつてくる。

風の唸と馬蹄の音、そして剣と剣のぶつかり合う音が交錯する。

背後へまわり込もうとした時、素早く向きを変えたライネルが、あたしの左足をつらぬいた（LIFEエネルギー♡2個失う）

### ☆バトルM

基本ポイント ゼルダ（ ） ライネル（ ）

276ページのバトル記号表を見て、Mの数字を基本ポイントにプラス。

●勝った ……▽396へ ●負けた ……▽348へ

**338~339**



338●突如、足元の砂地が消え、あたしは斜面をすべり落ちていく。そこはリーバーの住むアリ地獄だった。

## 340

あたしは弓を取り、矢をつがえた。

3匹のうち、真ん中のゾーラをねらう。

### ☆バトルF

基本ポイント ゼルダ(+) ゾーラ(-)

276ページのバトル記号表を見て、Fの数字を基本ポイントにプラス。

●勝った ..... ↓ 376へ ●負けた ..... ↓ 347へ

## 341

崖の道を歩き続けた。

やがて平地にさしかかつた。

そこには何と、アモスの像が8体も並んでいた。

アモスは石化した兵士だ。しかしちよつとした事で、突然、実体に戻つて襲つてくる。  
避けるに越した事はない。

が、このアモスの立つ所に秘密の穴が隠されている事もあるのだ。

どうしよう？ あたしは考えた。

●アモスに触れてみる ..... ↓ 372へ ●この場を去る事にする ..... ↓ 354へ

3 4 2

満天の星の下、どこまでも続く砂の海。

ここは赤い砂漠と呼ばれる所だ。赤褐色の砂でできているためだが、星明かりの中ではその色もわからない。

歩いているうち、地平線の彼方——星空と大地の境界の向こうに岩山の影が見えてきた。

●岩山へ行く

▽ 3 1 6 へ

●行かない

▽ 3 3 8 へ

3 4 3

眼下に湖。その中に小島がある。

そこへ渡るには、1本の細い木橋しかない。それは月光の下でおぼろにかすんで見える。湖畔へ来たあたしは、どうしようかと考えた。

●島へ行く

▽ 2 8 0 へ

●行かない

▽ 3 7 3 へ

3 4 4

□ C

剣をぬいて、その切っ先を木に向ける。

刃が青白く光つた。同時にそこから、七色のビームが走る！

木は一瞬にして炎に包まれていた。ツタは焼け切れ、おかげであたしは、ドサリと地面

に投げ出される。ふと見るとルピーがひとつ落ちている（一ルピー得る）  
まつ赤な炎を上げて焼け落ちる食肉植物。それを背後にして、あたしはまた歩き出す。

▽286へ

### 3 4 5

あたしの体は、恐ろしい勢いで空間の穴に吸い込まれた。  
まるで竜巻に巻き込まれたようだ。七色のオーロラがはためき、あたしを包み込んで回  
転していた。意識は急速に失われていく……。

目覚めると、緑の匂いがした。

そこは深い森の中。背の高い木立ちの群れが、あたしを見下ろしている。

ふいに気がついて、ポーチの蓋ふたを開けた。ファニーはその中で気絶している。怪我けがはしていらないみたい。

それにしても、ここはどこだろう。

▽360へ

### 3 4 6

そこは石のブロックでできた、何もない部屋だった。トライフォースはどこにあるんだ  
ろう!?

# 344～348

剣を巧みに扱い、ライネルはあたしを牽制した。2度3度の攻撃で、あたしの体力は限界に来ていた。  
逃げよう、と決心し、後ろを振り向いた。するとそこに、新たなる脅威が待ちかまえていた。

3 4 8

あたしは1本目を射た。  
だが、それはゾーラに命中せず、波間に消えてしまった。あわてて2本目を鞘からぬいた時、光の球が3つ飛んできた。3匹が一勢に放つたのだ。  
もろに食らつたあたしは、全身がしごれて動かなくなつた。そのまま橋から水中へ。もはや逃れるすべはない。半魚人どもは沈んでゆくあたしに襲いかかる。  
ぶくぶくぶく……。

END

3 4 7

●茶の扉へ ..... ⇠ 397へ ●白の扉へ ..... ⇠ 308へ

あたしは、ものすごい風の力により、一瞬にして宙に舞っていた。竜巻だ。いつの間にか背後に迫つていたのに気づかなかつたのだ。

空高く巻き上げられ、あたしは空中であがいていた。

そして、どこかに投げ出された。

意識を取り戻す。

そこは森の近く——草原だつた……。

奇跡的にも骨は折れていない。が、擦り傷は体のあちこちにある。

▽360へ

### 349

その扉を開けたとたん、ものすごい声があたしの鼓膜こまくを直撃した。

部屋の隅にうずくまっているのは、何でも食べちゃうサイの怪物・ドドンゴ。体は硬質の表皮でおおわれ、剣では役に立たない。

ドドンゴはぎろつとあたしをにらむと、ゆっくり体を起こした。

どうやら空腹のよう。

夜食にあたしを食べようつてワケね。

バクダンを3つ以上持つている?

●YES ▷368へ ●NO ▷285へ



349●扉を開けると、ものすごいなり声。何でも食べち  
ゃうサイの怪物・ドドンゴが身を起こしたのだ。

350

打つ手はなかつた。

あたしはガンジガラメになつてゐるし、武器は近くにあるものの、取る方法がない。エーン。こんな死に方イヤだア！

あたしは絶望の眼差しで、近づいてくるモリブリンを見つめた。

END

351

LIFEエネルギーは満杯。剣のビームが使えるんだ！

ゾーラは波間に顔を出し、光球を放つてきた。あたしはそれを避け、剣先を向ける。七色の光が走り、湖面の怪物を次々ととらえた。3匹はあつという間に燃え上がり、暗い湖中へ沈んでゆく。

□385へ

両手を前につき出しノタノタやつてくる死人たち！ あたしは本能的に恐怖を感じてい  
た。

352

□

# 350～355

逃げ足なら自信がある。あたしはとっさに街の外に逃げ出した。奴らは追つてきただけど、ゾンビの走る速度は問題にならない（L—FEエネルギー個失う） ↳300へ

## 353

しまった。ローソクがない。これじゃ木を焼くにも方法がない。どうしようか？

●崖の洞窟へ行く ..... ↳357へ ●その場を去る ..... ↳302へ

## 354

さて、ここにいてもしかたない。先へ進む事にしよう。

●東へ行く ..... ↳298へ ●西へ行く ..... ↳263へ  
●南へ行く ..... ↳330へ ●北へ行く ..... ↳343へ

## 355

あたしは腰の剣をぬき、ギーニに立ち向かっていく。目ざすは1体——本体のギーニのみ。あとはみな幻にすぎない。

気合いをこめ、妖怪めがけて斬りつける。だが、剣はギーニの体をすりぬけてしまつた！あつという間だつた。待つてましたとばかりに、他のギーニたちが一勢に飛びかかつて

くる。

そう。この化け物にはホワイトソードじゃないと効き目がないんだ。ギーニに襲われた人間はあつという間に石になる。

あたしも例外じゃなかつた……。

END

### 356

(C)

なおもそこにとどまり、残るゾーラをやつつける事にした。

イカダに手をかけ、上がつてこようとする半魚人どもに、あたしは剣で攻撃をくわえる。  
皮膚はかたく、貫けないが、目が弱点だ。

最後の1匹になつた時、そのゾーラが突如、光球を放つた。ウツ……！ それを肩に受けたあたしは、激痛に片膝をつく。(LIFEエネルギー♡一個失う)  
だが、そのゾーラはそれつきり波間に沈んでいった。

▽324へ

崖にある洞窟。あたしはその中へ入つていつた。ふたつの松明の間に、商人がすわつていた。

### 357

(C)

# 355～359

「何か買うてくれや」

並べられた品物は――

○ハシゴ――

15ルピー

○マジカルキー――

20ルピー

○バクダン（5個）――

10ルピー

○ローソク――

5ルピー

「ケチケチせんと、<sup>こ</sup>買った方がよろしゅうおまつせ」商人はパイプをふかしながらいう。  
「ここにある品物は、きつと後で役に立ちますよつて」

（品物を買った人は、アイテムチェックシートに記入。値段分のルピーを消す）

洞窟を出たわたしは――

●滝へ行く：□333へ

●木へ行く：□313へ

●この場を去る：□302へ

東へ向かつた。

潮流に逆らい、陸地に向かつてこいでゆく。やがてイカダは浜に打ち上げられた。あたしは休む間もおしんで、歩き出す。

□321へ

3  
5  
8

3  
5  
9

□

ところがバイブルなんか持っていない。

しかたなく引き返すハメとなつた。何て事なんだろう。妖精の泉が目の前にあるというのに……（Ｌ－Ｉ－Ｆ－Ｅ エネルギー♡一 個失う）

●崖の上に戻る ..... ↪ 299へ

●この場を去る ..... ↪ 354へ

### 360

旅を続けると、草原の向こうに森の輪郭りんかくが見えた。さながら黒いベールのように、横に長く広がっている。

あの森を抜けてみよう。

↪ 314へ

### 361

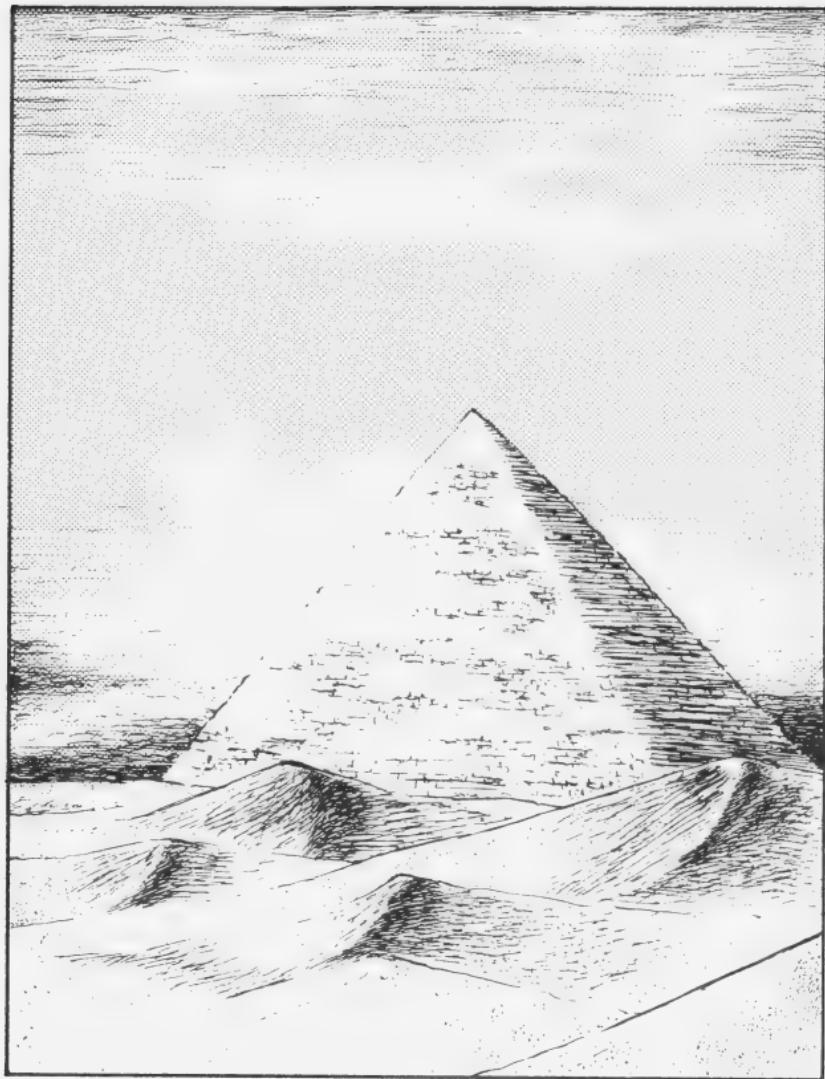
いくつもの丘を越え、谷を越えて歩いていった。やがて、目の前にピラミッドが見えてきた。

最初はもやにかすみ、おぼろげにしか見えなかつたが、近づいていくにつれ、その巨大さがわかつてきた。

美しい直線で形成された正四角錐すい。それは大きな石を無数に組み合わせて築いたものだつた。

北側の低い所に入口を見つけ、あたしは中に入つていった。

## 359～361



361●やがて目の前にピラミッドが見えてきた。近づいて  
いくにつれ、その巨大さがわかつってきた。

最初の部屋が、すぐそこにあつた。ふたつの松明の間に老人がすわっている。

「あんた、どこ行きんさるね」とたずねてきた。

「あたしはトライフォースを捜し、蜃氣樓城<sup>ミラー・ジユ・キャッスル</sup>を求めて旅をしている者」

「ホウ、そりや遠路はるばる、ようおいでんさつたのう。トライフォースを探しとられるんじやつたら、このピラミッドの奥に隠されどるよ。じやけんど、ここはごつぱ恐い魔物がおるけん。氣イつけた方がええよ」

トライフォースのひとつが、このピラミッドの中に隠されている……。あたしはそれを聞き、勇気が湧いてくるのを感じた。

「——それに」と老人は続けた。

「蜃氣樓城ゆ一城の事も、ちつと耳にはさんだのう。ありやあ、湖や海や川——つまり水のある所にや、絶対に出現せんちゅ一話じやけん」

あたしはそのなりのある老人を抱きしめ、思わずキスをしてしまつた。  
何て幸運なんだろう。これがそのまま続いてくれたら、どんなにいいか。  
あたしはしつこいほど礼をいい、ピラミッドの奥に向かつた。

目の前に扉がふたつ。赤い扉と青い扉だ。  
さて、どっちの扉に入ろうか？

●赤い扉へ

▽308へ

●青い扉へ

▽292へ

斬さきつても斬さきつても次々と襲おそつてくる死人ソンビども。あたしはひとりづつ倒していきながらも、次第に疲労していく。

まつたく不利な戦いね。何しろ相手は疲れ知らずの死兵の群れだもの。

そこらじゅう、奴らの流した血や腐汁ふじゅうが散り、悪臭を放はなつてている。あたしは吐き気をこらえながら、後退あとずさつた。剣もきれなくなってきたし、そろそろ逃げた方がいい……。

そう判断し、あたしはとつさに逃げ出した。（3ルピー失う）

▽300へ

### 363

波打ち際へ出た。そこは果てしなく広がる海。岸に荒々しく波が打ち寄せている。静かだつた。が、きっと波のむこうには恐ろしい危険が待つていてるに違いない。

浜を見渡すと、イカダが見つかつた。砂に半ば埋うもれて隠れている。前の戦いの時、リンクが使つたものに違いない。

それを引きずり出し、あたしは大海原に乗り出していった。

せまくるしいポーチから出たファニーが、左肩の上にすわり、ため息をつく。

『一日中この中じや、窮屈きゆうくつでたまんないわ。ああ、いい気持ち』

「あらファニー、あなたはいいわよ。いつでも好きな時に出られるから。でもあたしは昼

の間、ずっと水晶球の中。外で何が起こっているかもわからないのよ」

『そうね、かわいそう。早くこの呪いを解いてあげたいわ』

あたしはリンクの入ったクリスタルムーンに、そつと手をやつた……。

⇒ 288へ

### 364

〔C〕

マジカルキーを使うと、鉄の扉は簡単に開いた。開けたとたん、まぶしい黄金の光があたしの目を射た！　トライフォースだ！！

それはまぎれもなく、『知恵』のトライフォースの断片だった。それを取つたあたしは、勇気百倍。（知恵のトライフォースひとつ入手。アイテムチェックシートに記入。ただし、一度ここを通つた人は入手できません）

⇒ 302へ

### 365

ドサリ！　あたしは砂地に投げ出された。

かろうじて空間の穴には吸い込まれなかつた。

あそこに入つたら、どこへ行つていたか……。

せつかく見つけた蜃氣ミラージュ・キャッスル楼城は消え、同時にわずかな望みも消えてしまつた……。

ガツクリと肩を落とし、あたしは砂漠を歩き出した。

## 363～366

● 東へ行く …… ↳ 343へ ● 西へ行く …… ↳ 271へ ● 南へ行く …… ↳ 263へ

366

〔C〕

次の瞬間、あたしは魔女の呪文によつて金縛りになつていた。(LIFEエネルギー♡一  
個失う)

どうもがいても動けない。

次第に気が遠くなつていく。

気がついた時、あたしは自分が立木に縛りつけられているのを知つた。頑丈な繩でグル  
グル巻きだ。

ふと、武器はどうなつたかと思つた。

闇の中、目をこらして見る。

剣や弓はすぐそばの地面の上にあつた。

突如、ものすごい唸り声が、静けさを破つた。

深い森の向こうから、何かが近づいてくる。とがつた耳、ブルドックのような顔。モリ  
プリンだ！ その手には矢がある。

あたしは必死にあがく。

● ホワイトソードを得ていれば ↳ 326へ

● なければ…………… ↳ 350へ

あたしをからめ取つたツタは、ゆつくりと木の「口」に向かつて動く。

宙吊りのまま、とつさに弓をかまえた。力一杯引いて、それを射る！

矢はまつすぐ、「口」の中に突き刺さつた。悲鳴こそあげなかつたが、木は弓なりにのけぞり、苦しげに幹を震わせる。ツタの力が弱まり、あたしは地上へ投げ出された。

そのスキに、一目散に逃げ出した。

口286へ

### 368

〔C〕

ツノを低くかまえ、突進とうしんしてくるドドンゴ。

あたしはその前方に、バクダンを3個置いた。するとどうだろう。ドドンゴはよほどお腹がすいていたらしく、そのバクダンをパツクリとくわえて、一度に3個のみこんでしまつたのだ。（チェックシートからバクダン3個消す）

BOMB!!

にぶい爆発音がし、サイの怪物は口と鼻から煙をはき出した。目を丸くして、その場に横だおしになる。そしてドドンゴは、口から1個のかぎを吐き出し、息絶えた。マジカルキーだ！（マジカルキー入手。アイテムチェックシートに記入。LIFEエネルギー♥2個得る。ルピー8個得る）



367●巨大な食肉植物の触手が、あたしを絡めとった！  
から  
カッと開かれたその口に向け、弓をかまえる。

あたしはそのカギを使い、床にある隠し扉を開ける。と突如、さんぜんと輝く黄金の光が、あたしの目を射抜いた！

トライフォースの光。“知恵”的トライフォースのうち半分が今ここで見つかったのだ！（知恵のトライフォースひとつ入手。アイテムチェックシートに記入。ただし、一度ここを通った人は入手できません）

▽312へ

### 369

□

リーバーはあたしに気づき、そのぶよぶよした触手を伸ばしてきた。たくみにかわしつつ。剣でつらぬく。引きぬくと、傷口から大量の粘液ねんえきを噴き出し、怪物はぐにやりと倒れた。そこに3ルピーあつた。（3ルピー得る）

死骸しがいを乗り越え、あたしは先へ進んだ。  
おかしい。さつきもここを通つたような気がする……。

▽314へ

### 370

□

ホワイツソードがないのは、ちょっと痛い。あたしは仕方なく怪物につかまらないようにし、壁に沿つてじりじりと歩く。こうなりや逃げるが勝ち。スキを見て、3匹のギブドの間をすり抜けた！

# 368～372

その時、左手をつかまれ、壁にたたきつけられてしまつた。（L—F E エネルギー♡一個失う）

かろうじて立ち上がり、出口の扉へ――。

●白の扉から出る ..... ⇄ 346へ ●黄の扉から出る ..... ⇄ 292へ

## 371

右側の魔女をねらい、剣を振り降ろした。

ガツン！ その強い手答えは、剣が地面をえぐつたものだ。縦に真っぷたつになつたはずの魔女は、無傷のまま。剣は素通りしていたのだ！

あたしはもう一度――今度は横殴りに斬りかかつた。剣は空を斬り、あたしはバランスを失い、ぶざまにも引つくり返つた。

## ⇒ 366へ

## 372

無表情に立つアモスの像。

そつと近寄り、手を触れてみる。（勇気の人差し指！）

そのとたん、像は青白く光り、震え出した。しかも、8体全部だ！ 見る見るうちに、

それらは半人半獣の兵士と化し、あたしを襲ってきた。

☆バトルF

基本ポイント ゼルダ（） アモス（）

276ページのバトル記号表を見て、Fの数字を基本ポイントにプラス。

- 勝つた ↓323へ ●負けた ↓291へ

373

あたしは湖を去った。

さて、どっちへ向かって進もう？

- 東へ ↓267へ ●西へ ↓342へ ●南へ ↓325へ

374

あたしは生ツバを飲み、扉を開けた。

突如、天をもゆるがすうなり声。一角獣アクオメンタスがいたのだ。

全身を緑のウロコでおおわれた馬の怪物だ。眼は炎のようにらんらんと燃え、頭の上には見事な角。

だがこの怪物の武器は□から放たれるビームだ。恐るべきパワーを持つた光線が3つ同時に放たれるのだ！



374●紫の扉を開け、その部屋へ入る。そこには怪獣アク  
オメンタスがいた。ピラミッドに住む一角獣だ。

LIFEエネルギーは満杯で、マジックシールドはある？

- LIFEエネルギーも、シールドもOK……………⇨ 329へ
- マジックシールドのみ……………⇨ 382へ
- LIFEエネルギーのみ、または両方なし……………⇨ 394へ

### 375

あたしはホワイトソードをかまえ、襲い来るライネルを迎え撃つた。怪物は長大な剣を振りかざし、かかつてくる。

鈍い金属音。火花が飛び散り、同時にあたしは地表に叩きつけられる。手強い！ 一筋縄じやいかない敵だ。

しかもぐずぐずしていると、背後から龍巻が迫つてくる。

- マジックシールドがあれば ⇨ 295へ
- なければ……………⇨ 339へ

### 376

ゾーラの眉間に矢が突き立つた。

あたしは素早く鞘から2本目を取り弓を引き絞る。

2匹目の半魚人ののどをつらぬく。

# 374～378

残る1匹が光の球を放ってきた。だが、身をかわすのはたやすかつた。間髪容れずに、  
3本目をそのゾーラの頭に射た。

▽385へ

3 7 7

〔C〕

穴の縁までい上がるつたあたしは、休む間もなく走り出した。

すぐ目の前に蜃氣樓ミラージュ・キャッスルがあつた。蜃氣樓といよりも、オーロラのように七色に光り、  
ゆれ動いている。無数の小塔が、ひとつひとつはつきりと見えた。

しかしはやる気持ちは、かえつて行動をからまわりさせる。あたしは足をすべらせ、砂  
地につづぶした。無念の想いで顔を上げる。

城はその下方から、ゆっくりと消えていく。

まるで闇にのみ込まれていくよう。（L—F Eエネルギー♡—個失う） ▽287へ

3 7 8

品物を買ったあたしは、礼もいわずにその洞うろを出た  
森を進んでゆくと、前方に沼が見えてきた。どんよりとした水をたたえ、月を映してい  
る。

ポーチの中から、ファニーが顔を出した。水の香りに引かれたのだろう。だがここは、

この妖精が気に入るような澄んだ水たまりじゃないのだ。がつかりした顔のファニーは、ふと森の様子を見て、不安げに肩をすくめた。

『ゼルダ、ここは行き戻りの森よ』

「え？ 行き戻りの森？」

『うん。一度迷い込むと、何度も同じ所に出る不思議な森なの』

どうすればいいのだろう？

●沼の右へ行く ..... □ 311へ ●沼の左へ行く ..... □ 284へ

3  
7  
9

□

地の底に続く穴へ降りていった。

長い石段を下り終わると、そこに商人がいた。

「何かこうてくれや」毎度おなじみの台詞。セリフ

商人の前に並ぶ品物は3つ。

○マジックシールド——15ルピー ○マジカルロッド——20ルピー

○バイブル——20ルピー

(品物を買った人はアイテムチェックシートに記入。値段分のルピーを消す)

「大して安くないのね」とあたしは愚痴ぐちをいった。



379●地の底へ続く道を降りていった。突き当たりの部屋には緑の服の商人がいた。「何か買うてくれや」

「バーゲンセールの時は、のぼりでも立てておきまつせ。ヒヤツヒヤツ」  
商人の不気味な笑いを背に、あたしはまた石段を登つた。

▽387へ

### 380

〔C〕

情けないけど、あたしは逃げ出した。

あんな強敵、今のあたしじやちょっとかなわない。だいたいあたし、ムカデとピーマンは大嫌いなんだ。（LIFEエネルギー♡一個失う）

▽302へ

### 381

〔C〕

あたしは腰のさやから、ホワイトソードをスラリと引きぬいた。うん。心強いこの重み。飛びかかるギブドを、斬りつける。ミイラ男は悲鳴ひとつあげず、倒れ、次の瞬間ににはただの砂と包帯の塊かたまりになっていた。

「ええいっ！」気合いと共に、残る2匹のギブドを斬る。1匹は床の石畳いしだたみの上に倒れ、もう1匹は真っぷたつになつて壁まで飛ぶ。そして、いずれもすぐに砂になつてしまつた。

（5ルピー得る）

剣を收め、出口をさがす。白と黄の扉があつた。

●白の扉へ ..... ▽346へ ●黄の扉へ ..... ▽292へ

# 379～384

3 8 2

☆バトル F

基本ポイント ゼルダ（-） アクオメンタス（-）

276ページのバトル記号表を見て、Fの数字を基本ポイントにプラス。

●勝つた：……………⇨ 303へ ●負けた：……………⇨ 394へ

3 8 3

カギがかかっているって事は、何か重要なものが隠されているに違いない。困ったな。  
マジカルキーなんて持つてないもの。あたしはすっかり落ちこんで、その滝の穴を出た。  
どこかでマジカルキーを得て、また戻つてこなきや。

●崖の洞窟へ行く：……………⇨ 357へ ●老木へ行く：……………⇨ 313へ  
●その場を去る：……………⇨ 302へ

3 8 4

さて、ホワイトソードはあるが、うまくギー二に通用するか？

あたしはこの魔法の剣を構えた！

☆バトル L

基本ポイント ゼルダ（ ） ギー（ ）

276ページのバトル記号表を見て、「」の数字を基本ポイントにプラス。

●勝った ..... ↓ 278へ ●負けた ..... ↓ 399へ

### 385

島へ渡った。岩山に洞窟がある。一瞬迷つたが、せつかくここまで来たんだと思い、入つてみる事にした。

闇の中を手さぐりで歩いてゆく。前方にボツと松明たいまつが点いた。そのそばに、赤い僧服の老婆がすわっていた。

「あんたあ誰ね」

「あたしはゼルダ姫。ミラージュキャッスル蜃氣樓城イシキロウジヤクを求めて旅する者」

「ゼルダ姫。それならじいさまに授きずかつた手紙を持つてるけ？」

●持つている ..... ↓ 319へ ●持つていない ..... ↓ 305へ

### 386

街の中を歩いてみた。

誰か後をつけてくる者がいる。足音がかすかに静寂せいじやくを乱している。振り返つても人の姿



385●闇の中を手さぐりで進んでゆく。するとそこにはひとりの老婆がすわっていた。「あんた誰ね」

はない。が、足音は時間がたつにつれ、増えてくるようだ。

あたしは足を止め、またふり返った。

大勢の人影が、よろめきながら路地から出て來た。それは死人の群れだつた！

ホワイトソードはある？

●YES

↓304へ ●NO

↓334へ

387

夜明けが近づいてきた。

ファニーはあたしのまわりを飛びまわり、金色の鱗粉を空中にひいている。

枯木の林は相変わらず立ちはだかり、時折その枝の上で鴉カラスが赤い目を光らせている。こ  
つちを見張つているのか。

●東へ行く

↓255へ

●北へ行く

↓265へ

388

LIFEエネルギーは充分。

あたしはさやから剣を抜き、両手でかまえた。

次の瞬間、刀身が七色に光つた。

# 386～390

行けつ！ 剣の先から刃の形をしたビームが飛び出した。それが波間に浮かぶゾーラの顔に刺さるや否や、半魚人は炎に包まれた。

しばらくして、海面のゾーラは1匹残らず死骸と化していた。ちょっと残酷だけど、これも聖なる使命のため。負けるわけにはいかない。

▽324へ

## 389

ギニーはホワイトソードでないとやつつけられない。にもかかわらず、あたしはまだそれを得ていない。

どうしよう？

●戦う……………▽355へ ●逃げる……………▽395へ

## 390

朽ち果てた墓石の間を、あたしは歩いた。  
時折、地面から青白い光がフワリと浮き出し、空中でパツと消える。ファニーが驚いて、ポーチの中に逃げ込む。

音のない花火。不淨の魂が光っているのだ。たて続けに目の前で、パツパツと光った時、あたしは目が眩みそうになつた。

と、その光がぱつたりと現われなくなつた。

あたしは剣をぬき、身がまえる。

突如、墓の向こうに白い衣をまとつた人影が浮かび上がつた。墓場の妖怪ギーニだ！ そ  
の蒼白い顔は死顔の不気味さをたたえている。そして見る見るうちに、あちこちの墓石から無数のギーニが出現した。

『本物は1匹。あとは全部二セ物よ』 ファニーがテレパシーで叫ぶ。  
ホワイトソードは持つてゐる？

● YES ..... ⇄ 384へ ● NO ..... ⇄ 389へ

391

あたしは攻撃の手をゆるめ、イカダをこぐのに専念した。ゾーラは戦意を失つたらしく、追つてはこなかつた。

⇨ 358へ

392

〔C〕

ムツとしたあたし。

ツカツカとその商人に歩み寄ると、力いっぱい頭をぶんぬぐつてやつた。情けない事に、男は目をまわしてのびてしまつた。頭の上で星が舞つていた。

**390~392**



390●その墓地には、地上でもっとも強い化け物・ギーニ  
が住んでいた。墓石から抜け出し襲ってくる！

レディのする事じやないつて？ フン。あたしは王子様に守つてもらうだけの、ひよわなお姫様じやないのよ。

木の洞うろを出ると、驚いた事に、あたりの様子が一変していた。

確かうつそうとした深い森だつたのに、今あたしの前にあるのはどこまでも広がる草原。しかもすぐそばにあるのは、美しい妖精の泉。

ファニーがポーチから飛び出した。泉のほとりを飛びまわり、手招きをする。あたしはうなずき、泉に行く。

（持っているハートの分だけ、LIFEエネルギーを満杯に）

再び歩き出す。

●南へ行く ..... ↳ 256へ ●北へ行く ..... ↳ 272へ  
●東へ行く ..... ↳ 270へ ●西へ行く ..... ↳ 361へ

3  
9  
3

□

リーバーはそのいやらしい触手を伸ばし、あたしの脚に巻きついてきた。ものすごい力で引っ張られる。

岩をつかむ手もしごれてくる。

とつさに覚悟を決め、岩を離した！ リーバーに引き寄せられながら、剣をかまえ、突

き出す。そしてあたしは、怪物の体を深々と刺しつらぬいてやつた。

リーバーは傷口から青い血をふき、しほんでいく。その姿はまるで、水でふくらんだ風船のようだつた。(5ルピー得る)

青い血は穴の底で湖のようにたまり、そしてすぐにまた砂に吸い込まれてゆく。

あたしは斜面を登ろうとあがいた。砂がくずれてうまく登れない！

▽377へ

### 394

〔C〕

あたしはその強敵と必死に戦つた。

だが、アクオメンタスのビームを受け、その場に倒れてしまつた。絶体絶命の危機！ 勝ち誇つたように吠え、あたしを踏み殺そうと迫つてくる一角獣。(LIFEエネルギー♡一  
個失う)

その時だつた。突如ポーチから飛び出したファニーが、アクオメンタスのまわりを飛びまわつた。怪物はその小さな妖精に気を取られ蝶を追う犬のように躍びはねては吠えた。  
『今よ、ゼルダ。逃げて！』

ファニーの合図と共に、あたしは手近な扉から抜け出した。一瞬おいて、ファニーも扉の隙間から飛び出してきた。

後には怒り狂つたアクオメンタスの吠え声が残された。

▽292へ

**3 9 5**

□

とつさに逃げる事にした。

だが、宙に浮かぶギーニは、恐ろしい速さで追つてくる。

何とか墓地の外まで逃げきった時、あたしは二度と立てないほど疲れ切っていた。（LIFEエネルギー♡2個失う）

▽387へ

**3 9 6**

□

飛んでくるビームをさけながら、あたしは死にもの狂いで突進した。

剣と剣がまじわる鋭い音が響く。ライネルの長剣が、手を離れて宙を舞つた。

今だ！

あたしは怪物の横つ腹に切つ先を突き立て、柄まで押し込む。

恐ろしい悲鳴と共に、ライネルは横倒しになつた。（LIFEエネルギー♡1個得る）

▽328へ

**3 9 7**

四角い、何もない部屋。4つの壁は全て石で造られ、何の仕掛けもない。扉は3方に――。

●緑の扉へ …… ↳ 349へ ●黒の扉へ …… ↳ 374へ ●茶の扉へ …… ↳ 346へ

### 398

□

井戸の縁に手をかけ、底をのぞいてみた。

空井戸だつたけど、驚いた事に底で何かの明かりが灯つてゐる。あたしは縄を伝つて降りてみた。そこに商人がいた。

松明のそばに筵が敷かれ、品物が並んでいる。

「何かこうてくれや」と商人はいつた。

○ホワイトソード——10ルピー ○マジカルブームラン——20ルピー

○マジックシールド——10ルピー ○バクダン(5個)——7ルピー

○ハシゴ——7ルピー

(品物を買った人はアイテムチェックシートに記入。値段分のルピーを消す)

あたしは再び縄を伝い、井戸の上に登つていつた。

↓386へ

### 399

□

さしものホワイトソードも、無数のギーニの前にはあまり効果がない。決定的なミスは、あたしが本体のギーニを見失つてしまつたという事だ。

フワリフワリと変幻自在に飛びまわるギーニは、斬つても突いてもごたえがない。

## 395~399

とつさに逃げる事にした。剣を大きく振りかざして威嚇し、そのスキに脱兎の如く逃げ出した。

ギーニたちは追つてきたが、墓場の外まで逃げると追つてこなくなつた。まさに悪夢のような出来事。（LIFEエネルギー♡一 個失う）

▽387へ

## 400

とつさにぼくは、銀の矢を使つた。

弓につがえるのももどかしく、両手で握つた。

それを、大鶴の胸——心臓に突き立てる。

GYAOOOOH!!

すさまじい絶叫と共に、大鶴——魔将軍ガイアは塵ゼトウと化し、消えていった。

それからぼくが何をしたかつて？

決まつてゐるじゃないか。おしとやかな姫に戻り、ぼくを待つていた愛しいゼルダに駆け寄り、熱い口づけをかわしたのさ。

ファニーのヤツがひとりむくれたけど、この時ばかりはなだめてやる余裕はなかつた。

HAPPY END



400●とっさに銀の矢を力いっぱい大鴉の胸に突き立て  
た！ すさまじい絶叫と共にガイアは息絶えた。

## エピローグ

それから3日後。

蜃氣樓<sup>ミラージュ・キャッスル</sup>城はハイラル地方東部、緑の丘と呼ばれる場所に突如出現<sup>とうじょく</sup>、羊飼いの少年の小屋を押しつぶした。

少年は幸運にも外出していて助かったが、帰ってきて腰をぬかした。粗末<sup>そまつ</sup>な木造の小屋が、巨大な城になっていたためだ。

それっきり、城は二度と消えなくなつた。

リンクとゼルダ、そして妖精ファニーは、城門を開いて外へ出た。

ひとりの老人が、そこで彼らを待つていた。

「あつ、あんた！」リンクが叫ぶ。

老人は白い髭<sup>ひげ</sup>をゆらしてニヤリと笑つた。

「お主ア、これで晴れてハイラル一の剣士になつたわけじや。フオツフオツ」「いつたいあんた、誰なんだ？」

「わしはある目的により、お主らを、あそこへ導いたじじいじや」

「導いた……？ するとあちこちでぼくたちが出会った老人は？」

「そう。すべてわしの変装じや。ある時はヒントじいさん。またある時は手紙の老婆。またある時は謎の行商人。エトセトラ、エトセトラ——。して、その実体は!!」  
彼は口髭くちひげを勢いよくむしり取つた。バリッと激しい音がした。

「イテテテテッ！」

「あ、お父様じやないの」ゼルダが叫んだ。

「そう。わしはゼルダの父、国王グレアムII世」

老人は——いや国王は、さらに顔のメイクを落としながら理由わけを話した。

「わしの父、つまりゼルダのじいさまの遺言ゆいごんでな。ゼルダの花婿はなむこになる男は、ハイラルで一番の剣士でなければならなかつた。

あの魔王ガノンが倒れた後、お前たちふたりの恋愛は急速に進んでおつた。ところがそんな時、世界一の魔道士と称する男が、ゼルダを嫁にくれといつてきた。それが魔将軍マジカルガイアジやつた。断われば、このハイラルに呪いをかけるという。そして本当に奴はそれを実行した。お前たちもそれに巻き込まれたわけだ。

だがわしは考えた。ひよつとしてこれは、リンクをためすいいチャンスかもしけん、とね。果たしてそうなつたわい。わはははは

国王は大口を開け、のけぞつて笑った。

「花婿も決まり、トライフォースも取り返し、国には平和が戻ってきた。これ以上のハッピーエンドはないよのウ。満足満足」

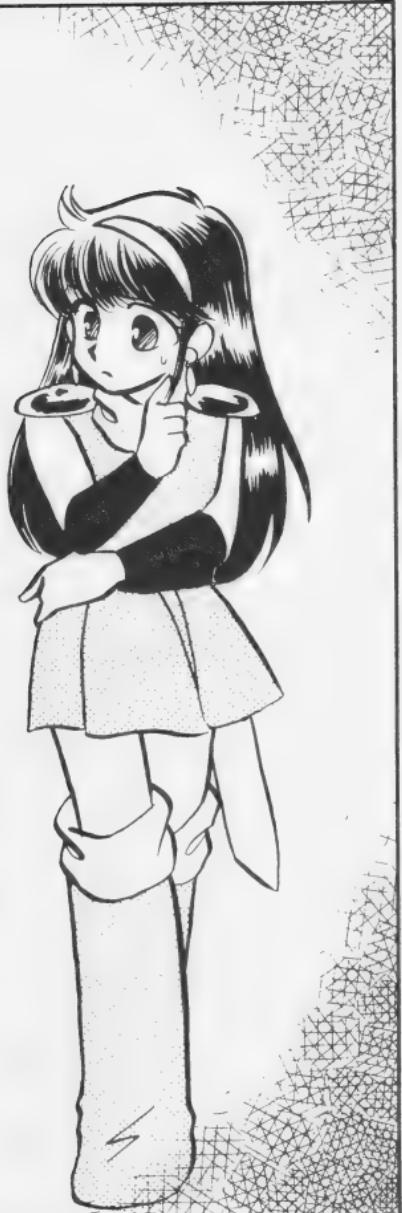
笑い続ける国王に背を向け、リンクたちはあきれ顔で見つめ合った。

『なんちゅー、父親なのよ！ バカみたい』リンクの頭の上で、ファニーがいきました。少なくとも3人にとつて、この話はありきたりの物語のハッピーエンドじやないようだ。

妙な話さ、まったくね。

さて、リンクとゼルダの運命がそれからどうなつたか、これをお話ししなければならぬいだろう。

だけどそれは別のお話。いつかまた、別の時に話す事にしよう。なーんちゃつてね。





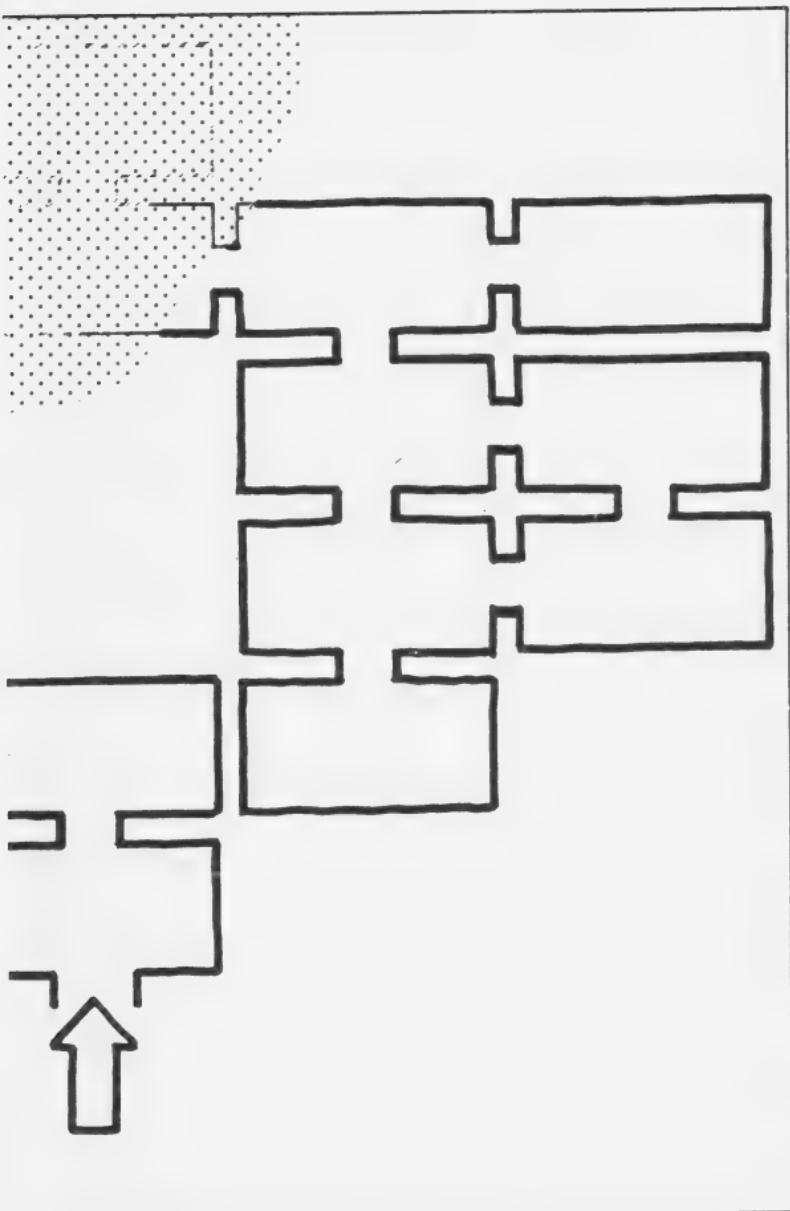
# ハイラル地方地図

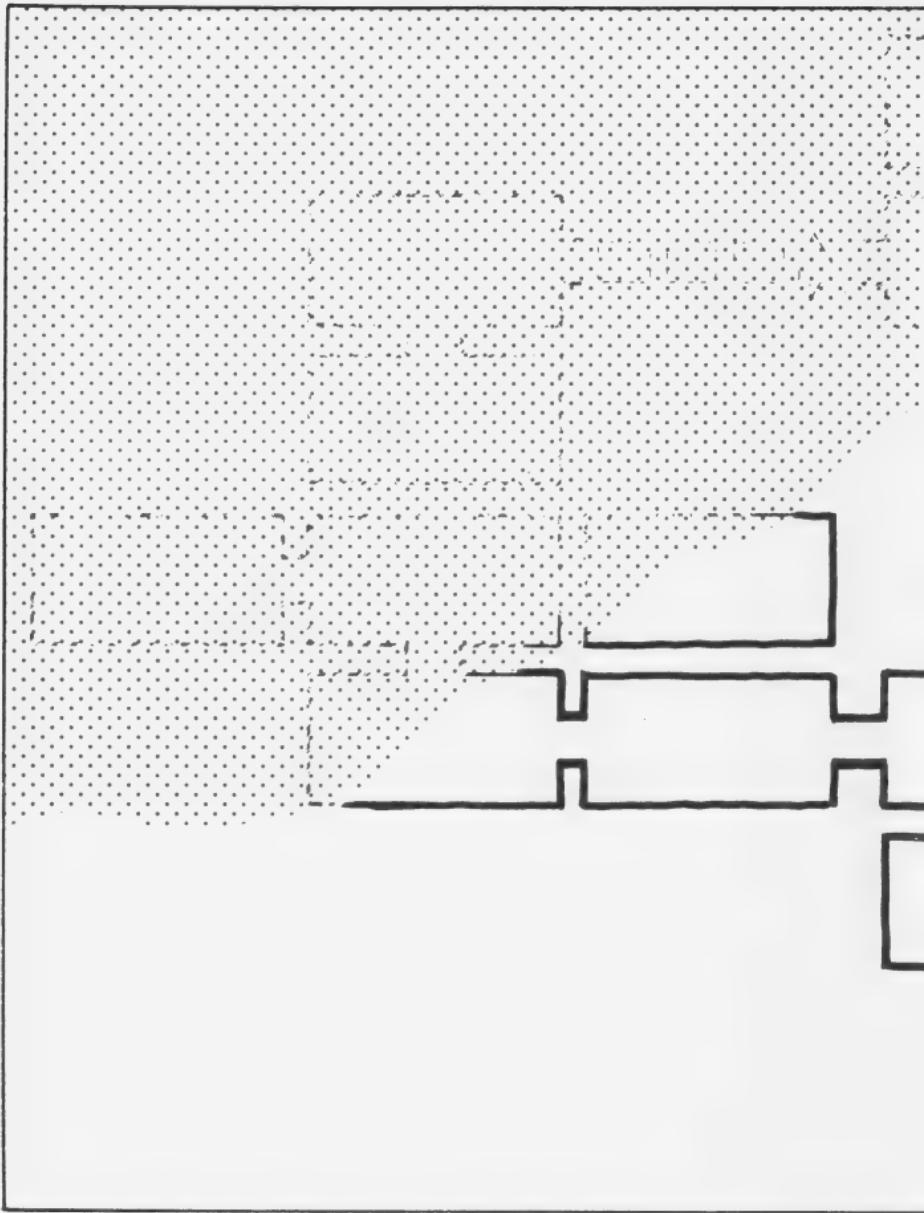




ミラージュ・キャッスル

# 蜃氣樓城内見取り図





## 作者あとがき

ぼくが昔、夢中になつて読んだ本に、小林信彦『オヨヨ大統領シリーズ』、井上ひさし『ブンとフン』、北杜夫『船乗りクプクプの冒険』などがあつた。

それらに共通するのは、荒唐無稽な内容と、文章を使つた大胆な「遊び」つてこと。『ゼルダの伝説』のG B化の時、それができないか、と思つた。ない知恵を絞り、油虫

軍団の襲撃にM G C・ベレッタ M 93 Rで対抗しつつ、徹夜で仕上げた作品がこれ。

いい出来である。(本人談)——何しろ昼と夜とで、ふたりの主人公が交代して活躍する

といふ豪華さ。かつてこんなG Bがあつただろうか?(あつたりして)

話は突然かわるのだが、アメリカのベストセラー作家、スティーヴン・キングが書くモダンホラー小説。(たとえば『呪われた町』とか『THE MIST』)こんなタイプのG Bが書け

ないかと思っている。もちろんオリジナルで。

キングの作品みたいに、人間の仕事や生活を描き込み、リアリティを生み出すのは至難の業<sup>むず</sup>だけど、もしできるなら凝<sup>こ</sup>つてみたいものだ。

の業<sup>むず</sup>だけど、もしできるなら凝<sup>こ</sup>つてみたいものだ。

この『ゼルダ——』、コミカルなキャラ設定でありながら、実はホラーの要素もずい分入つていて。（何とまあ、ゼイタクな本！）

てなわけで、編集をして下さったハードの皆様。御苦労様でした。いつもメ切りに遅れています。

ではまた、次回作で——。

### ●筆者紹介

樋口明雄（フリーライター）

1960年、山口県岩国市生れ。明治学院大学卒業後、雑誌記者等を経てフリーに。  
『ルパン三世 黄金のデッドチェイス』でデビュー。ハードボイルド小説愛好家。

# バトル記号表

基本ポイントに、下のバトル記号のワクの数字をプラス。どちらがより❾に近い——？

リンク or ゼルダ	バトル記号	敵
4	A	3
1	B	4
5	C	1
3	D	2
4	E	4
2	F	3
3	G	5
1	H	2
5	I	1
1	J	4
2	K	2
3	L	3
4	M	5
1	N	1
3	O	5

# 冒険記録紙

## アイテム・チェックシート

リンク	
-----	--

ゼルダ	
-----	--

リンクとゼルダが取るアイテムは、それぞれ取った本人しか使えません。別々にチェックしていきましょう。

# 冒険記録紙

## バクダン・チェックシート

リンク	5 →
ゼルダ	5 →

経過日数ゲージ



リンクとゼルダ別々にチェックしてください。

## ルピー・チェックシート

リンク	20 →
ゼルダ	20 →

リンクとゼルダ別々にチェックしてください。

# 冒険記録紙

## LIFE エネルギー♡チェックシート

リンク	5 →
ゼルダ	5 →

リンクとゼルダ別々にチェックしていきましょう。

## ステップメモ

# 冒険記録紙

## アイテム・チェックシート

リンク	
-----	--

ゼルダ	
-----	--

リンクとゼルダが取るアイテムは、それぞれ取った本人しか使えません。別々にチェックしていきましょう。

# 冒険記録紙

## バフダン・チェックシート

リンク	5 →
ゼルダ	5 →

リンクとゼルダ別々にチェックしてください。

経過日数ゲージ



## ルピー・チェックシート

リンク	20 →
ゼルダ	20 →

リンクとゼルダ別々にチェックしてください。

# 冒險記録紙

## LIFEエネルギー♡チェックシート

リンク	5 ➔
ゼルダ	5 ➔

リンクとゼルダ別々にチェックしていきましょう。

# ステップメモ

## 編集部から

好評、「ファミコンゲームブックシリーズ」第3弾、いかがでしたか？ 今回の『ゼルダの伝説』では、主人公が一人で交代に冒険をするという、新しい試みに挑戦してみました。ハッピーエンドにたどりつく確率はごくわずか。あなたは、任務を遂行することができましたでしょうか？

当編集部では、今後とも、ファミコンゲームを素材にしたゲームブックを、次々と発売していく予定です。

つきましては、この本のタイトル、ならびにあなたの年齢を明記して「ゲームブックシリーズ」に対する御意見、御感想をお寄せ下されば幸いです。また、これからゲームブック化して欲しい素材 ゲームブックに対する希望などもお待ちしております。

〈あて先〉〒162 東京都新宿区東五軒町3番28号（株）双葉社「ファミコン冒険ゲームブックシリーズ」編集部

お寄せいただいた方の中から抽選でゲームブックの最新刊をプレゼントいたします。

企画・構成／スタジオ・ハード 樋口明雄

制作／池田美佐 漢那早美 高橋信之

文／樋口明雄

作画／田中夕子

©Nintendo 1986

ファミリーコンピュータ・ファミコンは任天堂の商標です



ゼルダの伝説  
蜃気楼城の戦い

双葉文庫 ファミコン冒険ゲームブックシリーズ④す 02-4

---

昭和61年9月28日 第1刷発行

定価 420円

昭和62年8月1日 第8刷発行

著者 樋口明雄

制作 スタジオ・ハード

発行者 清水文人

発行所 株式会社双葉社

〒162 東京都新宿区東五軒町3番28号

TEL 東京(268)5111(代表)

振替 東京 8-117299

印刷 廉昌堂印刷(株)  
製本 (株)若林製本工場

---

©Akio Higuchi/ST・HARD 1986 Printed in Japan

(落丁・乱丁はお取りかえいたします)

ISBN4-575-76013-7 C0193

## ファミコン冒険ゲームブック

# リンクの冒険／魔界からの逆襲

闇に葬り去つたはずの大魔王ガイア。しかしその魂は滅んではいるなかつた!! ガイアの魂は、リンクとゼルダ姫を過去に呼び寄せたのだ!! 再び、宿敵ガイアを前に、リンクの死闘が始まる。だが、最後にリンクを待ちうけていたのは、想像もしなかつた恐るべき相手だつた!! 『ゼルダの伝説』のヒーロー、リンクが再び大活躍! 今回もキミは、ガノンを倒せるか?!

## ポートピア連続殺人事件

### ——密室殺人の謎——

御存知、バス＆ヤスの名コンビがゲームブックになつて帰つてきた! 悪徳サラ金業者、山川耕三が殺された。さつそく事件究明に乗り出すバス＆ヤスのコンビ。だがさらに、第二、第三の事件が……。キミも、本格的推理ゲームブックに挑戦だ!

発売中  
定価420円

発売中  
定価420円

## ファミコン冒険ゲームブック

# ドラゴンクエスト／蘇る英雄伝説

平和な王国アレフガルドが、ある日突然、怪物の徘徊する魔境と化した。昔、勇者ロトが魔物たちを封じ込めたという光の玉を悪魔の化身・竜王に奪われてしまつたのだ！

ロトの血を引く勇者よ立ち上がり！ 竜王を倒し、光の玉を奪い返すのだ。キミも、大人気のゲームブックに挑戦！ アレフガルドに平和を取りもどすのは、キミだ!!

## ドラゴンクエストII — 悪霊の神々 (上・下) —

爆発の人気『ドラゴンクエスII』が、ゲームブック初の上下巻で登場!! 壮大なストーリー展開とより複雑なゲーム構成で、おもしろさは、絶頂点！

さあ、キミは、この大作を征服することができるか?!

発売中  
定価420円

発売中  
定価420円

ファミコン冒険ゲームブック

# スーパーマリオブラザーズVOL.1 —マリオを救え!—

話題の「スーパーマリオブラザース」ゲームブック、第一弾!  
ファミコン大好き少年のボクは、ある日、マリオのSOSの声を  
聞いた。その瞬間、ファミコンの世界に入り込んでしまったのだ!!  
果たしてキミは、マリオを救うことができるか?!

# スーパーマリオブラザーズVOL.2 —大魔王ネオクッパの挑戦—

大好評、マリオシリーズ、第2弾!!

突然の爆発で、500年近くも未来にタイムスリップしてしまつ  
たマリオ。そこにはなんと、サイボーグ化したネオクッパがいた!!  
果たしてキミは、強大化したクッパを倒すことができるか?!

発売中  
定価350円

発売中  
定価380円

ファミコン冒険ゲームブック

# スーパーマリオブラザーズVOL.3 —マリオ軍団出撃!—

大人気「マリオシリーズ」、いよいよ第三弾、登場!!  
 なんと第二作目で倒したはずのクッパが復活!  
 マリオたちの新たな冒険が始まる。ゲームブック初、三人一組のパーティープレイ。  
 難易度は最高だ。それでもキミは、挑戦するか?!

## 高橋名人のBugつてハニー —ゲーム世界危機一髪—

トイコン・クラブ三人の目の前で、ゲームの中の高橋名人が消えた!!  
 ハニーの導きで、名人を探しにファミコン世界に入り込んだ三人だが……。果たして、名人と三人の運命はいかに!?  
 前作『冒険島』に続いて、今回も高橋名人が大暴れだ!!

発売中  
定価380円

発売中  
定価420円



GAME  
BOOK

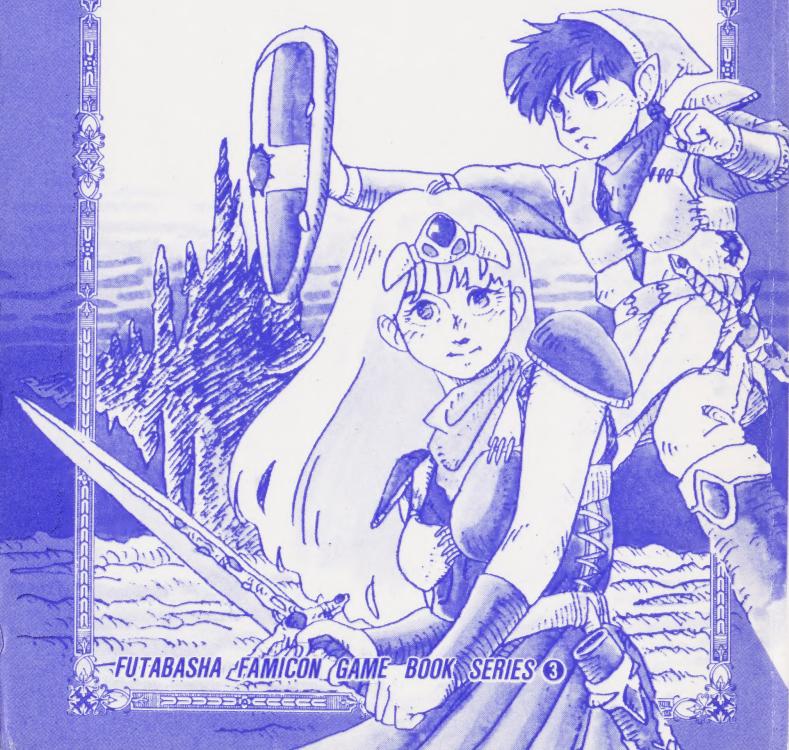
# ゼルダの伝説

魔晄城の戦い

FUTABASHA FAMICON GAME BOOK SERIES ③

# ゼルダの伝説

魔晄城の戦い



FUTABASHA FAMICON GAME BOOK SERIES ③

双葉文庫

## ストーリー

勇者リンクの活躍で、平和をとり戻したハイラル地方。しかし、それも長くは続かなかった。闇の世界から、また新たな敵がやって来たんだ。

そいつの名は、魔将軍ガイア。リンクに敗れて死んだ大魔王ガノンの弟だ。

トライフォースは奪われ、ふたたび魔界と化すハイラル地方。おまけに、リンクとゼルダも、ガイアに呪いをかけられてしまった。日の出と日没をさかに、ふたりは変わる変わる魔法の球クリスタルムーンの中に閉じ込められてしまうんだ。

ガイアの呪いを解き、ハイラルに平和をとり戻す日はいつか!? さあ、新しい冒険への旅立ちだ!!

カバーイラスト/MARUDA  
カバーデザイン/碇 三津子



ファミリーコンピュータ・ファミコンは任天堂の商標です。©Nintendo 1986

ISBN 4-575-76013-7 C0193 ¥420E 定価420円 双葉文庫



FUTABASHA  
GAMEBOOK  
SERIES

ファミコン冒険ゲームブックシリーズのご案内

①スーパーマリオブラザーズ Vol.1 / マリオを救え!

②グラディウス / 未知との戦い

③ゼルダの伝説 / 蝙蝠城の戦い

④謎の村雨城 / 不思議時代の旅

⑤メトロイド / ゼーベス侵入指令

⑥スーパーマリオブラザーズ Vol.2 / 大魔王ネオクッパの挑戦

⑦ドラゴンクエスト / 蘇る英雄伝説

⑧ポートピア連続殺人事件 / 密室殺人の謎

⑨悪魔城ドラキュラ / 古城の死闘

⑩がんばれゴエモン! からくり道中 / 東海道五十三景

⑪高橋名人の冒險島 / ティナを救い出せ!

⑫ミシッピー殺人事件 / リバーボートの冒險

⑬パルテナの鏡 / 神殿の魔を倒せ!

⑭リンクの冒險 / 魔界からの逆襲

⑮所さんんのまもるものせめるも / アクアクア大冒險

⑯さんまの名探偵 / 桂文珍殺人事件

⑰ポケットザウルス / 恐竜島漂流記

⑲月風魔伝 / 魔暦元年の戦い

⑲熱血硬派くにおくん / 番長連合をぶつとばせ!

⑳アルゴスの戦士 / 解かれたる卦印

㉑㉒ドラゴンクエスト II / 悪霊の神々 (上・下)

㉓スーパーマリオブラザーズ Vol.3 / マリオ軍団出撃!

㉔高橋名人のBugってハニー / ゲーム世界危機一髪!